

時間割コード	KB8201	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	陶山 二郎				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

刑事裁判入門

## 授業の概要/Course Overview

刑事裁判に関して刑事法学から考察する。刑事裁判については、裁判官と共に国民が判決に加わる裁判員制度が2009年5月に導入され、10年以上が経過している。国民の「健全な社会常識」を裁判に反映させるという目的で始まったため、「素人」ということが強調されるが、素人であっても、否むしろ素人であるからこそ刑事裁判の基本原則と現実の問題性を理解しておく必要がある。本講義では、刑事法に関する極めて基本的な知識のほか、刑事裁判に関する諸問題のうち、特に捜査に関する諸問題を中心に学修する。

## キーワード/Keyword(s)

国家刑罰権、刑事人権、裁判員制度、冤罪、死刑

## 到達目標/Learning Objectives

まず、刑事裁判に関する問題状況を把握できるようになることを目指す。その上で、刑事裁判に関する憲法上及び刑事訴訟法上の諸原則を理解する。最終的には、刑事法原則に適切に基づいて、刑事裁判の諸問題を分析し、それらの諸問題に関する改善策を自分の言葉で説明できるようになり、かつ他の受講生と刑事裁判に関する諸問題について刑事法の知識を活かして意見交換ができる能力を身に付ける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】ガイダンス【授業外学修】刑事裁判関係のニュース等を見ておくこと(全回共通)。
- 【授業内容】刑事裁判の流れ【授業外学修】講義配布資料の図を読み直してよく理解すること。
- 【授業内容】刑事訴訟の基本原則【授業外学修】教科書1章を読んでおくこと
- 【授業内容】日本における刑事裁判の歴史と現在の問題状況【授業外学修】教科書序章を読んでおくこと
- 【授業内容】司法権の独立【授業外学修】教科書序章と2章を読んでおくこと
- 【授業内容】刑事手続の関与者【授業外学修】教科書2章を読んでおくこと
- 【授業内容】身柄拘束と被疑者取調べ【授業外学修】教科書3章を読んでおくこと
- 【授業内容】新しい捜査方法(45分)、期末試験  
【授業外学修】教科書4章を読んでおくこと、試験出題範囲の内容について、テキスト、レジュメなどで確認しておくこと。  
【アクティブ・ラーニング】毎回講義最後にその回の学修内容に関するペーパーの提出を求める

## 履修上の注意/Notes

- ・予習として事前に教科書を通読しておくことと理解しやすいと思われる。
- ・私語厳禁。

## 情報端末の活用

- ・各条文の参照に活用されたい。
- ・資料の配布等のために講義中にも使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回講義最後に提出するペーパー(70%)と最終回に実施予定の期末試験(30%)で評価する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	歴史に学ぶ刑事訴訟法
著者名	内田博文 編
出版社	法律文化社
出版年	
ISBN	9784589035226
教材費	

備考 参考書: 内田博文編『歴史に学ぶ刑事訴訟法』(法律文化社、2013年)2,800円(税別)

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

**PBL科目**

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語のみ
-------

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8202	ナンバリング	KB-GHS-111-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	高井 美智明（Takai Michiaki）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

会社とは何か

## 授業の概要/Course Overview

意識するにせよ無意識にせよ、会社にかかわりを持たない人は、いない。  
 経済社会の中核をなす会社とは何かを多面的に、すなわち法的、経済学的、経営学的に考察する。

## キーワード/Keyword(s)

企業、会社、法人格、衡平、会社法、市場、株式、株主、有限責任、投資家、所有、取引、利益、資本、利害保持者

## 到達目標/Learning Objectives

- ・会社とはいかなる社会的存在か、について多面的に、すなわち法的、経済学的、経営学的、会計学的に理解できる。
- ・株式会社の基本的メカニズム（法人格、株式、衡平、所有権）を理解できる。
- ・社会に於いて会社はどのような我々と関わり、影響力を有しているのか（有する可能性があるのか）を自分なりのイメージを形成できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス及び、受講生がこれまでに有していた会社に対するイメージの確認。
2. 会社の3要件と会社の種類（会社の法的側面）  
 前回講義の「振り返り」小テスト あり
3. 会社の両義性（ヒトかモノか、法人格）  
 前回講義の「振り返り」小テスト あり
4. 会社から株式会社へ（（R.H.コース学説と所有権--equity--学説））（会社の経済学的側面）  
 前回講義の「振り返り」小テスト あり
5. 株式会社の発生史・発展史（株式の発明--株式とは何か）（会社の経営学的側面）  
 前回講義の「振り返り」小テスト あり
6. 株式会社と利害関係者（株主の有限責任と債権者、従業員、消費者等）（会社と社会）  
 前回講義の「振り返り」小テスト あり
7. 株式会社の財務的評価と非財務的評価（会計学との関連を含む）  
 前回講義の「振り返り」小テスト あり

## 8. (まとめ) あらためて会社とはなにか (45分間) + 【試験】

### 【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

(1) 講義資料等はMS-Teamsの当該授業回チャンネルの「ファイル」にアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

(2) 各授業回(2~7回)で、原則冒頭時間帯に、前回講義内容についての「振り返り」のための小テストをMS-Formsでおこなう。

次回の講義までに、前回の内容を復習しておくこと。

## 履修上の注意/Notes

各授業回(2~7回)に前回講義の「振り返り」小テストをMS-Formsにておこなう。

自作プリント等の教材は、原則、事前にMS-Teamsの当該授業回チャンネルの「ファイル」にアップする。

オフィスアワー：木曜昼休み。これ以外でも大学公式メール、MS-Teamsの個別チャット機能による相談も随時受け付ける(ただし即応できない可能性あり)。

## 情報端末の活用

・MS-Teamsを用いたオンラインの同時双方向授業のため、毎回、オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。

・授業で使用する資料、ファイル等はMS-Teamsの当該授業回チャンネルの「ファイル」にアップしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。

・受講生には、授業中に質問することがあり、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合はTeamsの「会議チャット」により回答を求めることもある。

・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声または、会議チャットにより発言すること。

・オンライン同時双方向授業の特性上生じる可能性がある音声・画像の遅延・大きなノイズなど、授業に著しい障害が発生した場合には、遠慮無く音声か会議チャットで教えていただきたい。その際には授業を一時中断し再開し直すこともある。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。

A : 到達目標の3点を達成している。

B : 到達目標の3点をおおむね達成している。

C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D : C評価の基準に達していない。

## 成績の評価方法/Grading

「振り返り」小テスト30% / クォーター末試験70%のウエイトづけで、合計100% (100点)。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書：指定しない(自作プリントなどを配布する)。 参考書： (絶版・中古あり) 友岡 賛「株式会社とは何か」講談社現代新書No.1388 ¥640+税 加藤 裕則 「会社は誰のものか;経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス」ISBN-10 : 4779171067, - 2020/2/12 ¥1870
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	会社は誰のものか：経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス
著者名	加藤裕則著
出版社	彩流社
出版年	2020
ISBN	4779171067
教材費	1870

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8203	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	大沼 沙樹（Saki Onuma）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

経営管理論入門（経営管理の基礎を学ぶ）

## 授業の概要/Course Overview

本授業では、社会・経済活動の基盤である企業を舞台にして、企業を運営・管理する仕組みについて理解し、現実の経営現象を分析できるようになることを目的とする。特に本授業では、経営学を初めて学ぶ人でも理解が進むように、基本的な用語の解説を加えながら、経営管理の基礎的な視点を理解できるようにする。伝統的な管理論の視点をそのまま覚えるのではなく、現実に行っている課題を通して、どのように企業は活動しているのか、また自身が企業の中でどのように働くのかをイメージしながら理解することで、経営管理の考え方を身につける。

## キーワード/Keyword(s)

企業、組織、管理、企業規模、業界、海外進出、生産性向上、人間関係、協働

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 経営管理に関する理論・概念を理解し、基本的な考え方を身につけられる。
- (2) 現実の経営問題について、学んだ知識を基に自分で考え、自分の言葉で表現し、分析できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 第1回 インTRODクシヨソ

- ・授業の進め方の説明、扱うトピックの紹介

### 第2回 管理とは

- ・企業を管理するとはどういうことか、基本的な考え方や用語について解説する。

### 第3回 企業とは：規模や業界、法律の視点から

- ・企業に対して持つイメージは様々あるが、企業の大きさ、業界、法律といった視点から企業をどのように捉えられるかを解説する。

### 第4回 企業とは：活動範囲の視点から

- ・企業の海外市場への進出について取り組み事例を見ながら、現状や経営管理の難しさを考える。

### 第5回 作業能率をいかに向上させるか？：科学的管理法の視点から

- ・限られた時間や労力の中で、効率的に企業の生産性を上げるための具体的な管理方法について考える。

### 第6回 人は効率性だけで動くのか？：人間関係論の視点から

- ・人は機械のように作業を淡々とこなせるのか？という視点から、精神面や感情の役割を考える。

### 第7回 個人の管理から組織の管理へ：近代的な管理論の視点から

- ・複数の人々が協働し、成果を上げるために必要なことは何かを考える。

### 第8回 内容の総括とまとめの確認テスト

- ・内容の総括（45分）とまとめの確認テストを行う。

【授業外学修】



(1) 事前にアップされたPowerPointの資料を事前に読み、その中で気になった用語について書籍やインターネットを用いて調べて授業に臨むとより一層理解が深まると思われるので、実施することが望ましい。

(2) 日ごろからニュースや新聞、雑誌、参考文献など様々な媒体から情報を収集し、得た知識を現実問題にどのように応用できるか、自分で考え、積極的に深い知識を得られるように努めること。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

中間レポートを実施する（オンライン上で提出）。新聞、ビジネス雑誌、映像資料等を用いた事例の紹介も交えつつ、学んだテーマに関して自分の主張や考えをまとめて書き、相手に伝える練習をする。また、Formsを用いて全体に質問を投げかけ共有するので、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることで相互に理解を深める。

## 履修上の注意/Notes

(1) 本授業は、経済・経営学メジャー以外の学生で、経営学を専門としていない学生を主に対象とした授業構成となっている。そのため、経営管理論をより専門的に学びたい人は、本授業ではなく、担当教員の専門科目「経営管理論 I」の履修を勧める。

(2) 遅刻を30分以上すると内容の理解が難しくなるので避けること。

(3) 事前に授業資料をMS Teamsやmanaba上にアップするので、自分自身でダウンロードすること。

(4) 授業内で全体へ度々問いかけをするので、自分だったらどのように考えるかを常に念頭に置いて、授業に参加すること。

(5) 受講生の理解度や進捗に応じて授業計画を変更することもある。

(6) 教科書は指定しないが、参考文献や資料を適宜授業中に紹介する。

## 情報端末の活用

MS Teamsやmanabaを使用します。授業及び授業外の学修や履修上の注意欄を参照してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の2点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の2点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の2点について最低限のレベル以上において達成されている。

D：経営管理の基本的な知識や考え方を理解できておらず、到達目標が全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

確認テスト60%、中間レポート40%

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営管理論
著者名	上野泰裕・馬場大治編著
出版社	中央経済社
出版年	2016
ISBN	
教材費	2400

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8204	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	柴原 宏一（Shibahara Kouichi）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

Society5.0とデザイン思考

## 授業の概要/Course Overview

○第5期科学技術基本計画で示されたSociety5.0。予測不可能なこれからの時代を見据え、専攻分野についての専門性を有することは勿論ですが、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質・能力を有する人材が求められています。すなわち、変化を受容し、ジレンマを克服しながらも新しい価値を創造し、様々な分野で多様性を持って活躍できる人材が必要とされているのです。このような考えに至る背景等の理解をとおして、求められる人材像について、ともに考え学びます。

○授業は、テーマに沿った事前学修資料や講義を基にしたグループでの討論や発表をとおして、理解の深化を図ります。

○授業中に、適宜、アンケートやミニレポート(小テスト)等を実施します。

○授業後に、授業外学修として、振り返りを目的とした課題の提出を求めます。

○Teamsを用いた授業なので、パソコン等のICT端末は毎回持参してください。

○毎回、TeamsのChatをとおして意見交換を行います。講義時にはクラス全員と、グループワーク時にはグループのメンバーと意見交換します。

○グループワーク時には、グループのメンバーが協働で、Word、Excel、PowerPoint等を用いた資料の作成をすることもあります。

## キーワード/Keyword(s)

Society5.0、デザイン思考、STEAM、アントレプレナーシップ、イノベーション

## 到達目標/Learning Objectives

- 【理解】毎回のテーマに関する基本的事項について理解している。
- 【構築】配布資料を基に、自分の考えを構築することができる。
- 【発信】自分の考えを、プレゼンテーションで発表することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### ■授業■

【第1回】：授業の進め方について/Society1.0からSociety4.0(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○資料を用いて、授業の進め方、授業中の演習等への回答方法、授業後の課題の提出等について説明します。

○Society1.0からSociety4.0までを概観し、その時々求められた資質・能力について考えます。

【第2回】：Society5.0(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○Society5.0についての理解を深め、求められる人材像について考えます。

【第3回】：49%がAIやロボットに？(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○今後、日本の労働人口の49%がAIやロボットに代替されてしまうという研究があります。そのような中、どのような資質・能力を身に付け

ることが求められるのかについて考えます。

【第4回】：学校ver.1.0から学校ver.3.0へ(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○Society1.0からSociety5.0へと変化する中、教育はどう変わったのか、そして今後どう変わることが期待されているのかについて考えます。

【第5回】：STEAMとデザイン思考(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○これからの時代を生きていく上でのキーワードであるSTEAMとデザイン思考について考えます。

【第6回】：アントレプレナーシップとデザイン思考(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○アントレプレナーシップの概念とデザイン思考について、求められる時代背景等とともに考えます。

【第7回】：これから「どう学ぶか」(講義、グループ討議・発表・質疑、演習)

○第1回から第6回の授業を基に、グループとして一つのテーマを設定し、メンバーの一人一人が個別の内容を分担する協働作業により、PowerPointによるプレゼンテーション資料を作成します。

【第8回】：これから「どう学ぶか」(発表：45分)

○グループごとに、第7回授業で作成したPowerPointによるプレゼンテーションを行い、質疑応答を行います。

○試験は実施しません。

#### ■学修外学習■

○第1回～第7回の授業前に、事前資料による予習(2時間)が必要です。

○第1回～第7回の授業後に、授業の振り返りを目的とした課題(2時間)の提出があります。

○第8回授業前に、プレゼンテーション資料の作成(2時間)があります。

## 履修上の注意/Notes

○グループワークの都合上、遅刻は(やむを得ない場合を除き)厳禁です。

○第1回～第8回で出席が5回に満たない者は、原則として評価の対象としません。

○オンライン(Teams)を活用したハイフレックス型授業なので、毎回パソコン等のICT機器を使用します。

○オンラインによる発話があるので、ハウリングの防止及び飛沫拡散防止のため、ヘッドセットかイヤフォンを用意してください。

## 情報端末の活用

○毎回。授業時にはパソコン等のICT機器を使用します。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：【理解】【構築】【発信】の到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A：【理解】【構築】【発信】の到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。

B：【理解】【構築】【発信】の到達目標と学修成果を概ね達成している。

C：【理解】【構築】【発信】の合格と認められる最低限の到達目標に届いている。

D：【理解】【構築】【発信】の到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

授業中のミニレポート・小テスト等(60点・24.0%)及びグループワーク等(80点・32.0%)、課題の発表(40点・16.0%)、授業外学修課題の提出(70点・28.0%)の250点満点を、100点満点に換算(小数点以下切り上げ)して評価します。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	特に指定しません
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	授業時に、適宜紹介します。
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語

### 実務経験のある教員による授業科目

教諭経験がある教員が、その経験を活かして授業を実施する。

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8205	ナンバリング	KB-GHS-113-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

Communication in Global Context A

## 授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students learn about basics of communication studies. Lecture will cover a wide range of areas from “interpersonal communication” between individuals to “mass communication” for people in society as a whole. Also, it acquire cross-cultural understanding and communication skills through conducting international comparison and cultural comparison.

## キーワード/Keyword(s)

Communication, intercultural comparison, cross-culture, interpersonal communication, mass communication

## 到達目標/Learning Objectives

The first goal is to develop the ability to interact with diverse people, and the second goal is to gain an overall picture of communication and to acquire ideas about oneself, others, and society. The final goal is to improve the skills of interpersonal relationships that are needed as an individual living in modern society.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. Verbal communication
3. Non-verbal communication
4. Interpersonal communication
5. Environment where people live
6. Within group communication
7. Between group communication
8. Mechanism of mind and society, individual and society (1Q summary session)

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Submit small quiz after each class.

## 履修上の注意/Notes

This course will be mainly lecture. Basically, this course will be conducted in English but student are welcome to ask questions via email at anytime.

If you miss a short report or short quiz, it will be counted as an absent.

## 情報端末の活用

PC等活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of communication.  
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of communication.  
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of communication.  
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of communication.  
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of communication.

## 成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Quiz 40 %, Final Exam 60 %.

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日英併用
------



---

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8206	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

都市と地域の社会学

## 授業の概要/Course Overview

現代の都市や地域の課題に関する歴史をふまえつつ、都市や地域という単位で問題化される諸課題の成立・展開を学ぶ。その上で、近年の社会的変遷との関連を検討し、都市や地域の課題に共通して見出される社会構造へ考え至ることができるよう取り組む。具体と抽象を往復しつつ、自身の地域との関係をふりかえり、整理することで、様々な社会的課題の分析や解決策の検討を進められることを目指す。

## キーワード/Keyword(s)

都市、地域、地域集団、グローバリゼーション、コミュニティ

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 都市と地域の問題について、エビデンスに基づいた思考ができる。
- (2) 社会的変遷と都市や地域の問題を対応させて、社会構造の観点から考えることができる。
- (3) 社会的課題に対応する分析や解決策の検討を進めていくことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、都市や地域という単位で考えること
- 第2回 都市の変遷からみる都市化にともなう課題
- 第3回 産業の変遷からみる都市と地域の問題～Society 5.0による区分ごとの課題
- 第4回 日本における都市と地域の問題の変遷
- 第5回 都市と地域の問題に抗う担い手～地域集団の役割
- 第6回 グローバリゼーションと都市と地域の問題～物と人の移動による変化
- 第7回 都市と地域の問題は自身とどのように関わっている／いないとしてきたのか
- 第8回 グローカル社会における都市と地域の問題の分析と解決策（総括）

### 【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、都市や地域に関する情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

## 履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

## 情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B : 到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C : 到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D : 到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	都市と地域の社会学
著者名	森岡清志, 北川由紀彦編著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2018
ISBN	9784595318856
教材費	2640

### 参考書2

書名	新版キーワード地域社会学
著者名	地域社会学会編
出版社	ハーベスト社
出版年	2011
ISBN	9784863390287
教材費	

### 参考書3

書名	都市のリアル
著者名	吉原直樹, 近森高明編
出版社	有斐閣
出版年	2013

ISBN	9784641173927
教材費	

参考書4

書名	郊外の社会学：現代を生きる形
著者名	若林幹夫著
出版社	筑摩書房
出版年	2007
ISBN	9784480063502
教材費	792

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8207	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	陶山 二郎				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

刑事訴訟法入門

## 授業の概要/Course Overview

刑事裁判に関して刑事法学から考察する。刑事裁判については、裁判官と共に国民が判決に加わる裁判員制度が2009年5月に導入され、10年以上が経過している。国民の「健全な社会常識」を裁判に反映させるという目的で始まったため、「素人」ということが強調されるが、素人であっても、否むしろ素人であるからこそ刑事裁判の基本原則と現実の問題性を理解しておく必要がある。本講義では、刑事訴訟法に関する極めて基本的な知識のほか、刑事裁判に関する諸問題のうち、特に公判に関する諸問題を中心に学修する。

## キーワード/Keyword(s)

国家刑罰権, 刑事人権, 裁判員制度, 冤罪, 死刑

## 到達目標/Learning Objectives

まず、刑事裁判に関する問題状況を把握できるようになることを目指す。その上で、刑事裁判に関する憲法上及び刑事訴訟法上の諸原則を理解する。最終的には、刑事法原則に適切に基づいて、刑事裁判の諸問題を分析し、それらの諸問題に関する改善策を自分の言葉で説明できるようになり、かつ他の受講生と刑事裁判に関する諸問題について基礎的な刑事訴訟法の知識を活かして意見交換ができる能力を身に付ける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】ガイダンス【授業外学修】刑事裁判関係のニュース等を見ておくこと(全回共通)。
- 【授業内容】公訴の提起【授業外学修】教科書5章を読んでおくこと
- 【授業内容】国民の司法参加【授業外学修】教科書6章1～5を読んでおくこと
- 【授業内容】証拠法【授業外学修】教科書6章6～8を読んでおくこと
- 【授業内容】事実認定【授業外学修】教科書7章を読んでおくこと
- 【授業内容】刑事手続の関与者【授業外学修】教科書2章を読んでおくこと
- 【授業内容】上訴・再審【授業外学修】教科書8章を読んでおくこと
- 【授業内容】刑事手続と国際人権(45分), 期末試験  
【授業外学修】教科書9章を読んでおくこと, 試験出題範囲の内容について, テキスト, レジюмеなどで確認しておくこと。  
【アクティブ・ラーニング】毎回講義最後にその回の学修内容に関するペーパーの提出を求める

## 履修上の注意/Notes

- ・予習として事前に教科書を通読しておくことと理解しやすいと思われる。
- ・私語厳禁。

## 情報端末の活用

- ・各条文の参照に活用されたい。
- ・資料の配布等のために講義中にも使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 刑事裁判の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 刑事裁判の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 刑事裁判の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 刑事裁判の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 刑事裁判の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回講義最後に提出するペーパー(70%)と最終回に実施予定の期末試験(30%)で評価する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	歴史に学ぶ刑事訴訟法
著者名	内田博文 編
出版社	法律文化社
出版年	
ISBN	9784589035226
教材費	2800

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○

### PBL科目

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語のみ
-------

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------



時間割コード	KB8208	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	高井 美智明（Takai Michiaki）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

コーポレートガバナンス入門

## 授業の概要/Course Overview

株式会社の不祥事に際して株式会社の社会的責任、ガバナンスという言葉に耳にするだろう。それでは、株式会社は誰がコントロールしているのだろうか。いくら規制を強化しても不祥事はなくなるのはなぜだろうか。そこで、株式会社の統治（ガバナンス）について考察する。さらに我が国の株式会社のコーポレートガバナンスの今後についても展望しよう。

## キーワード/Keyword(s)

株式会社、会社統治、コーポレートガバナンス、会社は誰のものか、会社法、金融商品取引法、経営者、株主、債権者、投資家、株主総会、取締役会、社外取締役、監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社

## 到達目標/Learning Objectives

- ・株式会社の株主、経営者それぞれの役割・機能について理解できる。
- ・日本に影響を与えたドイツ・米国の会社統治について理解できる。
- ・我が国の会社統治の仕組み、コーポレートガバナンスに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、経済社会と株式会社との共存を自分なりにイメージできる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. （ガイダンス） + 会社の社会的責任とはなにか（会社に `社会的、責任はあるのか）
2. 株式会社は誰のものか---会社法の観点から---  
前回講義の「振り返り」小テスト あり
3. 株式会社は誰のものか---経営者の観点から---  
前回講義の「振り返り」小テスト あり
4. 株式会社の財産・利益は誰のものか---会計の観点から---  
前回講義の「振り返り」小テスト あり
5. ドイツ・米国の株式会社統治---我が国の原点---  
前回講義の「振り返り」小テスト あり
6. 我が国の株式会社統治---株主総会、取締役会、監査役会---  
前回講義の「振り返り」小テスト あり

7. 我が国の株式会社統治---監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社---  
前回講義の「振り返り」小テスト あり

8. (まとめ) これからの我が国の株式会社統治の展望 (45分間) + 【試験】

#### 【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

(1) 講義資料等はMS-Teamsの当該授業回チャンネルの「ファイル」にアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

(2) 各授業回 (2~7回) で、原則冒頭時間帯に、前回講義内容についての「振り返り」のための小テストをMS-Formsでおこなう。  
次回の講義までに、前回の内容を復習しておくこと。

## 履修上の注意/Notes

各授業回 (2~7回) に前回講義の「振り返り」小テストをMS-Formsにておこなう。

自作プリント等の教材は、原則、事前にMS-Teamsの当該授業回チャンネルの「ファイル」にアップする。

オフィスアワー：木曜昼休み。これ以外でも大学公式メール、MS-Teamsの個別チャット機能による相談も随時受け付ける (ただし即応できない可能性あり)。

## 情報端末の活用

・MS-Teamsを用いたオンラインの同時双方向授業のため、毎回、オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。

・授業で使用する資料、ファイル等はMS-Teamsの当該授業回チャンネルの「ファイル」にアップしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。

・受講生には、授業中に質問することがあり、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合はTeamsの「会議チャット」により回答を求めることもある。

・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声または、会議チャットにより発言すること。

・オンライン同時双方向授業の特性上生じる可能性がある音声・画像の遅延・大きなノイズなど、授業に著しい障害が発生した場合には、遠慮無く音声か会議チャットで教えていただきたい。その際には授業を一時中断し、再開し直すこともある。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。

A : 到達目標の3点を達成している。

B : 到達目標の3点をおおむね達成している。

C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D : C評価の基準に達していない。

## 成績の評価方法/Grading

「振り返り」小テスト30% / クォーター末試験70%のウエイトづけで、合計100% (100点)。

## 教科書/Textbook(s)

<b>備考</b>	教科書：指定しない（自作プリントなどを配布する）。 参考書： （絶版・中古あり）岩井 克人「会社はだれのものか」平凡社 ￥1400+税 加藤 裕則 「会社は誰のものか;経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス」ISBN-10：4779171067，？ 2020/2/12, ￥1,870
-----------	--

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

<b>書名</b>	会社は誰のものか：経済事件から考えるコーポレート・ガバナンス
<b>著者名</b>	加藤裕則著
<b>出版社</b>	彩流社
<b>出版年</b>	2020
<b>ISBN</b>	4779171067
<b>教材費</b>	1870

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8209	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	大沼 沙樹（Saki Onuma）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

経営管理論入門（日本的経営を学ぶ）

## 授業の概要/Course Overview

本授業では、社会・経済活動の基盤である企業を舞台にして、企業を運営・管理する仕組みについて理解し、現実の経営現象を分析できるようになることを目的とする。特に本授業では、初学者でも理解が進むように、日本企業で近年課題となっているトピックを取り上げて、経営管理の視点から考えていく。伝統的な管理論の視点をそのまま覚えるのではなく、現実に行っている課題を通して、どのように企業は活動しているのか、また自身が企業の中でどのように働くのかをイメージしながら理解することで、経営管理の考え方を身につける。

## キーワード/Keyword(s)

企業、組織、働き方の変化、ICT、チームワーク、人の処遇、不祥事

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 経営管理に関する理論・概念を理解し、基本的な考え方を身につけられる。
- (2) 現実の経営問題について、学んだ知識を基に自分で考え、自分の言葉で表現し、分析できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 第1回 インTRODクション

・授業の進め方の説明、扱うトピックの紹介

### 第2回 働き方の変化：場所

・在宅勤務や職場以外の場所を活用した働き方の現状や意義について解説する。

### 第3回 働き方の変化：時間や方法

・労働時間の有効な活用の取り組み、ICTの活用による新たな働き方の現状について解説する。

### 第4回 働き方の変化：人の多様化

・多様な人材の活用が企業にもたらす効果や企業の取り組みについて解説する。

### 第5回 チームワーク

・日本企業はチームワークを得意とするのか？という視点から、多様な人々の管理について解説する。

### 第6回 人の処遇

・日本企業における人事の仕組みと働き方に伴う変化について解説する。

### 第7回 組織文化と企業倫理

・なぜ不祥事はなくならないのか？という問いに、企業の雰囲気やカラーが及ぼす影響について解説する。

### 第8回 内容の総括とまとめの確認テスト

・内容の総括（45分）とまとめの確認テストを行う。

### 【授業外学修】

- (1) 事前にアップされたPowerPointの資料を事前に読み、その中で気になった用語について書籍やインターネットを用いて調べて授業に臨む

とより一層理解が深まると思われるので、実施することが望ましい。

(2) 日ごろからニュースや新聞、雑誌、参考文献など様々な媒体から情報を収集し、得た知識を現実問題にどのように応用できるか、自分で考え、積極的に深い知識を得られるように努めること。各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

中間レポートを実施する（オンライン上で提出）。新聞、ビジネス雑誌、映像資料等を用いた事例の紹介も交えつつ、学んだテーマに関して自分の主張や考えをまとめて書き、相手に伝える練習をする。また、Formsを用いて全体に質問を投げかけ共有するので、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることで相互に理解を深める。

## 履修上の注意/Notes

(1) 本授業は、経済・経営学メジャー以外の学生で、経営学を専門としていない学生を主に対象とした授業構成となっている。そのため、経営管理論をより専門的に学びたい人は、本授業ではなく、担当教員の専門科目「経営管理論Ⅰ」の履修を勧める。

(2) 遅刻を30分以上すると内容の理解が難しくなるので避けること。

(3) 事前に授業資料をMS Teamsやmanaba上にアップするので、自分自身でダウンロードすること。

(4) 授業内で全体へ度々問いかけをするので、自分だったらどのように考えるかを常に念頭に置いて、授業に参加すること。

(5) 受講生の理解度や進捗に応じて授業計画を変更することもある。

(6) 教科書は指定しないが、参考文献や資料を適宜授業中に紹介する。

## 情報端末の活用

MS Teamsやmanabaを使用します。授業及び授業外の学修や履修上の注意欄を参照してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の2点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の2点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の2点について最低限のレベル以上において達成されている。

D：経営管理の基本的な知識や考え方を理解できておらず、到達目標が全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

確認テスト60%、中間レポート40%

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営管理論
著者名	上野泰裕・馬場大治編著
出版社	中央経済社
出版年	2016
ISBN	
教材費	2400

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8210	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

仕事を考える

## 授業の概要/Course Overview

社会や職業について視野を広め自分の将来と大学時代の在り方について考える。業界研究や企業研究を通じて雇用社会を知り、自分のやりたい仕事を見つけ、今後の職業選択や大学での勉学の在り方、さらに地方創生について考えていくことをねらいとする。

## キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

## 到達目標/Learning Objectives

授業で取り上げた職業や業界の理解をとおして社会の動向に興味関心を持つとともに、働くイメージを持ってそれに向かって必要なことを理解し、専門科目の学修につなぐことができる。また、地域の課題を知り、働くことの社会的役割を自覚することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

授業の概要、進め方、スケジュールの説明、大学生がキャリアを考えることの意味

第2回：「働くルール」を知る、雇用の多様化、働く意義、正社員/非正社員

茨城県で働くことの意義を考える、グローバルに活躍する意義を考える

第3回：キャリア理論、自己分析、こだわる労働条件を考える

大学生活での目標や行動計画、学びの動機づけ、キャリアプランニング

第4回：多様な職業について知る①（勤務地限定のない仕事）

業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る

第5回：多様な職業について知る②（地元就職を考える）

業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る

第6回：社会の現状とこれからの就職を考える

自らのキャリア形成を計画する。進学、就職活動を考える

第7回：大学での学びを考える

将来の仕事と大学での学びを考える

第8回：まとめ、総合レポート（第8回後半45分）

### 【授業外学修】

- （1）事前に職業や地域社会について調べておくことが求められます
- （2）多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。
- （3）キャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。



各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

- (1) 他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) 各回レポートを通じて自分の考えを整理します。

## 履修上の注意/Notes

※重要：教務情報ポータルシステム「講義資料」から、Web授業Teamsを接続するための「コード」を確認してください。また、授業開始の直前に当日資料を追加します。

※パワーポイント資料及びWeb授業Teamsを利用して双方向の授業を実施します。授業内アンケートやレポートの提示を支持します。

※遅刻の度合いに応じて欠席とみなす場合があります。

## 情報端末の活用

「履修上の注意点」を参照してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C : 仕事と社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D : 仕事と社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

成績評価は平常評価（授業への積極的参加及び各回レポート等）70%、期末総合レポート30%を合算して総合評価します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
----	--------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

--

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する担当教員が業界研究や企業研究を通じて講義を行います。

## 実践的教育から構成される授業科目

実践的教育としてキャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8211	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

社会貢献論

## 授業の概要/Course Overview

社会貢献はあらゆる人・組織にとって最も重要なテーマであるが、その社会貢献を組織立って行うには様々な立場（セクター）でのアプローチが考えられる。ここでは、そのための手段として営利組織（企業）、非営利組織（NGO/NPO）、協同組合、それぞれの組織形態の特徴を踏まえた社会貢献について考えていく。

## キーワード/Keyword(s)

社会貢献、営利組織（企業）、CSR・CSV、非営利組織（NGO/NPO）、協同組合

## 到達目標/Learning Objectives

- （1）企業、NGO/NPO、協同組合それぞれの特徴と役割について理解している。
- （2）企業、NGO/NPO、協同組合それぞれの特徴を活かした身近な社会貢献について理解している。
- （3）企業、NGO/NPO、協同組合それぞれによる、より良い社会づくりの可能性について、自分の言葉で説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、社会貢献をするための様々な組織について、  
 NGO/NPOと社会貢献①（NGO/NPOとは何か、NGO/NPOの役割と特徴）（オンライン授業（Zoom））
- 第2回：NGO/NPOと社会貢献②（外部講師による講義）（オンライン授業（Zoom））
- 第3回：NGO/NPOと社会貢献③（NGO/NPOによるより良い社会づくりの可能性）（オンライン授業（Zoom））
- 第4回：企業と社会貢献①（企業とは何か、企業の役割と特徴、CSR・CSV）（オンライン授業（Zoom））
- 第5回：企業と社会貢献②（外部講師による講義）（オンライン授業（Zoom））
- 第6回：企業と社会貢献③（企業によるより良い社会づくりの可能性）（オンライン授業（Zoom））
- 第7回：協同組合と社会貢献①（外部講師による講義、協同組合によるより良い社会づくりの可能性）（オンライン授業（Zoom））
- 第8回：授業のまとめ（45分）（オンライン授業（Zoom））

\*外部講師との調整により、順番が変わることもある

### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。
- ・企業、NGO/NPO、協同組合と社会貢献について各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。
- ・各回の外部講師については事前にアナウンスをするので、各自その講師の経歴・事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考えておくこと。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1, 3, 4, 6, 8回については, Zoomのブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッションを行う。
- (2) 第2, 5, 7回については, 外部講師による講義後、質疑応答を行う。
- (3) また, 毎回の授業終了時は, FORMSによるふりかえりコメント提出を行い、理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

- (1) オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。
- (2) 最終レポートについては, manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。  
A : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。  
B : 到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。  
C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。  
D : 到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回授業最後に提出するふりかえりコメント(50%)と最終レポート(50%)とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。
----	-------------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	CSR経営パーフェクトガイド
著者名	川村雅彦 著
出版社	Nanaブックス
出版年	2015
ISBN	9784904899465
教材費	1980

### 参考書2

書名	ボランティア・NPOの組織論：非営利の経営を考える
著者名	田尾雅夫, 川野祐二編著 ; 伊佐淳 [ほか] 著
出版社	学陽書房
出版年	2004
ISBN	4313815082
教材費	2200

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8212	ナンバリング	KB-GHS-113-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

Communication in Global Context B

## 授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students learn about basics of communication studies. Lecture will cover a wide range of areas from “interpersonal communication” between individuals to “mass communication” for people in society as a whole. Also, it acquire cross-cultural understanding and communication skills through conducting international comparison and cultural comparison.

## キーワード/Keyword(s)

Communication, intercultural comparison, cross-culture, interpersonal communication, mass communication

## 到達目標/Learning Objectives

The first goal is to develop the ability to interact with diverse people, and the second goal is to gain an overall picture of communication and to acquire ideas about oneself, others, and society. The final goal is to improve the skills of interpersonal relationships that are needed as an individual living in modern society.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. Mechanism of mind and society, individual and group (2Q review session)
3. What is Cross-culture? Culture and identity
4. Cultural characteristics and values
5. Cross-cultural communication
6. Media communication
7. Social network
8. Summary

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Small quiz after each class.

## 履修上の注意/Notes

This course will be mainly lecture. Basically, this course will be conducted in English but student are welcome to ask questions via email at anytime.

If you miss a short report or short quiz, it will be counted as an absent.

## 情報端末の活用

PC等活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of communication.  
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of communication.  
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of communication.  
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of communication.  
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of communication.

## 成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Quiz 40 %, Final Exam 60 %.

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日英併用
------

---

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8213	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

生涯学習社会における思考

## 授業の概要/Course Overview

生涯学習社会における教育や学習について考えるという立場から、様々な教育機会や多文化共生について認識をもち、生涯学習社会の理解を深めていく。学校教育、社会教育、家庭教育どうしの関連や、それらと地域社会との関係に注目しつつ、自分の学習歴との関係を改めて考えていくことで、生涯学習社会における教育や学習のあり方を把握し、構想していく力量を高めることを目標とする。

## キーワード/Keyword(s)

生涯学習、教育機会、多文化、学習歴

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 生涯学習の観点から、自身の学習歴を説明できる。
- (2) 生涯学習の観点から、自他の学習歴を整理し、説明することができる。
- (3) 生涯学習社会における教育や学習について具体例を示しつつ、説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、生涯学習社会という前提を考えること
- 第2回 教育の変遷からみる生涯学習
- 第3回 産業の変遷からみる教育と学習～Society 5.0による区分ごとの課題
- 第4回 日本における生涯学習の変遷
- 第5回 学校教育、社会教育、家庭教育の連携～地域社会で考えること
- 第6回 多文化とグローバリゼーション～文化の多様性と理解
- 第7回 生涯学習社会の視点から自身の学習歴を整理する
- 第8回 生涯学習社会における教育や学習のあり方の検討と展開（総括）

### 【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、生涯学習に関する情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

## 履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

## 情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	現代の生涯学習
著者名	岩永雅也著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2012
ISBN	9784595313318
教材費	2750

### 参考書2

書名	多文化社会の社会教育：公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」
著者名	渡辺幸倫編著；川村千鶴子 [ほか] 著
出版社	明石書店
出版年	2019
ISBN	9784750348094
教材費	2750

### 参考書3

書名	社会教育・生涯学習辞典
著者名	社会教育・生涯学習辞典編集委員会編集
出版社	朝倉書店
出版年	2012

ISBN	9784254510331
教材費	

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8401	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	今川 奈緒				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法と人権I

## 授業の概要/Course Overview

・何らかのかたちで「人権」という言葉にふれたことがある人は多いと思う。「人権擁護」、「人権侵害」等、保護されることを前提に「人権」について語られることが多いが、はたしてその根拠はどこにあるのであろうか。本講義では、法的に保護されるべき「人権」の内容、そしてその保護の方法について理解できるようにする。

・教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権II」(担当：今川奈緒)と合わせて2単位を取得すること。

## キーワード/Keyword(s)

日本国憲法、基本的人権

## 到達目標/Learning Objectives

憲法と人権I(今川担当)では、基本的人権について総論的に学ぶこととする。本講義で憲法と人権についての基本理論を学んだ後、憲法と人権II(今川担当)では、実際の問題への法の適用方法について学んでいく。単元ごとに実際の事件を基にした設題を提示する。講義を聴きながら解答を考えることで、各人権の法的な理論についての理解を深めていく。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 包括的基本権と法の下での平等
- 第3回 精神的自由権(1)—思想・良心の自由・信教の自由と政教分離
- 第4回 精神的自由権(2)—信教の自由と政教分離
- 第5回 精神的自由権(2)—表現の自由
- 第6回 人身の自由・経済的自由
- 第7回 社会権—生存権・教育権
- 第8回 参政権・国務請求権・国民の義務(45分)、期末試験

### 【授業外学修】

(1)各単元ごとに、事例と設問を示したうえで、その解答を考えながら日本国憲法の基礎知識について学ぶ予定である。授業の際に、次回の授業で扱う事例と設問を提示するので、該当範囲の参考書等を読んでおくことが望ましい。

(2)授業の際に配布したレジュメを基に、参考書やD1-LAW(法律情報のデータベース)を用いて、学修を進めること。不明な点については、授業中に配布する出席カードに質問を記述してほしい。次回の授業開始時に質問に対する回答の時間を設けるので、わからないことをそのままにしないこと。

(3)各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

理解度の確認を行うために、授業期間内に2～3回、授業内で扱った設例の応用問題を解いてもらう予定である。

## 履修上の注意/Notes

- ・授業の單元ごとにレジュメを配布しますが、参考書等を併用して学習を進めてください。
- ・授業開始後30分を経過してからの入室は遅刻とみなします。遅刻2回=1欠席とします。

## 情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータル、あるいはmanabaで配信します。詳細については、初回授業時に説明をします。
- ・小テストや課題については、教務情報ポータル、あるいはmanabaを通じて提出していただきます。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：基本的人権についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- A：基本的人権の基本的な知識と考え方を修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- B：基本的人権の基本的な知識と考え方を概ね修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- C：基本的人権の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、法的な観点に基づき説明できている。。
- D：基本的人権の基本的な知識と考え方が修得できていない。

## 成績の評価方法/Grading

- ・教場での試験が可能な場合は、期末試験100%。
- ・教場での試験が難しい場合は、小テスト・小レポートに基づき評価します（各25点×4回）。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書の指定はありません。授業毎にレジュメを配布します。
----	------------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	いちばんやさしい憲法入門第6版
著者名	初宿正典 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2020
ISBN	4641221502
教材費	1760

### 参考書2

書名	憲法1 人権第7版
著者名	渋谷秀樹[ほか]著
出版社	有斐閣

出版年	2019
ISBN	4641221278
教材費	2310

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8402	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L S (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	今川 奈緒				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法と人権Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

- ・ 基本的人権Ⅰ(担当:今川奈緒)で学んだ人権の基本理論を踏まえ、人権にかかわる紛争解決の方法について学んでいく。基本的人権に関する重要な判例を素材として講義を進める予定である。したがって、本講義では公法上の争訟の仕組みについて学んだうえで、判例の検討を進めることとする。最終的には、憲法の理論を学ぶ上での判例のあり方について理解できるようになる。
- ・ なお、本授業の後半では、統治制度の基礎について学ぶこととする。
- ・ 教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権Ⅰ」(担当:今川奈緒)と合わせて2単位を修得すること。

## キーワード/Keyword(s)

判例研究、行政事件訴訟、国家賠償、統治制度、基本的人権、自己決定権、新しい人権

## 到達目標/Learning Objectives

- ・ 本授業の目的は、各人権の法的な救済方法についての理解を深めることである。授業毎に実際の事件を基にした設題を提示するので、講義を聞いたうえで、各自解答を考えてほしい。公法上の争訟の仕組み、保障される権利の性質を理解すること、憲法の役割について自分なりの見解を示せるようになることが、本授業の到達目標である。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 公法上の紛争解決の仕組み
  - 第3回 基本的人権に関する基本判例についての検討
  - 第4回 自己決定権に関する判例についての検討
  - 第5回 新しい人権についての検討
  - 第6回 統治の原理
  - 第7回 統治のシステム①—議会・内閣・裁判所
  - 第8回 統治のシステム②—地方自治・憲法改正
- \* 期末試験は行わず、レポートを課します。

### 【授業外学修】

- (1)各単元ごとに、事例と設問を示したうえで、その解答を考えながら日本国憲法の基礎知識について学ぶ予定である。授業の際に、次回の授業で扱う事例と設問を提示するので、該当範囲の参考書等を読んでくることが望ましい。
- (2)授業の際に配布したレジュメを基に、参考書やD1-LAW(法律情報のデータベース)を用いて、学修を進めること。不明な点については、授

業中に配布する出席カードに質問を記述してほしい。次回の授業開始時に質問に対する回答の時間を設けるので、わからないことをそのままにしないこと。

(3)各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

・理解度の確認を行うために、授業内で扱った設例の応用問題を解いてもらう予定である。

## 履修上の注意/Notes

- ・授業期間内に課すレポート(70%)、および授業時間中に課す応用問題への解答(30%)により評価します。
- ・授業開始後30分以上の遅刻が2回あった場合は、欠席1回に該当します。

## 情報端末の活用

- ・講義資料は教務情報ポータル、あるいはmanabaで配信します。詳細については初回授業時に説明します。
- ・課題レポート等については、教務情報ポータル、あるいはmanabaを通じて提出していただきます。これについても、詳細は初回授業時に説明します。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、その仕組みについて説明できている。
- A：各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を修得し、その仕組みについて説明できている。
- B：各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、その仕組みについて説明できている。
- C：各人権の法的な救済方法および統治制度の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、その仕組みについて説明できている。
- D：各人権の法的な救済方法および統治制度の基本的な知識と考え方が修得できていない。

## 成績の評価方法/Grading

・レポート評価 70% / 授業内課題 30%

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は特定しません。授業毎にレジユメを配布します。
----	----------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	トピックからはじめる統治制度 第2版 憲法を考える
著者名	笹田栄司
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641227802
教材費	2090

参考書2

書名	基本的人権の事件簿 第6版 (有斐閣選書)
----	-----------------------



著者名	棟居快行
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641281475
教材費	2090

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8221	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	川島 佑介				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

政治と行政の視座

## 授業の概要/Course Overview

本講義では、大学で社会科学を学ぶ基本的な視座について講義します。高校までの授業や世間一般で語られている政治や行政の議論は、一面的であったり、場合によっては事実ではないこともあります。本講義では、こうした議論を取り上げ、学問的な批判を論じることで、政治学・行政学の分野に案内します。

## キーワード/Keyword(s)

社会科学、政治学、行政学

## 到達目標/Learning Objectives

第一に、様々な社会現象について、社会科学の観点から理解することができること。第二に、自らの意見を練り上げ、他人に説得的なかたちで論じることができるようになること。第三に、以上を踏まえ、高度教育を修めた人間として、世の中に貢献できる人材になること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 「今の政治は汚い。良い政治であるべきだ」、「政治家には高い倫理が必要である」、「政治はAIに委ねるべきだ」：政治（学）・行政（学）とは何か
- 「日本は三権分立である」、「首相より大統領の方がリーダーシップを発揮できる」、「議会で寝ている議員はダメであり、議員立法を増やすべきだ」：統治構造論
- 「労働組合は無責任だ」、「政党は利権をむさぼるだけの存在だ」、「自民党は昔から変わっていない」：政治行動論
- 「投票率は高い方がいい」、「遊んでばかりの若者はおろかだ」：投票行動論
- 「政治家は国民の意見に従うべきだ」、「日本は官僚主導であり、改められるべきだ」：行政統制論
- 「公務員には柔軟さが求められる」、「天下りは害悪でしかない」、「日本の公務員は多すぎる」：官僚制論・公務員論
- 「自治体の財政赤字は自治体の責任である」、「地方分権で福祉が充実する」：地方自治論・公共政策論
- 授業のまとめ（45分）、テスト

### 【授業外学修】

- 日々のニュースに注意を払い、社会的な知識と考察の力を深めてください。
  - 授業でレジュメを配布しますので、事項について復習してください。
  - 事実関係で不明点がある場合には、インターネットなどを用いて、自分で調べ、調査力も上げてください。ただし、それでも分からない場合には、後述する質問意見用紙で聞いてください。
- 各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

(1)第1～7回目には、質問意見用紙の回収を行い、それぞれ第2～8回目の授業冒頭で回答・講評を行いますので、質問や意見がある人は、授業中あるいは授業後に記入・提出してください。

## 履修上の注意/Notes

本講義では質問意見用紙を通じたアクティブラーニングを実施しますが、減点方式ではないので、率直な内容を書いてください。詳しくは第1回目の授業で説明します。

## 情報端末の活用

必須

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C：政治学・行政学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D：政治学・行政学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

テスト(85%)、質問意見用紙(15%)

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いません。参考書は随時紹介します。
----	------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ（ただし、個別の質問意見については英語も可）
-----------------------------

## 実務経験のある教員による授業科目

自治体委員、大学附属研究所研究員、専門学校講師経験のある教員が、その経験を活かして、行政のこんにち的課題と動態のあり方を具体的に指導し、公務員として活躍するための資質も育成する。
---

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8222	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	川島 佑介				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

政治と行政の仕組み

## 授業の概要/Course Overview

本講義では、高校までの現代社会系科目を復習しつつ、大学教養科目として政治学・行政学の基礎的な視角を論じます。高校までの授業が正解を教えるものであるのに対し、大学で行われるこの授業では、理念や実態について、その歴史や背景、正負の効果などの解説に重点を置きます。

## キーワード/Keyword(s)

社会科学、政治、行政、集合行為問題、権力、自由主義、民主主義、官僚制、政策

## 到達目標/Learning Objectives

第一に、様々な社会現象について、社会科学の観点から理解することができること。第二に、自らの意見を練り上げ、他人に説得的なかたちで論じることができるようになること。第三に、以上を踏まえ、高度教育を修めた人間として、世の中に貢献できる人材になること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス：なぜ教養として社会科学、そして政治学・行政学を学ぶのか
2. 集合行為問題
3. 権力とは何か
4. 自由主義と民主主義の相克
5. 代理人としての政治家・官僚
6. 近代官僚制の仕組み
7. 政策の捉え方
8. 授業のまとめ（45分）、テスト

### 【授業外学修】

- (1) 日々のニュースに注意を払い、社会科学的な知識と考察の力を深めてください。
  - (2) 授業でレジュメを配布しますので、事項について復習してください。
  - (3) 事実関係で不明点がある場合には、インターネットなどを用いて、自分で調べ、調査力も上げてください。ただし、それでも分からない場合には、後述する質問意見用紙で聞いてください。
- 各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1～7回目には、質問意見用紙の回収を行い、それぞれ第2～8回目の授業冒頭で回答・講評を行いますので、質問や意見がある人は、授業中あるいは授業後に記入・提出してください。

## 履修上の注意/Notes

本講義では質問意見用紙を通じたアクティブラーニングを実施しますが、減点方式ではないので、率直な内容を書いてください。詳しくは第1回目の授業で説明します。

## 情報端末の活用

必須

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C：政治学・行政学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D：政治学・行政学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

テスト(85%)、質問意見用紙(15%)

## 教科書/Textbook(s)

備考 教科書は用いません。参考書は随時紹介します。

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ（ただし、個別の質問意見については英語も可）
-----------------------------

## 実務経験のある教員による授業科目

自治体委員、大学付属研究所研究員、専門学校講師経験のある教員が、その経験を活かして、行政のこんにち的課題と動態のあり方を具体的に指導し、公務員として活躍するための資質も育成する。
---

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8403	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法と人権

## 授業の概要/Course Overview

社会に生きる限り、人は法と無関係ではられません。同時に、自分と様々な面で異なる人々と共存していく現代には法に関する知識は不可欠です。そして憲法とは法の元締めのような存在です。したがって憲法に関する知識を学ぶことは、現代社会で生きる自分自身のためになります。

この授業では憲法が保障する「基本的人権」を説明します。具体的には、刑事手続き上の権利、生活保護に関連する生存権や法の下での平等、ヘイトスピーチ対策法をめぐる表現の自由などを取り上げます。憲法上の権利が保障される意義から説明し、聞いたことはあってもイメージはしにくい権利や自由を、法学の初心者にも分かりやすく、様々な裁判例を挙げながら説明していきます。

## キーワード/Keyword(s)

法、憲法、政治、人権、権利、自由、裁判、立憲主義、違憲審査制度

## 到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法が保障している権利の内容や裁判についての基本的知識を説明できる。
- ②日本の権利に関する判例や制度の、各国との相違を把握し、あるべき姿を自分で考察できるようになる。
- ③憲法による人権保障の意義、ひいては憲法の実在意義を自分で考察できるようになる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／人身の自由（刑事手続きなど）／  
国務請求権（国家賠償請求権、請願権、裁判を受ける権利）

### 【授業内容】

ガイダンスの後、早速、憲法が保障する権利を具体的に学んでいく。まずは比較的、イメージしやすい権利である刑事手続き上の権利について判例を挙げながら説明する。国務請求権の具体例を見ていく。

### 【授業外学修】

授業内容の復習・確認。普段ニュースで目にする刑事事件と授業で学んだ内容を比較して、刑事手続きのあるべき姿を考察する。近年、国家賠償請求をめぐる判決が数多く下されている。その内容を調べてみる。裁判当事者に自分を置き換えて、裁判の意義とその限界について考えてみる。

### 【アクティブ・ラーニング】

（ミニツツペーパー）憲法のイメージや問題点として考えているものを自由に書いてもらう。

第2回：経済的自由権（経済的自由の歴史と意義、職業選択の自由、財産権の保障）

### 【授業内容】

経済的自由の保障の意義、時に制限される理由と、制限が許される範囲について説明する。また、薬局距離制限事件や森林法事件など、違憲



判決が数多く下されている分野である。その理由づけを理解する。

【授業外学修】

授業内容を、資料などを読み直して復習する。新型コロナウイルスの流行に伴う飲食店等への営業時間短縮要請・命令の憲法上の問題点について各自考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 著名な判決の内容についての知識を確認する。復習テストは1回目を除き毎回行う。次回の授業で解説する。

第3回：社会権（社会権を保障する意味、生存権・教育を受ける権利・労働基本権）

【授業内容】

社会権の保障の意義を説明する。経済的自由とのつながりを説明する。社会権をめぐる著名な裁判である朝日訴訟や旭川学力テスト事件などを取り上げ、国民に一定の生活環境や教育を保障するために必要なことや、その限界について学ぶ。労働基本権の内容を理解する。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。社会保障の存在意義を各自で考えてみる。裁判の時代背景を考えてみる。アルバイトなど自分の身近の「労働」の現状や、過労死をめぐるニュースを授業内容と照らし合わせて、問題点を考察する。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 朝日訴訟や堀木訴訟、公務員の労働基本権の制限をめぐる裁判の内容を確認する。

第4回：思想・良心の自由／信教の自由（個人の信教の自由と政教分離の原則など）

【授業内容】

心の中の自由を憲法が保障する意義について説明する。君が代のピアノ伴奏や起立斉唱拒否をめぐる裁判や、靖国神社への玉串料奉納をめぐる判決などを取り上げ、裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。思想・良心の自由や信教の自由の日本の現状について考える。企業の契約の自由と労働者の思想・良心が対立した場合を自分に置き換えて考えてみる。信教の自由と表現の自由が衝突した例とされる世界的なニュースを調べる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 判決の趣旨や、判例で提示された違憲か合憲かの判断基準などを確認する。

(授業前レポート)：新型コロナウイルス感染拡大防止のための営業時間短縮要請・命令の是非について、今までの授業内容を踏まえて論じたもの。(学生の皆さんと内容について相談します。)

第5回：表現の自由

【授業内容】

表現の自由の原理、検閲・事前抑制の禁止、性表現、名誉毀損的表現、犯罪のせん動などについての裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。性表現や名誉毀損的表現といった価値の低い表現が保障される理由を考えてみる。マスメディアの報道の改善点について考えてみる。ヘイトスピーチの規制について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 表現の自由が保障される理由や、憲法で禁止されている検閲の具体的内容、さまざまな表現をめぐる裁判の内容について確認する。

第6回：学問の自由／包括的基本権／法のもとでの平等①（平等の内容、司法審査の基準、判例①尊属殺重罰規定など）

【授業内容】

クローン技術やゲノム編集技術といった先端技術の規制や、教育・研究機関としての大学の自治のあり方についての裁判所の判断、またプライバシーの権利や自己決定権をめぐる裁判について見ていく。また「法の下での平等」の意味や、裁判所の判断の基準、判例を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。クローン技術の具体的内容、その成果、また規制法による先端技術の規制の是非について考えてみる。また「プライバシー」とSNSの関係について考えてみる。自己決定権を認めることの利益・不利益について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 学問の自由に関する裁判（劇団ポポロ事件）や輸血拒否事件などの自己決定をめぐる裁判の趣旨についての知識、また違憲審査基準についての知識を確認する。

第7回：法のもとでの平等②（夫婦同姓規定・再婚禁止期間裁判）／基本的人権総論①人権の享有主体・外国人の人権・私人間適用

【授業内容】

夫婦同姓規定や再婚禁止期間をめぐる最高裁の判断や、基本的人権が保障される主体とは誰か、外国人と日本人で人権の保障に違いについて

説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。日本の外国人をめぐる法的問題について具体的に調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 法の下での平等や著名な判例の趣旨の確認。

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

基本的人権のまとめとして、「公共の福祉」とは何かについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。授業で触れた裁判について総ざらいしてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 公共の福祉をめぐる学説や、違憲審査基準についての知識を確認する。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをmanabaで実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを1回予定しています。200字以上で憲法問題への各自の意見を問うものと考えています。

【授業外学修】

授業の復習として、レジュメと参考書の該当箇所を読みなおし授業内容の理解を進めてください。(2時間程度)

また、日々のニュースと憲法を結びつけて考察する時間を毎日15分程度も受けてください。

## 履修上の注意/Notes

①事前に履修が必要または履修を推奨する科目はありません。

②遅刻は3回で欠席1回とカウントします。ただし、遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降の遅刻は欠席扱いとします。出席は、Teams内かmanabaのアンケート機能で取ります。

③参考書購入費以外に係る金額はありません。

④授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。

## 情報端末の活用

①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。

②講義資料は、manabaに提示します。授業前にご確認ください。

③ミニツツペーパー、確認小テスト、ミニレポートや期末レポートはmanabaに提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を十分に把握した上で、憲法の実在意義について説得力かつ創造性・独自性のある議論を展開できる。さらに脚注など十分に体裁の整ったレポートを作成できる。

A：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。

B：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を概ね考察し、レポートで考えを伝えることができる。

C：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を最低限、説明できる。

D：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を修得できておらず、憲法の実在意義を説明できない。

## 成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(1回予定)、コメント(適宜)：40点/

期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし。教員が作成した資料を毎回提示します。
----	-------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教養としての憲法入門
著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

日本語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8404	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法と政治制度

## 授業の概要/Course Overview

近年憲法改正の必要が叫ばれています。自衛隊の活動範囲の拡大の是非や、内閣の権限強化の必要性など、議論は多岐にわたっています。こうした中で、憲法改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要です。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定しています。こうした機関が持つ権限や、日本国憲法の成立経緯や天皇制、平和主義や地方自治などを、憲法学の従来の議論や有名な裁判、また他国との比較的視点を盛り込みながら説明します。

## キーワード/Keyword(s)

憲法、政治、政治制度、デモクラシー、国会、裁判所、地方自治、平和主義、憲法改正

## 到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法9条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について説明できる。
- ②現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。
- ③各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／憲法とは何か／立憲主義とは何か／デモクラシーとは何か

【授業内容】

ガイダンスの後、憲法の種類や区分、思想的基盤である立憲主義や、デモクラシーとの関係について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法の必要性について考えてみる。デモクラシーの多様な意味、またそのメリットとデメリットについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

（ミニッツペーパー）憲法のイメージや、日本国憲法の問題点として考えているものについて各自自由に書いてもらう。

第2回：日本憲法史／天皇制(天皇の地位や天皇の国事行為など)

【授業内容】

大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程、両者の相違点を説明する。また天皇の地位の変化について国事行為などに言及しながら、説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。明治憲法の改正がなぜ必要だったのか考えてみる。天皇の国事行為と公的行為の違いについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 戦前と戦後の日本の政治体制の変更点等についての知識を確認する。

第3回：平和主義① (憲法9条の解釈、憲法9条をめぐる裁判など)

【授業内容】

平和主義 (憲法9条の解釈・自衛隊の合憲性、2015年に成立した平和安全法制の内容について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。砂川事件など、憲法9条に関係する著名な裁判の時代背景を調べてみる。日本の戦後史について、沖縄返還など大きな政治的出来事を調べてみる。日本の安全保障と国際貢献の在り方について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 9条に関する政府解釈や学説についての理解の確認。

第4回：平和主義② (各国の平和安全法制) / 主権の意味 / 国会① (国会の地位と組織、衆参両院の関係、一票の格差の問題など)

【授業内容】

国家が持つ主権の意味や、国民の代表の意味、国会の地位と組織、衆参両院の関係などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。国会議員を国民が罷免出来ない理由を考えてみる。また、国会議員の選挙の不正をめぐる裁判などのニュースについて調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 国民の「代表」の意味や国会の権限、国会議員の特権などについての知識を確認する。

(授業前レポート) 「正義のための戦争」と日本の関わり方について自由に論じる。(150字以上)

第5回：国会② (国政調査権など) / 内閣

【授業内容】

内閣や総理の資格や権限、衆議院の解散の根拠、各国の政治制度との比較などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。世界各国の政治ニュース、特に立法府と行政府をめぐるニュースを調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 日本の議院内閣制と各国の政治制度の相違点の理解を確認する。

第6回：裁判所

【授業内容】

裁判所が担う司法権の範囲と限界、立法・行政との関わり方、裁判員制度の是非、各国の違憲審査制度との相違など)

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。実際の裁判への不満等と授業内容を照合してみる。裁判官という選挙によって選ばれたわけではない存在が、選挙によって選ばれた国会議員が作成した法律に違憲判決を下すことの意味を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 司法権の意味や最高裁の権限等についての知識を確認する。

第7回：地方自治 / 財政 (公金支出の禁止の原則などについて) / 憲法改正 (各国の要件・経緯)

【授業内容】

地方自治の下で地方自治外に保障される権限や、リコールなどの住民の権利を説明する。また私学助成の問題について説明する。憲法改正の各国の要件について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。財政収支均衡の重視策や道州制導入の是非を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 予算や地方自治における基本知識の確認。

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

授業の総ざらいをする。安全保障体制や、政治制度、国会、内閣、裁判所、憲法改正を各国と比較する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法改正の必要性について考察。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 違憲審査制度に関する基本知識や各国の憲法改正の概要の確認。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをmanabaで実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを1回予定しています。200字以上で憲法問題への各自の意見を問うものと考えています。

【授業外学修】

授業の復習として、レジュメと参考書の該当箇所を読みなおし授業内容の理解を進めてください。(2時間程度)

また、日々のニュースと憲法を結びつけて考察する時間を毎日15分程度も受けてください。

## 履修上の注意/Notes

①事前に履修が必要または履修を推奨する科目はありません。

②遅刻は3回で欠席1回とカウントします。ただし、遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降の遅刻は欠席扱いとします。出席は、Teams内かmanabaのアンケート機能で取ります。

③参考書購入費以外に係る金額はありません。

④授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。

## 情報端末の活用

①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。

②講義資料は、manabaに提示します。授業前にご確認ください。

③ミニッツペーパー、確認小テスト、ミニレポートや期末レポートはmanabaに提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を十分に修得し、各国との比較的观点を持ちながら、憲法改正について説得力かつ創造性・独自性のある議論を、体裁の整ったレポートで十分に展開できる。

A：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を修得し、憲法改正について考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。

B：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を概ね修得し、憲法改正について説明できる。

C：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について最低限の修得をしており、憲法改正について最低限の説明ができる。

D：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について修得できておらず、憲法改正について説明できない。

## 成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(1回予定)、コメント(適宜)：40点/

期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教養としての憲法入門
----	------------

著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--



時間割コード	KB0821	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法と人権

## 授業の概要/Course Overview

社会に生きる限り、人は法と無関係ではられません。同時に、自分と様々な面で異なる人々と共存していく現代には法に関する知識は不可欠です。そして憲法とは法の元締めのような存在です。したがって憲法に関する知識を学ぶことは、現代社会で生きる自分自身のためになります。

この授業では憲法が保障する「基本的権利」を説明します。具体的には、刑事手続き上の権利、生活保護に関連する生存権や法の下での平等、ヘイトスピーチ対策法をめぐる表現の自由などを取り上げます。憲法上の権利が保障される意義から説明し、聞いたことはあってもイメージはしにくい権利や自由を、法学の初心者にも分かりやすく、様々な裁判例を挙げながら説明していきます。

## キーワード/Keyword(s)

法、憲法、政治、人権、権利、自由、裁判、立憲主義、違憲審査制度

## 到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法が保障している権利の内容や裁判についての基本的知識を説明できる。
- ②日本の権利に関する判例や制度の、各国との相違を把握し、あるべき姿を自分で考察できるようになる。
- ③憲法による人権保障の意義、ひいては憲法の存在意義を自分で考察できるようになる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／人身の自由（刑事手続きなど）／  
国務請求権（国家賠償請求権、請願権、裁判を受ける権利）

### 【授業内容】

ガイダンスの後、早速、憲法が保障する権利を具体的に学んでいく。まずは比較的、イメージしやすい権利である刑事手続き上の権利について判例を挙げながら説明する。国務請求権の具体例を見ていく。

### 【授業外学修】

授業内容の復習・確認。普段ニュースで目にする刑事事件と授業で学んだ内容を比較して、刑事手続きのあるべき姿を考察する。近年、国家賠償請求をめぐる判決が数多く下されている。その内容を調べてみる。裁判当事者に自分を置き換えて、裁判の意義とその限界について考えてみる。

### 【アクティブ・ラーニング】

(ミニツツペーパー) 憲法のイメージや問題点として考えているものを自由に書いてもらう。

第2回：経済的自由権（経済的自由の歴史と意義、職業選択の自由、財産権の保障）

### 【授業内容】

経済的自由の保障の意義、時に制限される理由と、制限が許される範囲について説明する。また、薬局距離制限事件や森林法事件など、違憲

判決が数多く下されている分野である。その理由づけを理解する。

【授業外学修】

授業内容を、資料などを読み直して復習する。新型コロナウイルスの流行に伴う飲食店等への営業時間短縮要請・命令の憲法上の問題点について各自考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 著名な判決の内容についての知識を確認する。復習テストは1回目を除き毎回行う。次回の授業で解説する。

第3回：社会権（社会権を保障する意味、生存権・教育を受ける権利・労働基本権）

【授業内容】

社会権の保障の意義を説明する。経済的自由とのつながりを説明する。社会権をめぐる著名な裁判である朝日訴訟や旭川学力テスト事件などを取り上げ、国民に一定の生活環境や教育を保障するために必要なことや、その限界について学ぶ。労働基本権の内容を理解する。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。社会保障の存在意義を各自で考えてみる。裁判の時代背景を考えてみる。アルバイトなど自分の身近の「労働」の現状や、過労死をめぐるニュースを授業内容と照らし合わせて、問題点を考察する。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 朝日訴訟や堀木訴訟、公務員の労働基本権の制限をめぐる裁判の内容を確認する。

第4回：思想・良心の自由／信教の自由（個人の信教の自由と政教分離の原則など）

【授業内容】

心の中の自由を憲法が保障する意義について説明する。君が代のピアノ伴奏や起立斉唱拒否をめぐる裁判や、靖国神社への玉串料奉納をめぐる判決などを取り上げ、裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の復習・確認。思想・良心の自由や信教の自由の日本の現状について考える。企業の契約の自由と労働者の思想・良心が対立した場合を自分に置き換えて考えてみる。信教の自由と表現の自由が衝突した例とされる世界的なニュースを調べる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 判決の趣旨や、判例で提示された違憲か合憲かの判断基準などを確認する。

(授業前レポート)：新型コロナウイルス感染拡大防止のための営業時間短縮要請・命令の是非について、今までの授業内容を踏まえて論じたもの。(学生の皆さんと内容について相談します。)

第5回：表現の自由

【授業内容】

表現の自由の原理、検閲・事前抑制の禁止、性表現、名誉毀損的表現、犯罪のせん動などについての裁判所の判断を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。性表現や名誉毀損的表現といった価値の低い表現が保障される理由を考えてみる。マスメディアの報道の改善点について考えてみる。ヘイトスピーチの規制について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 表現の自由が保障される理由や、憲法で禁止されている検閲の具体的内容、さまざまな表現をめぐる裁判の内容について確認する。

第6回：学問の自由／包括的基本権／法のもとでの平等①（平等の内容、司法審査の基準、判例①尊属殺重罰規定など）

【授業内容】

クローン技術やゲノム編集技術といった先端技術の規制や、教育・研究機関としての大学の自治のあり方についての裁判所の判断、またプライバシーの権利や自己決定権をめぐる裁判について見ていく。また「法の下での平等」の意味や、裁判所の判断の基準、判例を見ていく。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。クローン技術の具体的内容、その成果、また規制法による先端技術の規制の是非について考えてみる。また「プライバシー」とSNSの関係について考えてみる。自己決定権を認めることの利益・不利益について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 学問の自由に関する裁判（劇団ポポロ事件）や輸血拒否事件などの自己決定をめぐる裁判の趣旨についての知識、また違憲審査基準についての知識を確認する。

第7回：法のもとでの平等②（夫婦同姓規定・再婚禁止期間裁判）／基本的人権総論①人権の享有主体・外国人の人権・私人間適用

【授業内容】

夫婦同姓規定や再婚禁止期間をめぐる最高裁の判断や、基本的人権が保障される主体とは誰か、外国人と日本人で人権の保障に違いについて

説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。日本の外国人をめぐる法的問題について具体的に調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 法の下での平等や著名な判例の趣旨の確認。

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

基本的人権のまとめとして、「公共の福祉」とは何かについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。授業で触れた裁判について総ざらいしてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 公共の福祉をめぐる学説や、違憲審査基準についての知識を確認する。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをmanabaで実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを1回予定しています。200字以上で憲法問題への各自の意見を問うものを考えています。

【授業外学修】

授業の復習として、レジュメと参考書の該当箇所を読みなおし授業内容の理解を進めてください。(2時間程度)

また、日々のニュースと憲法を結びつけて考察する時間を毎日15分程度も受けてください。

## 履修上の注意/Notes

- ①事前に履修が必要または履修を推奨する科目はありません。
- ②遅刻は3回で欠席1回とカウントします。ただし、遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降の遅刻は欠席扱いとします。出席は、Teams内かmanabaのアンケート機能で取ります。
- ③参考書購入費以外に係る金額はありません。
- ④授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。

## 情報端末の活用

- ①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。
- ②講義資料は、manabaに提示します。授業前にご確認ください。
- ③ミニツツペーパー、確認小テスト、ミニレポートや期末レポートはmanabaに提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を十分に把握した上で、憲法の実在意義について説得力かつ創造性・独自性のある議論を展開できる。さらに脚注など十分に体裁の整ったレポートを作成できる。
- A：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。
- B：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を概ね考察し、レポートで考えを伝えることができる。
- C：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の実在意義を最低限、説明できる。
- D：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を修得できておらず、憲法の実在意義を説明できない。

## 成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(1回予定)、コメント(適宜)：40点/

期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし。教員が作成した資料を毎回提示します。
----	-------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教養としての憲法入門
著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

日本語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB0822	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法と政治制度

## 授業の概要/Course Overview

近年憲法改正の必要が叫ばれています。自衛隊の活動範囲の拡大の是非や、内閣の権限強化の必要性など、議論は多岐にわたっています。こうした中で、憲法改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要です。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定しています。こうした機関が持つ権限や、日本国憲法の成立経緯や天皇制、平和主義や地方自治などを、憲法学の従来の議論や有名な裁判、また他国との比較的視点を盛り込みながら説明します。

## キーワード/Keyword(s)

憲法、政治、政治制度、デモクラシー、国会、裁判所、地方自治、平和主義、憲法改正

## 到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法9条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について説明できる。
- ②現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。
- ③各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス／憲法とは何か／立憲主義とは何か／デモクラシーとは何か

【授業内容】

ガイダンスの後、憲法の種類や区分、思想的基盤である立憲主義や、デモクラシーとの関係について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法の必要性について考えてみる。デモクラシーの多様な意味、またそのメリットとデメリットについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(ミニッツペーパー) 憲法のイメージや、日本国憲法の問題点として考えているものについて各自自由に書いてもらう。

第2回：日本憲法史／天皇制(天皇の地位や天皇の国事行為など)

【授業内容】

大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程、両者の相違点を説明する。また天皇の地位の変化について国事行為などに言及しながら、説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。明治憲法の改正がなぜ必要だったのか考えてみる。天皇の国事行為と公的行為の違いについて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 戦前と戦後の日本の政治体制の変更点等についての知識を確認する。

第3回：平和主義①（憲法9条の解釈、憲法9条をめぐる裁判など）

【授業内容】

平和主義（憲法9条の解釈・自衛隊の合憲性、2015年に成立した平和安全法制の内容について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。砂川事件など、憲法9条に関係する著名な裁判の時代背景を調べてみる。日本の戦後史について、沖縄返還など大きな政治的出来事を調べてみる。日本の安全保障と国際貢献の在り方について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 9条に関する政府解釈や学説についての理解の確認。

第4回：平和主義②（各国の平和安全法制）／主権の意味／国会①（国会の地位と組織、衆参両院の関係、一票の格差の問題など）

【授業内容】

国家が持つ主権の意味や、国民の代表の意味、国会の地位と組織、衆参両院の関係などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。国会議員を国民が罷免出来ない理由を考えてみる。また、国会議員の選挙の不正をめぐる裁判などのニュースについて調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 国民の「代表」の意味や国会の権限、国会議員の特権などについての知識を確認する。

(授業前レポート) 「正義のための戦争」と日本の関わり方について自由に論じる。(150字以上)

第5回：国会②（国政調査権など）／内閣

【授業内容】

内閣や総理の資格や権限、衆議院の解散の根拠、各国の政治制度との比較などについて説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。世界各国の政治ニュース、特に立法府と行政府をめぐるニュースを調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 日本の議院内閣制と各国の政治制度の相違点の理解を確認する。

第6回：裁判所

【授業内容】

裁判所が担う司法権の範囲と限界、立法・行政との関わり方、裁判員制度の是非、各国の違憲審査制度との相違など

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。実際の裁判への不満等と授業内容を照合してみる。裁判官という選挙によって選ばれたわけではない存在が、選挙によって選ばれた国会議員が作成した法律に違憲判決を下すことの意味を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 司法権の意味や最高裁の権限等についての知識を確認する。

第7回：地方自治／財政（公金支出の禁止の原則などについて）／憲法改正（各国の要件・経緯）

【授業内容】

地方自治の下で地方自治外に保障される権限や、リコールなどの住民の権利を説明する。また私学助成の問題について説明する。憲法改正の各国の要件について説明する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。財政収支均衡の重視策や道州制導入の是非を考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 予算や地方自治における基本知識の確認。

第8回：まとめ(45分)

【授業内容】

授業の総ざらいをする。安全保障体制や、政治制度、国会、内閣、裁判所、憲法改正を各国と比較する。

【授業外学修】

授業内容の確認・復習。憲法改正の必要性について考察。

【アクティブ・ラーニング】

(復習テスト) 違憲審査制度に関する基本知識や各国の憲法改正の概要の確認。

【アクティブ・ラーニング】

2回目以降の授業では毎回、復習テストをmanabaで実施します。また授業内容を踏まえた上で、時事ニュースにかかわる問題も出題するので、各自ネット等で調べた上で答えてもらおうと考えています。時間的余裕は十分取ります。

授業前レポートを1回予定しています。200字以上で憲法問題への各自の意見を問うものと考えています。

【授業外学修】

授業の復習として、レジュメと参考書の該当箇所を読みなおし授業内容の理解を進めてください。(2時間程度)

また、日々のニュースと憲法を結びつけて考察する時間を毎日15分程度も受けてください。

## 履修上の注意/Notes

①事前に履修が必要または履修を推奨する科目はありません。

②遅刻は3回で欠席1回とカウントします。ただし、遅刻の扱いをするのは授業開始後20分までとし、それ以降の遅刻は欠席扱いとします。出席は、Teams内かmanabaのアンケート機能で取ります。

③参考書購入費以外に係る金額はありません。

④授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決してください。

## 情報端末の活用

①オンライン授業で使用可能なPCを準備しておいてください。

②講義資料は、manabaに提示します。授業前にご確認ください。

③ミニッツペーパー、確認小テスト、ミニレポートや期末レポートはmanabaに提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 日本国憲法の統治機構に関する基本知識を十分に修得し、各国との比較的观点を持ちながら、憲法改正について説得力かつ創造性・独自性のある議論を、体裁の整ったレポートで十分に展開できる。

A : 日本国憲法の統治機構に関する基本知識を修得し、憲法改正について考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。

B : 日本国憲法の統治機構に関する基本知識を概ね修得し、憲法改正について説明できる。

C : 日本国憲法の統治機構に関する基本知識について最低限の修得をしており、憲法改正について最低限の説明ができる。

D : 日本国憲法の統治機構に関する基本知識について修得できておらず、憲法改正について説明できない。

## 成績の評価方法/Grading

8回目後半の期末試験は実施しません。

毎回授業後に行う復習テスト(初回は除く)、授業前レポート(1回予定)、コメント(適宜) : 40点/

期末レポート60点。

授業中の積極的発言や質問は成績評価に加味します。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教養としての憲法入門
----	------------



著者名	神野潔編著
出版社	弘文堂
出版年	2016
ISBN	4335356633
教材費	2750

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8241	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	内田 晋				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

エネルギー経済論

## 授業の概要/Course Overview

エネルギーは全ての人間活動や経済活動の源であるとともに、国際政治や地球環境といったグローバルな問題とも深く関わっており、エネルギーやそれを取り巻く現状について学んだ知識はあらゆる分野に応用することができる。この授業ではエネルギーそのものへの理解を深めるとともに、主に経済的な側面からエネルギーに関連した世界の現状や問題を扱う。

## キーワード/Keyword(s)

エネルギー 持続可能社会 資源 再生可能エネルギー 化石燃料 地球温暖化

## 到達目標/Learning Objectives

エネルギーの種類やそれぞれの性質が理解できる。  
環境問題、世界経済、政治などさまざまな問題とエネルギーとの関係について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス及びエネルギーの種類と性質  
【授業外学修】（復習）身近な例を用いた練習問題を出すので、各自で解いておくこと。
- 第2回：【授業内容】エネルギーの歴史  
【授業外学修】（予習）人類がこれまでエネルギーをどのように利用してきたか、各自で考えておくこと。
- 第3回：【授業内容】エネルギーと政治  
【授業外学修】（予習）オイルショックについて各自で調べておくこと。
- 第4回：【授業内容】エネルギーと環境問題  
【授業外学修】（復習）エネルギーと環境問題の複雑な関係性について理解すること。
- 第5回：【授業内容】資源の経済学  
【授業外学修】（予習）「経済学」を履修した人はミクロ経済学の部分を確認しておくこと。
- 第6回：【授業内容】デカップリング  
【授業外学修】（復習）2段階のデカップリングについて理解すること。
- 第7回：【授業内容】再生可能エネルギー  
【授業外学修】（復習）それぞれの技術の長所と短所について理解すること。

第8回：【授業内容】未来のエネルギー技術（45分）、期末試験（45分）

【授業外学修】（予習）これまでの内容について資料などでよく確認しておくこと。

授業資料はmanabaにアップロードする。授業外学修は60分程度を想定しているが、その他、各回の復習をすること（30分程度）。

## 履修上の注意/Notes

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：エネルギーの基本的な知識を十分に修得し、さらにその経済や社会との関係について詳細に説明できている。
- A：エネルギーの基本的な知識を修得し、さらにその経済や社会との関係について説明できている。
- B：エネルギーの基本的な知識を概ね修得し、さらにその経済や社会との関係について概略を説明できている。
- C：エネルギーの基本的な知識の修得と、その経済や社会との関係についての説明が最低限のレベルできている。
- D：エネルギーの基本的な知識が修得できておらず、さらにその経済や社会との関係についての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

小テスト：70点（各10点×7回）／レポート：30点

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	エネルギーと社会
著者名	迫田章義, 堤敦司 編著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2019
ISBN	9784595319549
教材費	3600

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	

社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

### アクティブ・ラーニング型科目

--

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語
-----

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8242	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小松崎 将一				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

アグロエコロジー

## 授業の概要/Course Overview

食料生産の持続可能なシステムへの変換を考えるうえで基本となる概念「アグロエコロジー」。その実践的理論の確立と普及に、地域住民がアイデアを出し、住民が参加して社会環境問題を解決する動きが芽生え始めています。さまざまな事例を通してそのような動きを知ること、アグロエコロジーに根ざした「自然共生」や「地域づくり」について考えます。

## キーワード/Keyword(s)

自然共生、地域づくり、生物多様性、気候変動、農福連携、SDGs、食品ロス、アグロエコロジー、食農教育

## 到達目標/Learning Objectives

「地域の発展と環境保全」という日本や世界の動きを知り、社会問題解決の方策としての役割、意義や可能性を理解できるようになるとともに、そのような動きに関心をもち、自ら提案や考察ができるようになる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス／自然共生の経緯ーアグロエコロジーの展開を踏まえてー
2. 生物多様性と地域づくり  
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 生物多様性を保全する事例紹介を通して社会的活動を知るとともに、関心・意見等を述べる。
3. 気候変動の緩和と農業・農村  
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 一人一人が気候変動緩和の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
4. 地域を元気にする農福連携の取り組み  
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 一人一人が農福連携の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
5. 男女共同参画社会と地域づくり  
(リーディング&ライティング・ディスカッション) 男女共同参画の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
6. SDGsの達成に向けた地域の取り組み  
紹介された事例等を対象に、SDGs達成に向けた取り組みとしての意義・課題などについて取りまとめる。
7. 食と農の教育を見直そう  
SDGに向けた地域の取り組みを発表して、地域を活性化させる食と農の教育について提案する。
8. 総括  
(レポート) 自然共生と地域づくりについて個別に意見を述べ、レポートを作成する。

【授業外学修】

(1) 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

## 履修上の注意/Notes

極端な遅刻は欠席とする。授業で使用する記事等の配布は、事前にDream CampusからDLできるようにしておくので、(印刷/自分のデバイスで見れるようにしてくなど) 授業において必ず読める状態にしておくこと。

## 情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業における小レポートと最終レポートにより判定する。

## 教科書/Textbook(s)

### 参考書/Reference Book(s)

#### 参考書1

書名	地域と響き合う農学教育の新展開：農学系現代GPの取り組みから
著者名	中島紀一編
出版社	筑波書房
出版年	2008
ISBN	4811903234
教材費	

#### 参考書2

書名	有機農業大全：持続可能な農の技術と思想
著者名	澤登 早苗 著・文・その他
出版社	コモンズ
出版年	
ISBN	9784861871641
教材費	3200

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

行政政策や地域づくりに携わっている者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な地域課題解決の視点を講義する。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8251	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	荒木 雅也				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

知的財産と著作権法

## 授業の概要/Course Overview

知的財産権の全体像を概観した上で、著作権法の基礎を学習する。  
第2回から第7回において、授業終了時に、受講者の理解を確認するために、簡単なクイズを出題する。

## キーワード/Keyword(s)

知的財産権、不正競争、著作権、引用、パロディ、コンテンツ

## 到達目標/Learning Objectives

- 知的財産法の全体像を理解し、説明できる。
- 著作権法の概要を理解し、説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。知的財産法の全体像。
- 【授業外学修】指定教科書の目次を読んでおくこと。
- 【授業内容】不正競争
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。
- 【授業内容】著作権法の歴史と基礎
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】著作権の概要
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】著作権の侵害
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】引用とパロディ
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】コンテンツビジネス
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】まとめ（45分）と小テスト（小テスト）
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【アクティブラーニング】第2回から第7回に、クイズを出題する。

## 履修上の注意/Notes



必要経費は、教科書購入費用のみ。

## 情報端末の活用

オンライン授業であり、資料はTeams上で配信するので、毎回の授業時にPCを用意すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

クイズ : 30点 (各5点×6回) / 期末試験 : 70点

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	知財語り
著者名	荒木雅也
出版社	朝陽会
出版年	2020
ISBN	9784903059600
教材費	1000

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

○

**PBL科目**

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8252	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	松井 良和（Matsui Yoshikazu）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

<p>将来、皆さんが就職をして社会に出たとき、働くことに関する様々な問題に直面することがあります。また、アルバイトをしている人は実際、労働法をめぐる問題に遭遇し、疑問を感じることに直面しているかもしれません。</p> <p>このように労働法は皆さんにとって非常に身近な法律です。しかし、非常に多くの法律が関係することから初めて勉強するときには戸惑うこともあります。</p> <p>この授業ではまず、労働法の全体像を把握したうえで、労働関係の出発点に当たる労働契約の意味と採用内定の法的問題について学習します。また、憲法の授業で学んだ内容を踏まえ、職場における労働者の基本権保障の意味についても学びます。その上で、労働条件を決定する上で日本では極めて決定的な意味を持つ就業規則について学習します。</p> <p>授業では、皆さんの周りにある身近な問題を取り上げて、基本的な用語や労働法の基本的な考え方を学習します。これらと同時に、授業の中では新しい判決も取り上げますので、今、企業の現場で何が起きているのかということも学んでいきます。</p> <p>近年では特に、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、人々の働き方が大きく変容しています。こうした新しい働き方に対応した労働法政策についても学習して行きます。</p>
--

## キーワード/Keyword(s)

労働基準法、労働契約法、雇用類似の働き方、採用内定、試用期間、労働条件、就業規則、賃金、労働時間
--

## 到達目標/Learning Objectives

<p>労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を学び、今、現実に行っている問題を法的に把握する力を身に付けることができます。</p> <p>具体的には、労働法の適用範囲を決める労働者及び使用者の概念、会社が作成した就業規則による労働条件決定・変更法理など、労働法の基礎であり最重要問題について考える力を身に付けることができます。</p> <p>これらの問題を考えることを通じて、最新の判例を検討する際に必要となる応用的思考の前提となる、基本的な法的思考力を養うことができます。</p>
---

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション-ガイダンス・労働法上の労働者と使用者の概念</li> <li>2. 労働契約の意義-労働契約の成立、労働契約上の様々な義務</li> <li>3. 採用内定・試用期間-労働関係の始期</li> <li>4. 憲法と労働法①-労働者の人格権、パワハラ、プライバシーの問題</li> <li>5. 憲法と労働法②-職場における男女の平等</li> <li>6. 憲法と労働法③-公務員の労働基本権に対する制約</li> <li>7. 就業規則による労働条件決定と変更</li> <li>8. これまでの復習(45分)、試験</li> </ol>
--

#### 【授業外学修】

各授業の資料は授業前にポータルシステムにアップロードするので、事前に目を通して予習をしてください。

労働法が関係する様々な問題について、ニュースや新聞記事等をチェックしてアンテナを張っておいてください。

各回の授業内容については、「今日のまとめ」としてレジュメの最後に要点をまとめています。授業後に穴埋めをすることで授業内容を復習してください。

授業では基本的に配布するレジュメに沿って内容を説明していきますが、教科書や参考文献に挙げた基本書の該当箇所を読むことで内容の理解を深めてください。

各回の授業外学習に要する時間は予習60分、復習30分程度を目安とします。

#### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。初回の授業「1.イントロダクション」では、受講者の関心のあるテーマについて記述してもらい提出してもらいます。その内容によって授業内容を調整します。

リアクションペーパーには授業の疑問点やその他、皆さんが目にした労働法の問題について自由に記入してください。授業の冒頭に、リアクションペーパーに書いてもらった内容を振り返ります。

## 履修上の注意/Notes

労働法の領域では常に新しい問題が日々登場しているので、日頃から新聞やニュース等に接しておくことが望ましいです。

## 情報端末の活用

授業で用いるレジュメや資料はTeamsにアップするので、そちらから各自でダウンロードしてください。

リアクションペーパーについては、manabaを通じて提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を十分に習得し、さらに、自分の意見や見解について根拠を示して説明することが出来ている。

A 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得し、さらに、自分の意見や見解を説明することが出来ている。

B 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を概ね習得し、さらに、自分の意見や見解を述べている。

C 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を最低限習得し、自分の意見や見解を述べている。

D 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得することができておらず、自分の意見や見解を述べられていない。

## 成績の評価方法/Grading

リアクションペーパーの内容（20%）、授業中に行う小テスト（20%）と試験（60%）で評価を行います。

毎回の授業の際、レジュメと併せて「練習問題」とリアクションペーパーを配布します。授業後にこれらを回収して出席確認をします。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	トピック労働法
著者名	山田省三他
出版社	信山社
出版年	2020
ISBN	978-4797287516
教材費	3520

## 教科書2

書名	労働判例百選第10版
著者名	村中孝史・荒木尚志他
出版社	有斐閣
出版年	2022
ISBN	978-4641115576
教材費	2640

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	労働法第12版
著者名	菅野和夫
出版社	弘文堂
出版年	2019
ISBN	978-4335315473
教材費	7150

### 参考書2

書名	労働法第3版
著者名	西谷敏
出版社	日本評論社
出版年	2020
ISBN	978-4535524217
教材費	5280

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>
-----------------------

## PBL科目

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8253	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	豊崎 仁美（Hitomi Toyosaki）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

サービス業のマネジメントについて考える

## 授業の概要/Course Overview

日本の産業割合の7割以上を占めるのがサービス業である。サービス業は、製造業とは異なる特徴がある。本授業では、サービスプロフィットチェーン理論をベースに、様々な事例を用いながら、サービス業の従業員のマネジメントの在り方を考え、理解することを狙いとしている。

## キーワード/Keyword(s)

サービス業, 従業員満足, 顧客満足, サービスの質, 財務業績, 教育, 権限委譲, 報酬, 職場環境, 従業員の離職, サービスプロフィットチェーン

## 到達目標/Learning Objectives

- ・サービス業と製造業の違いを説明できる。
- ・サービス業ならではのマネジメントの在り方を理解し、自分の考えをまとめて、論理的に考察できる。
- ・積極的に意見交換ができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス：サービスプロフィットチェーン  
 第2回：顧客満足と財務成果  
 第3回：サービスの質と顧客満足  
 第4回：サービスの質と従業員の離職  
 第5回：サービスの質を高める①教育  
 第6回：サービスの質を高める②権限委譲  
 第7回：サービスの質を高める③報酬  
 第8回：サービスの質を高める④職場環境

### 【授業外学修】

- （1）アップされた資料を講義前までに読み、わからなかった点や気になった点を各自で調べておくこと。
- （2）講義で取り扱った事例を他の事例に適用し、理解を深めること。そのために、ニュースや新聞記事などから積極的に情報を収集すること。
- （3）各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

提示した問いに対して、自分で調べ、自分の考えを文章にまとめてもらう。その内容を複数の受講生と共有し、意見交換を行う。そのうえで、受講者全体に共有してもらい受講者全体で意見交換を行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・知識を詰め込むのではなく、自分で考え、他者の意見を聴くことをとおして、考える力を養うことを意図しているため、受け身の姿勢ではなく、積極的な参加を求める。
- ・各回の講義内容が関連し合うため、予習・復習に努めること。
- ・遅刻をするとその回の授業全体が理解しがたくなるので、定時に出席すること。
- ・受講生の理解度や興味関心に応じて授業計画を変更することもある。
- ・資料を印刷する場合は各自で行うこと。

## 情報端末の活用

リアクションペーパーやレポートは、オンラインで提出してもらうため、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

事前準備の結果を反映したリアクションペーパー(100%)による評価を基本とする。場合によっては、レポートを課す場合がある。

## 教科書/Textbook(s)

備考	講義内容をまとめた資料を教材とする。
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	カスタマー・ロイヤルティの経営：企業利益を高めるCS戦略
著者名	ジェームス・L・ヘスケット, W・アール・サッサー・ジュニア, レオナード・A・シュレシンジャー著；島田陽介訳
出版社	日本経済新聞社
出版年	1998
ISBN	9784532146474
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	



地域活性化志向	
---------	--

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語
-----

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8254	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 忠恒				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

日本経済史入門（明治～戦間期）

## 授業の概要/Course Overview

明治から戦間期の日本経済について、映像とトピックス（事件・出来事）を通じて学ぶ。

## キーワード/Keyword(s)

歴史、経済、経営、日本、映像、事件

## 到達目標/Learning Objectives

日本の経済・経営の歩みを理解できる。  
日本の経済史・経営史上の事件・出来事を理解できる。  
それらに基づいて、日本の経済・経営の現在・将来について考察できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 維新期の税制改革
- 第3回 足尾鉍毒事件
- 第4回 別子暴動事件
- 第5回 DVD観賞「近代産業の形成[幕藩体制～1913]」
- 第6回 米騒動
- 第7回 金融恐慌
- 第8回 DVD観賞「大戦景気から統制経済へ[1914～1937]」

### 【授業外学修】

- (1) 当該回の配布資料を事前にダウンロードし、一通りは読んでおくこと。
- (2) 配布資料中の予習課題を実施しておくこと。
- (3) 講義の内容を振り返ること。
- (4) 日ごろから新聞等を読み、現在の日本の経済・経営が抱える問題に興味を持つようにすること。

## 履修上の注意/Notes

- ・ Teams> この講義のチーム> ファイル> 「クラスの資料」で配布。
- ・ 厳禁行為；私語、講義と関係ない電子デバイスの使用（SNS、メール、ゲームなど）、投影スライドの写真撮影（含むスクリーンショット）、録音。

・遅刻は30分まで。

## 情報端末の活用

授業内でPCを使用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ ; 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。  
A ; 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。  
B ; 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。  
C ; 到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。  
D ; 到達目標の3点について最低限のレベルに達していない。

## 成績の評価方法/Grading

小テスト ; 100%

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8255	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	富江 直子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

社会学の視点A

## 授業の概要/Course Overview

社会学のまなざしで社会を見つめてみましょう。社会学の基礎理論を学び、「自己」の成り立ちや、人と人とのつながり方や、世界との関わり方などを捉えることを学びます。「自己」と「社会」との関係性を見つめ、「自己」と「社会」とが互いに形成し、形成されていくダイナミックな過程を知ることによって、ふだん当たり前にあるものと思っていたことが、驚くべきことに見えてきたり、疑うべきことに思えてきたりします。

## キーワード/Keyword(s)

社会、行為、自己、権力、秩序

## 到達目標/Learning Objectives

- ・社会学の基本的な概念を学ぶ。
- ・社会学の視点からさまざまな社会事象を分析、解釈する方法を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス
- 2 「社会」とは
- 3 行為の理論
- 4 社会現象としての「自己」
- 5 ドラマトゥルギー
- 6 逸脱の社会学
- 7 権力の社会学
- 8 まとめ

### 【授業外学修】

- (1)生活のなかで、面白いと思うこと、疑問に思うことなどをいろいろ見つけておくことが予習につながります。
- (2)授業の復習は、授業で配付する資料と、各自が作ったノートなどで行って下さい。復習には社会学の事典や入門書なども活用してください。
- (3)各自の関心のあるテーマについては、図書館などで文献を探して学習を深めてください。授業のなかで紹介する参考文献などを使っていたくのもよいと思います。
- (4)授業で学んだ社会学の枠組みを用いて、日常生活のなかの身近な事象を見直してみることも大事な学びになります。
- (5)授業外学修の時間としてはおよそ90分をめやすに取り組んでください。

### 【アクティブ・ラーニング】

授業の中で、各テーマごとに振り返りの確認テストを実施します。

## 履修上の注意/Notes

この授業はmanabaを使います。

## 情報端末の活用

授業内でPC等を使用します。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

授業内にmanabaの「小テスト」で行う確認テストの合計点（100%）で評価します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	授業のなかでレジュメを配付します。
----	-------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8256	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	星 純子（Junko HOSHI）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

地域社会学概論 基礎編

## 授業の概要/Course Overview

身近な現象を素材に、地域社会を理解する視点について考察する。地域とは何か、それが形作ってきたものは何か、また地域を形作ってきたものは何か、地域の中にはどのようなアクターがいるのかなどについて、社会学的に考察する。

## キーワード/Keyword(s)

NPO、自治体、中央政府、コミュニティ、ネットワーク、子ども、高齢者、再生産労働、再開発

## 到達目標/Learning Objectives

身近な地域問題を事例に、地域の制度、枠組み、およびその歴史的変化について理解し、地域より広範囲の枠組み、例えば中央やグローバル化の問題を関連付けて考察することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス
  2. 地域社会とは何だろう？
  3. 地域を枠づける制度と組織
  4. 地域に生きる集団とネットワーク
  5. 地域が歴史を創り出す
  6. 歴史が地域を創り出す
  7. なぜ地域が大切か
- 第1-6回まで小テストを行う。

【アクティブ・ラーニング】

毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

## 履修上の注意/Notes

詳細は初回ガイダンスに説明するので必ず出席すること。履修登録者は初回ガイダンスで出された指示や調整を理解したものとする。

【授業外学修】

授業前は新聞をチェックし、授業で取り上げた視点で考察する習慣をつけてください。

授業後は参考書に載っている参考文献を読み、授業内容をもとに身近な現象について考察してください。具体的には、新聞記事を切り抜き、それについて授業内容にもとづいた具体的な考察を行ってください。その新聞記事が示しているのは地域社会のいかなる現象か、その現象が



なぜおこったのか、記事は何を言おうとしているのか、なぜそれがその媒体で取り上げられるのか、などについて考察してください。

地域社会学概論応用編を続けて履修することが望ましいが、単独での受講も可能である。

## 情報端末の活用

講義資料はオンラインで事前配信するので、毎回の授業時にPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 地域社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A : 地域社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B : 地域社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C : 地域社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D : 地域社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができない。

## 成績の評価方法/Grading

小テスト(各5点×6)、期末試験(70点)で評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地方都市を考える 「消費社会」の先端から
著者名	貞包英之
出版社	花伝社
出版年	2015
ISBN	978-4763407559
教材費	1620

参考書2

書名	交差する辺野古
著者名	熊本博之
出版社	勁草書房
出版年	2021
ISBN	978-4-326-65427-
教材費	3960

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解

○

専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8257	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	Chienwei YEH（Chienwei YEH）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

人文地理学の考え方

## 授業の概要/Course Overview

私たちが住んでいる場所は、どのように形成され発展してきたのだろうか。人間は、自然や環境と向き合いながらそれぞれの土地で独自の文化を築き、住みやすい場所を作り上げてきた。グローバルに眺めてみると、文化的にも空間的にも多様な地域が形成されていることがわかる。地域の多様性について考えると同時に、いかに多様性が生まれたのか、そして地域の格差がいかに生まれたのかを考える。

## キーワード/Keyword(s)

人文地理学、風水、都市、方言、食文化、地域格差、移民

## 到達目標/Learning Objectives

人文地理学の基本的な考え方を理解できる。  
人間がいかに自然や環境と向き合っ、住みやすい場所を選び形成したかを理解できる。  
人間の移動（移民）によって、いかに地域が形成されたかを認識できる。  
地域によって文化や考え方が異なること、またその背景にある人文地理学的事象について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス～人間はどこに住むのか
- 第2回 風水と都市～地理学の歴史と風水・都市形成の関係について学ぶ
- 第3回 地域格差はなぜ生まれたか？～なぜ富める国と貧しい国があるのかを考える
- 第4回 食と方言から地理を考える～ご当地グルメと方言はどのように生まれたのか
- 第5回 境界・国境から地理を考える～境界や国境をめぐる諸問題を解明する
- 第6回 移民から地理を考える～移民や難民は、なぜ現在も増加し続けているのか
- 第7回 多文化社会と都市～中華街にみる多文化共生
- 第8回 まとめ

【授業外学修】

- (1) 講義内容は事前にTeamsにアップロードするので、ダウンロードして授業の準備をし、講義終了後にも地図や配布資料と共に復習すること。
- (2) 授業において出された課題について、次週までに必ず学修し提出すること。
- (3) 授業時間中に見た資料について、授業終了後に内容を復習し、自分の考えをまとめること。
- (4) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 授業内でアンケートなどを通じて意見を発表し、意見交換を行う。
- (2) 毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

- 1)高等地図帳（高校などで使用したもの）を用意してください。
- 2)正当な理由がない限り、遅刻および早退30分以上は欠席とみなします。
- 3)オフィスアワー：火曜日昼休み（メールあるいはTeamsで連絡してください）

## 情報端末の活用

- ・講義資料はTeamsに事前にアップロードするので、ダウンロードして授業に出席すること
- ・課題レポートについては、Teamsあるいはmanabaを通じて提出すること

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：人文地理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに社会との関連を十分に説明できている。
- A：人文地理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらに社会との関連を説明できている。
- B：人文地理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに社会との関連についてある程度説明できている。
- C：人文地理学の基本的な知識と考え方について最低限修得し、さらに社会との関連について最低限説明できている。
- D：人文地理学の基本的な知識と考え方について修得できておらず、さらに社会との関連についての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業中に課す課題／レポートなど（30点）および期末レポート（70点）により評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書はとくに指定しない
----	--------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地理学概論
著者名	上野和彦, 椿真智子, 中村康子編著
出版社	朝倉書店
出版年	2015
ISBN	9784254168198
教材費	3630

参考書2

書名	はじめて地理学：身近なところから地球の「なぜ」を解き明かす
著者名	富田 啓介 著
出版社	ベレ出版
出版年	2017
ISBN	9784860645298
教材費	1870

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8259	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アントレプレナーシップ入門Ⅰ

## 授業の概要/Course Overview

ますます不確実な未来予想の中で、営利・非営利を問わず社会課題を解決するために、アントレプレナー（起業家）やイントレプレナー（社内起業家）が求められる背景やそのために必要な資質・能力について学ぶ。講義は外部のアントレプレナー/イントレプレナーを講師として招き、知見獲得を目指すとともに、途中グループワークによるふりかえりを挟むことで、他者との対話を通してアントレプレナーシップ（起業家精神）について考えていく。

## キーワード/Keyword(s)

アントレプレナーシップ、アントレプレナー/イントレプレナー、社会課題解決、チャレンジ精神、リーダーシップ、営利組織（企業）、非営利組織（NGO/NPO）、社会力

## 到達目標/Learning Objectives

- （1）アントレプレナー/イントレプレナーが求められる背景について理解している。
- （2）アントレプレナー/イントレプレナーに必要な資質・能力について理解している。
- （3）身近なアントレプレナー/イントレプレナーを発見し、その役割と意義について理解している。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、アントレプレナー（起業家）/イントレプレナー（社内起業家）・アントレプレナーシップ（起業家精神）とは何か、アントレプレナーやイントレプレナーが求められる背景、生まれながらに利他的な人間の特徴、について（オンライン授業（Zoom））

第2回：外部講師による講義① ～営利組織（企業）でのアントレプレナー～（対面授業）

第3回：外部講師による講義② ～非営利組織（NGO/NPO）でのアントレプレナー～（対面授業）

第4回：第2回、第3回の外部講師による授業のふりかえり（オンラインによるグループワーク）（オンライン授業（Zoom））

第5回：外部講師による講義③ ～海外でのアントレプレナー～（対面授業）

第6回：外部講師による講義④ ～企業でのイントレプレナー～（対面授業）

第7回：第5回、第6回の外部講師による授業のふりかえり（オンライン授業（Zoom））

第8回：授業のまとめ（45分）（オンライン授業（Zoom））

\*外部講師との調整により、順番が変わったり、内容が多少変わることもある

### 【授業外学修】

・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。

・アントレプレナー（起業家）やイントレプレナー（社内起業家）が求められる背景、必要とされる資質・能力、各自の身近なアントレプレナー/イントレプレナー、について各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。

・各回の外部講師については事前にアナウンスをするので、各自その講師の経歴・事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考  
えておくこと。

#### 【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1, 4, 7, 8回については、Zoomのブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッションを行う。

(2) 第2, 3, 5, 6回については、講師による講義後、質疑応答を行う。

(3) また、毎回の授業終了時は、FORMSによるふりかえりコメント提出を行い、理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

(1) オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。

(2) 最終レポートについては、manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。

A : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。

B : 到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。

C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D : 到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回授業最後に提出するふりかえりコメント (50%) と最終レポート (50%) とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	リーダーになる人に知っておいてほしいこと
著者名	松下幸之助 述
出版社	PHP研究所
出版年	2009
ISBN	9784569704104
教材費	1047

### 参考書2

書名	子どもの社会力
著者名	門脇厚司 著
出版社	岩波書店
出版年	1999

ISBN	4004306485
教材費	858

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

オムニバス形式の授業として、営利組織（企業）や非営利組織（NGO/NPO）でアントレプレナー/イントレプレナーとして起業経験のある外部講師をお呼びし、その経験を活かして、具体的にアントレプレナーシップ（起業家精神）について講義する。

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--



時間割コード	KB8260	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	井上 拓也, 井坂 寛 (Takuya Inoue)				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

大学生と消費生活

## 授業の概要/Course Overview

大学生生活とその後の社会生活において、安全で安心した消費生活を送るための基本的な知識について、ゲストスピーカーをお招きしながら概観します。「自立」した消費者になるために、消費者トラブルと関連する法律、ライフプランと保険、食育と栄養を中心に学習していきます。親元を離れて1人暮らしを始めた学生さんはもちろん、すべての学生さんに必要な消費生活のノウハウを伝授し、「消費者力」を養成していきます。

## キーワード/Keyword(s)

消費生活、消費者力、消費者トラブル、契約、ライフプラン、お金との付き合い方、セーフティネット、地産地消、食育、消費者の権利と義務

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 消費者トラブルを回避し解決するための契約についての基礎知識を身につける。
- (2) ライフプランを貯蓄や保険の点から設計するための基礎知識を身につける。
- (3) 安全で安心な食生活のための栄養などの基礎知識を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】消費生活と消費者力、ガイダンス  
【授業外学修】授業の内容に基づき、自分の消費生活の課題について考えておく。
- 第2回：【授業内容】消費者トラブルと法律（1）消費者トラブルと対処法（消費生活センター相談員）  
【授業外学修】授業内容に基づき、自分が関連した消費者トラブルにつき考えておく。
- 第3回：【授業内容】消費者トラブルと法律（2）契約の基本（消費生活センター相談員）  
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第4回：【授業内容】ライフプランと保険（1）ライフプランと三大資金（ファイナンシャルプランナー）  
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の金銭面でのライフプランを立ててみる。。
- 第5回：【授業内容】ライフプランと保険（2）貯蓄・保険・セーフティネット（ファイナンシャルプランナー）  
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第6回：【授業内容】食育（1）若者の食生活（管理栄養士）  
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の食生活診断をしてみる。
- 第7回：【授業内容】食育（2）和食と地産地消（農業協同組合・生活協同組合職員）  
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第8回：【授業内容】消費者の権利と義務、まとめ  
【授業外学修】最終レポートをまとめて提出する。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回では、対面の場合、グループなどによるディスカッションを行う。

## 履修上の注意/Notes

- (1) 自分の消費生活を改善するという実践的な目標意識をもって講義に臨んでください。トラブル、金銭管理、食事の問題は他人事ではありません。
- (2) ディスカッションでは積極的に発言してください（オンラインの場合はありません）。他者の考えもきちんと受け止めるようにしてください。
- (3) 遅刻すると、その回の授業全体を理解するのが難しくなります。開始時間は守るようにしてください

## 情報端末の活用

対面授業・オンライン授業いずれの場合も、オンラインで小レポートなどを提出してもらいます。したがってPCが必要となります。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 小レポートと最終レポートをきわめてすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- A : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- B : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- C : 小レポートと最終レポートを提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- D : 小レポートや最終レポートを提出していない。

## 成績の評価方法/Grading

最終レポート：60点/小レポート：20点/ディスカッションなどへの参加：20点  
ただしオンラインの場合、ディスカッションの配点はなくなるかもしれません。

## 教科書/Textbook(s)

備考 とくにありません。資料をプリントして配布します。講義期間中はきちんと保管しておいてください。

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

--

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

法律、保険、食育など、消費生活に関する専門的知識を有する者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、「消費者力」を養成する。

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8261	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

社会学の考え方

## 授業の概要/Course Overview

社会の変遷をふまえて、社会という単位で取り上げられる認識や諸課題の成立・展開を学ぶ。その上で、社会学の変遷と社会学が明らかにした考え方を検討し、社会構造から物事を捉えようとする視点をもつことができるよう取り組む。具体と抽象を往復しつつ、自身の社会との関係を改めてふりかえることで、社会的課題の様々な見方や分析の検討を進められることを目指す。

## キーワード/Keyword(s)

社会、社会学、社会構造、社会調査

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 社会について、エビデンスに基づいた思考ができる。
- (2) 社会的変遷と社会学の考え方を対応させて、社会構造の観点から考えることができる。
- (3) 社会的課題に対する複数の見方や分析の検討を進めていくことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、社会という単位で考えること
- 第2回 社会学成立に至る背景～ 社会科学の成立期
- 第3回 長期的に社会の変遷をみる～ Society 5.0による区分ごとの考え方
- 第4回 社会調査という方法～量的調査と質的調査
- 第5回 社会調査の事例1～グローバル化と地域社会
- 第6回 社会調査の事例2～社会と連動する教育や学習
- 第7回 ある特定の社会における自身のあり方を考える
- 第8回 社会的課題の様々な見方や分析の検討（総括）

### 【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、自身が考える社会の情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

## 履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

## 情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B：到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	ブリッジブック社会学（第2版）
著者名	玉野和志編
出版社	信山社出版
出版年	2016
ISBN	9784797223521
教材費	2640

### 参考書2

書名	実践 自分で調べる技術
著者名	宮内泰介, 上田昌文著
出版社	岩波書店
出版年	2020
ISBN	9784004318538
教材費	968

### 参考書3

書名	「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス
著者名	好井裕明 著
出版社	光文社
出版年	2006

ISBN	9784334033439
教材費	814

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8262	ナンバリング	KB-GHS-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

Diversity and Social Issues in Japan A

## 授業の概要/Course Overview

This course aims to introduce various issues on diversity and social issues in Japan. It particularly focuses on issues concerning minority groups and nationality system in Japan. Students are encouraged to think critically on those topics. It welcomes both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussions about these issues.

## キーワード/Keyword(s)

Multicultural society, diversity in Japan, minority groups in Japan, nationality in Japan

## 到達目標/Learning Objectives

1. Students will familiarize themselves with various social issues in Japan.
2. Students will be able to critically analyze these issues from different perspectives.
3. Students will present their opinions about these issues.
4. Students will give a presentation on a given topic related to these issues.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### [Class Contents]

1. Introduction to the Course: Who are "Japanese"? Identity, Race and Ethnicity in Japan
2. Japan as Multicultural Society 1: Ainu, Burakumin, and Okinawans
3. Japan as Multicultural Society 2: Zainichi Koreans
4. Japan as Multicultural Society 3: "Newcomers"
5. Education for Students with Diverse Backgrounds in Japan
6. Nationality in Japan
7. People with Multiracial/Multiethnic Background in Japan
8. Presentation Session, Summery

### [Active Learning]

In this class, students are expected to join the group discussion in every class except the last class (week 8).

On the 8th week, students will make group presentation.

In this class, students are required to write the reflective journal at the end of each class.

### [Out-of-the-class learning]

1. Read assigned reading materials and watch preview slides/assigned clips for each week before class and take notes of something that you may come up with for group discussions when reading these reading materials

2. After each class, you are required to turn in reflection (comments and/or questions) and review questions.
3. In addition to the assigned reading materials, read other academic papers, newspapers, and books which relate to topics taken up in class
4. Average time of "out-of-class learning" is 90 minutes per week including writing the final paper.

## 履修上の注意/Notes

1. This class will be conducted in English.
2. Students are required to actively participate in every class discussion.
3. Students are required to write reflection journal every class.
4. If one is late for the class three times, it will be counted as being absent once.
5. If one is absent more than one thirds of the classes, s/he cannot pass the course.

## 情報端末の活用

The instructor will not distribute copies of class materials. Please bring your PC if you need to look up the digital files.  
Students are required to submit reflection paper, final paper and reading log on manaba.

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+: Outstanding performance indicating an excellent understanding of the concepts and principles for diversity and social issues in Japan.
- A: Fairly good performance indicating a good understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
- B: Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are understood and steady improvement is being made.
- C: Performance is the minimum required to achieve improvement. Demonstrates some understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
- D: Performance is below the standards and failing. Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are not understood.

## 成績の評価方法/Grading

- Active Class Participation 10%
- Weekly Reflection and Review 15%
- Reflection Paper 20%
- Presentation 15%
- Final paper 40%

There will be no final exam in Week 8.

## 教科書/Textbook(s)

備考	References will be distributed in the class.
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	An introduction to Japanese society
著者名	Yoshio Sugimoto
出版社	Cambridge University Press



出版年	2021
ISBN	978-1108724746
教材費	4500

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	Students need to participate in this class in English.
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8263	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	荒木 雅也				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

知的財産と特許法・商標法

## 授業の概要/Course Overview

知的財産権の全体像を概観した上で、特許法・商標法の基礎を学習する。  
第2回から第7回において、授業終了時に、受講者の理解を確認するために、簡単なクイズを出題する。

## キーワード/Keyword(s)

知的財産権、特許法、商標法、侵害、類否、ライセンス

## 到達目標/Learning Objectives

- 特許法の概要を理解し、説明できる。
- 商標法の概要を理解し、説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。特許、商標の全体像。
- 【授業外学修】指定教科書の目次を読んでおくこと。
- 【授業内容】特許の基礎
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。
- 【授業内容】特許登録の要件とライセンス
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】特許権の侵害
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】商標の基礎
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】商標の類否
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】商標登録の要件
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【授業内容】まとめ（45分）と小テスト（小テスト）
- 【授業外学修】指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。
- 【アクティブラーニング】第2回から第7回に、クイズを出題する。

## 履修上の注意/Notes

必要経費は、教科書購入費用のみ。

## 情報端末の活用

オンライン授業であり、資料はTeams上で配信するので、毎回の授業時にPCを用意すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

クイズ : 30点 (各5点×6回) / 小テスト : 70点

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	知財語り
著者名	荒木雅也
出版社	朝陽会
出版年	2020
ISBN	9784903059600
教材費	1000

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

○

**PBL科目**

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8264	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	松井 良和（Matsui Yoshikazu）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

この授業では、皆さんが将来、会社に勤め始めてから直面する様々な法的な問題について学習していきます。大学を卒業し会社に就職してから、結婚や育児、家族の介護などのライフイベントに遭遇することがあると思います。こうしたライフイベントに遭遇したとき、退職をするのか、退職をせずに休みを取るのか、それとも正社員ではなく他の働き方にするのか、様々な選択肢から自分に合った選択をすることになります。こうした選択をする際、何が自分にとってベストなのかを考える上でも、労働法の知識は必須になります。

授業では退職に至るまでに生じる、年休や育児休業、退職制度、会社の人事や配転、出向などの法的問題について学んでいきます。これらの内容を理解することで、将来のライフプランやキャリアプランを設計することができるようにします。

これらのことと併せて、ドイツの「労働4.0」に代表されるような、先進諸国で展開されている立法政策についても授業の中で言及し、日本の雇用、立法、社会政策について幅広く学習します。特に、有期契約労働、パートタイム労働、労働者派遣は海外諸国においても重要な立法課題の1つであり、同一（価値）労働同一賃金の問題にあるように政策的にも重要課題の1つになっていますので、海外との比較の観点からも日本の雇用政策の特徴を学びます。

## キーワード/Keyword(s)

労働基準法、労働契約法、労働災害、ワーク・ライフ・バランス、人事、解雇、同一労働同一賃金、有期契約、パート、派遣

## 到達目標/Learning Objectives

労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を学び、今、現実に起こっている問題を法的に把握する力を身に付けることができます。こうした力を身に付けることによって、自分のライフプランやキャリアプランを設計できるようになります。

具体的には、年次有給休暇や会社の退職制度、昇格や降格、配転や出向、懲戒処分、解雇などの問題について考える力を身に付けることができます。

これらの問題を考えることを通じて、最新の判例を検討する際に必要となる応用的思考の前提となる、基本的な法的思考力を養うことができます。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. イントロダクション-労働関係の始期と展開、終了について
2. 労働災害-労災保険の概要、使用者の安全配慮義務
3. 様々な休暇・休業制度-年次有給休暇、産前・産後休業、育児休業、退職制度
4. 昇格・降格の法的問題、配転・出向
5. 懲戒処分
6. 労働関係の終了-定年制、退職勧奨、解雇など
7. 非正規労働-有期労働契約・パートタイム労働・労働者派遣
8. これまでの復習(45分)、試験

#### 【授業外学修】

各授業の資料は授業前にポータルシステムにアップロードするので、事前に目を通して予習をしてください。

労働法が関係する様々な問題について、ニュースや新聞記事等をチェックしてアンテナを張っておいてください。

各回の授業内容については、「今日のまとめ」としてレジユメの最後に要点をまとめています。授業後に穴埋めをすることで授業内容を復習してください。

授業では基本的に配布するレジユメに沿って内容を説明していきますが、教科書や参考文献に挙げた基本書の該当箇所を読むことで内容の理解を深めてください。

各回の授業前学習に要する時間は予習60分、復習30分程度を目安とします。

#### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。リアクションペーパーには授業の疑問点やその他、皆さんが目にした労働法の問題について自由に記入してください。授業の冒頭に、リアクションペーパーに書いてもらった内容を振り返ります。

## 履修上の注意/Notes

労働法の領域では常に新しい問題が日々登場しているので、日頃から新聞やニュース等に接しておくことが望ましいです。

## 情報端末の活用

授業で用いるレジユメや資料はTeamsにアップするので、そちらから各自でダウンロードしてください。

リアクションペーパーについては、manabaを通じて提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を十分に習得し、さらに、自分の意見や見解について根拠を示して説明することが出来ている。

A 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得し、さらに、自分の意見や見解を説明することが出来ている。

B 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を概ね習得し、さらに、自分の意見や見解を述べている。

C 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を最低限習得し、自分の意見や見解を述べている。

D 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得することができておらず、自分の意見や見解を述べられていない。

## 成績の評価方法/Grading

リアクションペーパーの内容（20%）、授業中に行う小テスト（20%）と試験（60%）で評価を行います。

毎回の授業の際、レジユメと併せて「練習問題」とリアクションペーパーを配布します。授業後にこれらを回収して出席確認をします。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	トピック労働法
著者名	山田省三他
出版社	信山社
出版年	2020
ISBN	978-4797287516
教材費	3520

教科書2

書名	労働判例百選
著者名	村中孝史・荒木尚志他
出版社	有斐閣
出版年	2022
ISBN	978-4641115576
教材費	2640

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	労働法第12版
著者名	菅野和夫
出版社	弘文堂
出版年	2019
ISBN	978-4335315473
教材費	7150

### 参考書2

書名	労働法第3版
著者名	西谷敏
出版社	日本評論社
出版年	2020
ISBN	978-4535524217
教材費	5280

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>
-----------------------

## PBL科目

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8265	ナンバリング	KB-GHS-131-ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	豊崎 仁美（Hitomi Toyosaki）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

計画とコントロールによるモチベーションの向上について考える

## 授業の概要/Course Overview

戦略の実現を促す経営の仕組みとして、計画とコントロールがある。本授業では、理論と事例から、なぜ計画を立てることが重要なのか、また計画を達成するために、マネジャーはどのようにして部下を動機づけるのかを考え、理解することを狙いとしている。

## キーワード/Keyword(s)

計画, コントロール, コミュニケーション, モチベーション, 組織, 戦略, 業績評価, コミュニケーション, ダイバーシティ, 経営理念

## 到達目標/Learning Objectives

- ・計画とコントロールのプロセスと効果を理解し、説明できる。
- ・自分の考えをまとめて、論理的に考察できる。
- ・積極的に意見交換ができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス

第2回：なぜ組織をつくるのか

第3回：経営理念・戦略

第4回：計画とコントロール（1）個人的意義

第5回：計画とコントロール（2）組織的意義

第6回：計画とコントロール（3）業績評価

第7回：組織内コミュニケーション

第8回：ダイバーシティマネジメント

### 【授業外学修】

- （1）アップされた資料を講義前までに読み、わからなかった点や気になった点を各自で調べておくこと。
- （2）講義で取り扱った事例を他の事例に適用し、理解を深めること。そのために、ニュースや新聞記事などから積極的に情報を収集すること。
- （3）各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

提示された課題に対して、自分で調べ、自分の考えを文章にまとめてもらう。その内容を複数の受講生と共有し、意見交換を行う。そのうえで、受講者全体に共有してもらい受講者全体で意見交換を行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・知識を詰め込むのではなく、自分で考え、他者の意見を聴くことをとおして、考える力を養うことを意図しているため、受け身の姿勢ではなく、積極的な参加を求める。
- ・各回の講義内容が関連し合うため、予習・復習に努めること。
- ・遅刻をするとその回の授業全体が理解しがたくなるので、定時に出席すること。
- ・受講生の理解度や興味関心に応じて授業計画を変更することもある。
- ・資料を印刷する場合は各自で行うこと。

## 情報端末の活用

リアクションペーパーやレポートは、オンラインで提出してもらうため、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

事前準備の結果を反映したリアクションペーパー(100%)による評価を基本とする。場合によっては、レポートを課す場合がある

## 教科書/Textbook(s)

備考	講義内容をまとめた資料を教材とする。
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	ゼミナール経営学入門 (第3版)
著者名	伊丹敬之, 加護野忠男著
出版社	日本経済新聞社
出版年	2003
ISBN	9784532132477
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	

地域活性化志向	
---------	--

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語
-----

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8266	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	掛貝 祐太（Yuta Kakegai）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

財政と社会問題入門

## 授業の概要/Course Overview

社会は常に多くの問題を抱えている。もちろん、人によって興味関心は違うので、意識する問題は異なるだろう。格差問題に関心を寄せる人もいれば、ジェンダーにまつわる問題を強く意識している人もいるだろうし、環境問題に関心がある人もいるだろう。あるいは、コロナの問題で頭がいっぱいで他の事を考えられない…という人も当然いるだろう。（もしくは、現代社会に「問題」なんてあるの？という人もいるかもしれない。）

いずれせよ、こうした社会問題の解決手段の一つが、政策である。しかし、政策をうつものにもお金がかかるし、お金をかけずに実効性のある政策をうつのは、非常に難しい。だからこそ、国や自治体のお金の使われ方、すなわち財政が重要なのである。

本講義では、比較的身近な話題や題材についての、様々な社会問題・社会現象(コロナ・教育・少子高齢化・ジェンダー・地域社会・グローバル化・情報化社会etc.)を取りあげる。そして、主に財政の視点から、なぜその解決が難しいのか、あるいは、なぜそうした問題が起こってしまったのか、について考える。

## キーワード/Keyword(s)

コロナ対策・少子高齢化・大学教育・グローバル化・ジェンダー・地域社会・環境問題・情報化社会

## 到達目標/Learning Objectives

財政や社会科学における初歩的な知識をもとに、政治・社会・経済をめぐる社会問題について、一見“常識”に思える意見を相対化する視点で考察することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 イントロダクションとガイダンス（計数感覚をもって社会問題をながめる：結局、その「問題」はどれくらいお金が使われているんでしょう？／意外と日本は小さな政府？）
- 第2回 COVID-19問題と財政（医療のひっ迫はなぜ？／コロナ対策にはどうお金が使われた？／「自己責任」を重んじる社会のままで良いのか？）
- 第3回 少子高齢化問題、教育における問題と財政（授業料が高く、給付型の奨学金が少ないのは日本くらい？／日本は子どもに税を使わない社会？）
- 第4回 ジェンダーにまつわる問題（なぜ女性が働きにくい社会になった？／逆に、なぜ男性が働きすぎないといけない社会になった？／家族にまつわる価値観にも、財政が影響？）
- 第5回 格差・貧困問題と財政（自己責任」が強い日本／6人に1人の子どもが相対的貧困）
- 第6回 地域社会における問題と財政（どのように地域にあり方に口を出せる？／自治体のお金の使われ方は？）
- 第7回 グローバル化・環境問題と財政（GAFAのような企業による課税逃れをどうする？／地球規模の環境問題にどうアプローチするか？）
- 第8回 これまでの総まとめと振り返り

※履修者の人数、反応、意見、興味関心によって、内容や構成、順番は変更となることがあります。

※アクティブ・ラーニング：いずれの回においても最後の10分程度を用いてオンラインでのリアクションペーパーの記入を課し、次の回で紹介・リブライ(20分程度)を行います。

※授業外学習について：授業内で取り扱った文献、概念、資料、映画、サイト、論文、ニュースなどの中で、自分の関心があるものについて、ぜひ積極的かつ自主的に触れてみてください。こまごました知識の暗記よりは、自分自身の意見や考えを深めるような学習を強く推奨いたします。そのように自主的に調べたことが、次の週のリアクションペーパーに反映されているなどすれば、なお好ましいです。最低限記憶してほしいポイントは最終回にまとめます。

## 履修上の注意/Notes

とりたてて事前知識は要しないような構成を心掛けます。ただし、毎回、オンラインで意見・質問を集め、次の回でそれについてのリブライをすることから講義を始めますので、積極的な参加を期待します。

## 情報端末の活用

事前に共有するフォームズのリンクから、スマートフォンやPCでリアクションペーパーを記入する形式にします。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：授業で扱った内容に関して、社会問題と財政の基本的な知識を十分に修得し、それらを元に、財政・政治をめぐる時事的な社会課題などに対して、自分の意見を説得力をもって明示的に論述することができる。

A：授業で扱った内容に関して、社会問題と財政の基本的な知識を修得し、それらを元に、財政・政治をめぐる時事的な課題などに対して自分の意見を論述することができる。

B：授業で扱った内容に関して、基本的な財政と社会問題の知識を概ね修得している。

C：授業で扱った内容に関して、基本的な財政と社会問題の知識について最低限の修得をしている。

D：授業で扱った内容に関して、財政と社会問題の基本的な知識が修得できていない。

## 成績の評価方法/Grading

リアクションペーパー(100%)による評価を基本とする。

## 教科書/Textbook(s)

備考	特に指定せず、配布するプリントに沿ってすすめる。
----	--------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	租税抵抗の財政学：信頼と合意に基づく社会へ
著者名	佐藤滋, 古市将人著
出版社	岩波書店
出版年	2014
ISBN	978-4000287364
教材費	2530

### 参考書2

書名	財政学の扉をひらく
----	-----------

著者名	高端正幸・佐藤滋 著
出版社	有斐閣
出版年	2021
ISBN	978-4-641-15082
教材費	1800

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	△

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8267	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	富江 直子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

社会学の視点B

## 授業の概要/Course Overview

私たちが取り巻くさまざまな事象を、人とかかわりのなかで社会的に形成されていくものとして見てみましょう。今あるものは自明でも絶対でなく、人と人の相互作用によって作られたものと捉え、相対化していくことで、多様な世界の可能性が想像できるようになってきます。社会によって作られたものなら、社会によって変えていけると考えられるようになってくるでしょう。

## キーワード/Keyword(s)

社会、集団、組織、地域、国家、家族、ジェンダー、階級・階層

## 到達目標/Learning Objectives

- ・社会学各分野の基礎的な知識を身につける。
- ・社会学の視点から身近な社会事象を多面的に分析、考察できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス、社会学の視点
- 2 集団と組織の理論
- 3 国家と社会の社会学
- 4 家族の社会学
- 5 ジェンダーの社会学
- 6 階級・階層の社会学
- 7 空間の社会学
- 8 まとめ

### 【授業外学修】

- (1)生活のなかで、面白いと思うこと、疑問に思うことなどをいろいろ見つけておくことが予習につながります。
- (2)授業の復習は、授業で配付する資料と、各自が作ったノートなどで行って下さい。復習には社会学の事典や入門書なども活用してください。
- (3)各自の関心のあるテーマについては、図書館などで文献を探して学習を深めてください。授業のなかで紹介する参考文献などを使っていたくのもよいと思います。
- (4)授業で学んだ社会学の枠組みを用いて、日常生活のなかの身近な事象を見直してみることも大事な学びになります。
- (5)授業外学修の時間としてはおよそ90分をめやすに取り組んでください。

### 【アクティブ・ラーニング】

授業の中で、各テーマごとにふり返りの確認テストを実施します。

## 履修上の注意/Notes

この授業はTeamsとmanabaを使います。

## 情報端末の活用

授業内でPC等を使用します。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

授業内にmanabaの「小テスト」で行う確認テストの合計点（100%）で評価します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	授業のなかでレジュメを配付します。
----	-------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目



**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8268	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	星 純子（Junko HOSHI）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

地域社会学概論 応用編

## 授業の概要/Course Overview

身近な現象を素材に、地域社会を理解する視点について考察する。地域とは何か、それが形作ってきたものは何か、また地域を形作ってきたものは何か、地域の中にはどのようなアクターがいるのかなどについて、社会的に考察する。前クォーターの地域社会学概論の続きだが、単独での履修も可能である。

## キーワード/Keyword(s)

NPO、自治体、中央政府、コミュニティ、ネットワーク、子ども、高齢者、再生産労働、再開発

## 到達目標/Learning Objectives

身近な地域問題を事例に、地域の制度、枠組み、およびその歴史的变化について理解し、地域より広範囲の枠組み、例えば中央やグローバル化の問題を関連付けて考察することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス、子育てと地域社会
  2. 学校と地域
  3. 自営業者たちと地域社会
  4. 高齢化と地域社会
  5. エスニック集団と地域社会
  6. 地域社会の未来
  7. まとめ、期末試験
- 1-6回は毎回小テストを行う。

## 履修上の注意/Notes

授業の詳細は初回ガイダンスに説明するので必ず出席すること。履修登録者は初回ガイダンスで出された指示や調整を理解したものとする。

### 【授業外学修】

授業前はmanabaにあげるレジュメをチェックし、授業で取り上げた視点で考察する習慣をつけてください。

授業後は参考書に載っている参考文献を読み、授業内容をもとに身近な現象について考察してください。具体的には、新聞記事を切り抜き、それについて授業内容にもとづいた具体的な考察を行ってください。その新聞記事が示しているのは地域社会のいかなる現象か、その現象がなぜおこったのか、記事は何を言おうとしているのか、なぜそれがその媒体で取り上げられるのか、などについて考察してください。

## 情報端末の活用

講義資料はmanabaに事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：地域社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A：地域社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B：地域社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C：地域社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D：地域社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

小テスト(各5点×6)、期末試験(70点)で評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	地方都市を考える 「消費社会」の先端から
著者名	貞包英之
出版社	花伝社
出版年	2015
ISBN	978-4763407559
教材費	1620

### 参考書2

書名	復興に抗する
著者名	中田英樹、高村竜平
出版社	有志舎
出版年	2018
ISBN	978-4-908672187
教材費	2860

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△

実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8269	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	Chienwei YEH（Chienwei YEH）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

人文地理学の考え方ー都市と社会ー

## 授業の概要/Course Overview

都市は「人間の最大の創造物だ」といわれる。人間がいかに都市を築いたのか、どのようなまちづくりが行われてきたのか、世界の諸都市の事例を紹介しながら考察する。また都市社会の特徴と構造について明らかにし、なぜ都市にはスラム地域が生まれるのか、都市内部の格差がなぜ生まれるのかについて考えたい。さらに都市における多文化共生が、いかに実践されているのかについて、日本や諸外国の事例から明らかにする。

## キーワード/Keyword(s)

人文地理学、都市、都市計画、スラム、エスニックシティ、観光

## 到達目標/Learning Objectives

人文地理学の基本的な考え方を理解できる。  
都市の形成・発展過程について時代と地域による違いを理解できる。  
都市が人びとの生活や国家の政治・社会・経済・文化の基盤として重要な役割を果たしてきたことが認識できる。  
都市はが常に多くの人びとを引きつけ、それによって変化していることを理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1)シラバスを用いたガイダンス
- (2)都市の地理学ーさまざまな都市ー  
歴史的な都市・世界の諸都市について学ぶ
- (3)都市が変化するー都市の歴史ー  
江戸～東京のまちづくりについて学ぶ
- (4)都市が変化するー都市の歴史ー②  
大坂と大阪のまちづくりについて学ぶ
- (5)都市をつくる～都市計画  
都市はいかにつくられたのか、都市計画とまちづくりについて学ぶ
- (6)都市のなかの不平等  
人が集まることによって都市社会がいかに形成されたのか、また都市のなかの不平等がいかに拡大していくのか考える

#### (7)都市のなかの外国

さまざまな民族が集まる都市に形成されたエスニックタウンについて学ぶ

#### (8)まとめと試験

授業の前半で授業の総括を行い（45分）、後半で試験を実施する（45分）

#### 授業外学修】

（1）講義内容は事前にTeamsにアップロードするので、ダウンロードして授業の準備をし、講義終了後にも地図や配布資料と共に復習すること。

（2）授業において出された課題について、次週までに必ず学修し提出すること。

（3）授業時間中に見た資料について、授業終了後に内容を復習し、自分の考えをまとめること。

（4）各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

（1）授業内でアンケートなどを通じて意見を発表し、意見交換を行う。

（2）毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

- 1)高等地図帳（高校などで使用したもの）を持参してください。
- 2)正当な理由がない限り、遅刻および早退30分以上は欠席とみなします。
- 3)オフィスパワー：火曜日昼休み（事前にメールで連絡のこと）

## 情報端末の活用

- ・講義資料はTeamsに事前にアップロードするので、ダウンロードして授業に出席すること
- ・課題レポートについては、Teamsあるいはmanabaを通じて提出すること

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：人文地理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに社会との関連を十分に説明できている。

A：人文地理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらに社会との関連を説明できている。

B：人文地理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに社会との関連についてある程度説明できている。

C：人文地理学の基本的な知識と考え方について最低限修得し、さらに社会との関連について最低限説明できている。

D：人文地理学の基本的な知識と考え方について修得できておらず、さらに社会との関連についての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業中に課す課題／レポートなど（30%）および期末試験(70%)により評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書はとくに指定しない 参考書：『地理学概論』上野和彦ほか編著，朝倉書店，3564円（税込）， 『ジオグラフィー入門』高橋信夫ほか編，古今書院，2700円（税込） そのほか、授業中に配布または紹介する。
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地理学概論
著者名	上野和彦, 椿真智子, 中村康子編著
出版社	朝倉書店
出版年	2015
ISBN	9784254168198
教材費	

参考書2

書名	よくわかる都市地理学
著者名	藤井正, 神谷浩夫 編著
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2014
ISBN	9784623067237
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8270	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

生命保険を考える（生命保険協会提供講座）

## 授業の概要/Course Overview

この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観する。

その理解の上に立ち、少子・高齢化社会の一層の進展等により表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、考察を深めて行く。

また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組・役割等について学ぶことを通じて、持続可能な社会を営む一員として、また、消費者として、役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

以上の内容について、実務家（後述）が講師となり、経験談や最新情報も随所に織り込み、理論と実践とのバランスに配慮して講義を行う。

この授業を通じて、それぞれの人生について考え、成長する契機として頂きたい。

## キーワード/Keyword(s)

社会保障と生命保険、公的保障と私的保障、共助と自助、生活設計とリスク管理

## 到達目標/Learning Objectives

1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。
2. 現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる。
3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 オリエンテーション、生保総論（私達を取り巻く環境、公私の生活保障、生命保険の歴史等）

（担当：（一社）生命保険協会 茨城県協会事務局長 池田秀喜）

第2回 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計・リスクとは？等）

（担当：同協会 調査部シニアアドバイザー 瀬戸信之）

第3回 公的保障と生保①（死亡・医療それぞれのリスクへの備え）

（担当：池田秀喜）

第4回 公的保障と生保②（老後・介護それぞれのリスクへの備え）

（担当：池田秀喜）

第5回 生命保険契約の仕組、生命保険と資産運用（消費者保護の視点も考慮したサービス設計を含む）

（担当：同協会 調査部長 鈴木孝昌）

第6回 生命保険商品の変遷・動向（生保の主力商品が、時代・社会構造の変化に応じてどのように対応し、多様化してきたかの確認）

（担当：池田秀喜）

第7回 災害時の生命保険業界の対応（東日本震災時等の生命保険協会の対応）

（担当：池田秀喜）

第8回 総括（担当：池田秀喜） 45分  
期末試験（担当：池田秀喜） 45分

【授業外学修】

- (1)毎回事前に配信する資料により次時の授業内容の予習と本時の復習を行っておくこと。
- (2)少子・高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況等について、メディア等を通じて情報収集し、自分なりの課題意識・意見を持って授業に臨むこと。
- (3)各回の授業外学修に要する時間は60分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1)毎回の授業終了時に、レスポンスシート（A4サイズ1枚程度）を配布し、提出してもらう。  
（例：授業内容の理解度確認として的小テスト、設定したテーマに関する意見の論述など）

## 履修上の注意/Notes

- (1)前述のポータルシステムを通じて、毎回事前に授業資料を配信する。
- (2)前述のレスポンスシートの中で、その回の授業についての感想・気づきも書いてもらうことを予定しているが、直接質問等は、講義後に時間を取り対応する。

## 情報端末の活用

活用予定なし

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

## 成績の評価方法/Grading

到達目標の3点について、レスポンスシートの内容30%、期末試験の得点70%で成績を評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

一般社団法人 生命保険協会の提供講座として、同協会役職員（※）によるオムニバス形式である。  
 （※）生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業について豊富な知識・経験等を有する  
 ただし、授業内容の一貫性を保つため、同協会・茨城県事務局長がメインスピーカーとして、全ての回を担当する。その立会のもとで、第2・5回は、同協会・本部（東京）の役職員がゲストスピーカーとして担当予定である。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8271	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アントレプレナーシップ入門Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

アントレプレナーシップ入門Ⅰで学んだアントレプレナー/イントレプレナーに必要な資質・能力を踏まえ、入門Ⅱではイノベーションについて考えていく。ますます不確実な未来予想の中で、社会課題を解決するために、新たな価値を創出するイノベーション。イノベーションとは何なのか、イノベーションが求められる背景、それがどのように生み出されるのか、についていくつかのテーマ毎に学ぶ。講義は外部のアントレプレナー/イントレプレナーを講師として招き、知見獲得を目指すとともに、途中グループワークによるふりかえりを挟むことで、他者との対話を通してイノベーションについて考えていく。

## キーワード/Keyword(s)

イノベーション、希望、アントレプレナーシップ、アントレプレナー/イントレプレナー、社会課題解決、チャレンジ精神、営利組織（企業）、非営利組織（NGO/NPO）

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) イノベーションの意味について理解している。
- (2) イノベーションが求められる背景について理解している。
- (3) 身近なイノベーションを発見し、それが必要とされる背景と生み出された新たな価値について理解している。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、イノベーションとは何か、イノベーションが求められる背景、について（オンライン授業（Zoom））

第2回：外部講師による講義① ～医療とイノベーション～（対面授業）

第3回：外部講師による講義② ～女性とイノベーション～（対面授業）

第4回：第2回、第3回の外部講師による授業のふりかえり（オンライン授業（Zoom））

第5回：外部講師による講義③ ～ITとイノベーション～（対面授業）

第6回：外部講師による講義④ ～まちづくりとイノベーション～（対面授業）

第7回：第5回、第6回の外部講師による授業のふりかえり（オンライン授業（Zoom））

第8回：授業のまとめ（45分）（オンライン授業（Zoom））

\*外部講師との調整により、順番が変わったり、内容が多少変わることもある

### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。
- ・イノベーションが求められる背景、各自の身近なイノベーション、について各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。
- ・各回の外部講師については事前にアナウンスをするので、各自その講師の経歴・事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考

えておくこと。

#### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1, 4, 7, 8回については, Zoomのブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッションを行う。
- (2) 第2, 3, 5, 6回については, 講師による講義後、質疑応答を行う。
- (3) また, 毎回の授業終了時は, FORMSによるふりかえりコメント提出を行い、理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

- (1) オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。
- (2) 最終レポートについては, manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。  
A : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。  
B : 到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。  
C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。  
D : 到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回授業最後に提出するふりかえりコメント(50%)と最終レポート(50%)とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	ソーシャル・イノベーションが拓く世界：身近な社会問題解決のためのトピックス30
著者名	西村仁志 編著
出版社	法律文化社
出版年	2014
ISBN	9784589036278
教材費	2860

### 参考書2

書名	希望のつくり方
著者名	玄田有史 著
出版社	岩波書店
出版年	2010

ISBN	9784004312703
教材費	836

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

オムニバス形式の授業として、営利組織（企業）や非営利組織（NGO/NPO）でアントレプレナー/イントレプレナーとして起業経験のある外部講師をお呼びし、その経験を活かして、具体的にイノベーションについて講義する。

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8272	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 雅一				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

教育と学習

## 授業の概要/Course Overview

教育や学習について考えるという立場から、教育の歴史の変遷や学習のあり方について学び、教育や学習についての多様な理解を深めていく。教育の歴史の変遷や学習のあり方と、自分の学習歴との関係を改めて考えていくことで、教育や学習のあり方を捉えなおし、自身に関わる教育や学習を構想していく力量を高めることを目標とする。

## キーワード/Keyword(s)

教育、学習、学習歴

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 教育や学習について、歴史や思想に基づいた思考ができる。
- (2) 自身の学習歴を参照し、教育や学習を再考することができる。
- (3) 自身に関わる教育や学習を構想することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス（シラバス使用）及び、教育と学習を分けて考えること
- 第2回 ライフコースにおける教育～生涯学習社会
- 第3回 制度としての学校の成立過程～子ども概念と教育
- 第4回 各社会の段階における課題～Society 5.0による区分ごとの考え方
- 第5回 地域での学び～社会教育・生涯学習の観点
- 第6回 多文化共生と合意形成
- 第7回 教育と学習を分ける視点から自身の学習歴を整理する
- 第8回 自身に関わる教育や学習のあり方の検討と展開（総括）

### 【授業外学修】

- (1) 予習：授業内容の確認、教育や学習に関する情報（ニュースや記事など）の収集に取り組む。
- (2) 復習：授業内容のふりかえり、不足分や新たに考えた内容を授業の記録に追記する。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 毎回の授業終了時にミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。
- (2) ミニツツペーパーに対してフィードバックを行い、更なる議論へとつなげる。

## 履修上の注意/Notes

遅刻や提出物の遅れは2回で欠席1回とする。

## 情報端末の活用

講義資料はmanabaを通じて配信する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。

A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。

B : 到達目標の3点（主に（1）（2））についておおむね以上のレベルで達成されている。

C : 到達目標の3点（主に（1））について最低限のレベル以上において達成されている。

D : 到達目標の3点のうち1点以上（特に（1））について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

小課題など授業への取り組み状況（50%）、最終レポート（50%）

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	教育学をつかむ 改訂版
著者名	木村元, 小玉重夫, 船橋一男著
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641177260
教材費	2420

### 参考書2

書名	ワークショップと学び まなびを学ぶ
著者名	苅宿俊文, 佐伯胖, 高木光太郎 編
出版社	東京大学出版会
出版年	2012
ISBN	9784130530811
教材費	2800

### 参考書3

書名	「学び」の構造
著者名	佐伯 胖/著
出版社	東洋館出版社
出版年	1985



ISBN	9784491002774
教材費	1100

参考書4

書名	わかったつもり：読解力が見つからない本当の原因
著者名	西林克彦 著
出版社	光文社
出版年	2005
ISBN	9784334033224
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8273	ナンバリング	KB-GHS-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

Diversity and Social Issues in Japan B

## 授業の概要/Course Overview

This course aims to introduce various issues on diversity and social issues in Japan. It particularly focuses on issues concerning foreign workers, women and gender, heterosexism, poverty, education system, etc. It will provide an opportunity to consider through concepts of oppression, privilege, Japaneseness, and intersectionality. It welcomes both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussions about these issues.

## キーワード/Keyword(s)

Multicultural society, diversity in Japan, social issues in Japan, Japaneseness, women and gender in Japan, heterosexism in Japan, privilege and oppression

## 到達目標/Learning Objectives

1. Students will familiarize themselves with various social issues in Japan.
2. Students will be able to critically analyze these issues from different perspectives.
3. Students will present their opinions about these issues.
4. Students will give a presentation on a given topic related to these issues.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

[Class Contents]

1. Introduction to the Course, Concepts of Privilege and Oppression
2. Privilege and Japaneseness
3. Foreign Workers and Immigration Policies in Japan
4. Poverty in Japan
5. Women and Gender in Japan
6. Heterosexism and Oppression against LGBTQ People in Japan
7. Social Issues from Global Perspectives/Presentation Preparation
8. Presentation Session, Summery

[Active Learning]

In this class, students are expected to join the group discussion in every class except the last class (week 8).

On the 8th week, students will make group presentation.

In this class, students are required to write the reflective journal at the end of each class.

[Out-of-the-class learning]

1. Read assigned reading materials and watch preview slides/assigned clips for each week before class and take notes of something that you may come up with for group discussions when reading these reading materials
2. After each class, you are required to turn in reflection (comments and/or questions) and review questions.
3. In addition to the assigned reading materials, read other academic papers, newspapers, and books which relate to topics taken up in class
4. Average time of "out-of-class learning" is 90 minutes per week including writing the final paper.

## 履修上の注意/Notes

1. This class will be conducted in English.
2. Students are required to actively participate in every class discussion.
3. Students are required to write a reflective journal every class.
4. If one is late for the class three times, it will be counted as being absent once.
5. If one is absent more than one thirds of the classes, s/he cannot pass the course.

## 情報端末の活用

The instructor will not distribute copies of class materials. Please bring your PC if you need to look up the digital files.  
Students are required to submit reflection paper, final paper and reading log on manaba.

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+: Outstanding performance indicating an excellent understanding of the concepts and principles for diversity and social issues in Japan.
- A: Fairly good performance indicating a good understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
- B: Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are understood and steady improvement is being made.
- C: Performance is the minimum required to achieve improvement. Demonstrates some understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.
- D: Performance is below the standards and failing. Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are not understood.

## 成績の評価方法/Grading

Active Class Participation 10%  
Weekly Reflection and Review 15%  
Task Paper 20%  
Presentation 15%  
Final paper 40%

There will be no final exam in Week 8.

## 教科書/Textbook(s)

備考	References will be distributed in the class.
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	An introduction to Japanese society
----	-------------------------------------

著者名	Yoshio Sugimoto
出版社	Cambridge University Press
出版年	2021
ISBN	978-1108724746
教材費	4500

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	Students need to participate in this class in English.
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8351	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	馬渡 剛（Tsuyoshi Mawatari）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

日本の政治

## 授業の概要/Course Overview

本講義では、政治とは何かという基礎的なテーマから、日本の国会や我々にとって身近な存在である地方自治体では、日々、何が行われているのかというトピックスまで幅広く解説する。またその時々ニュースや時事問題も積極的に取り上げながら、政治の仕組みについて説明する。

## キーワード/Keyword(s)

政治、行政、制度、財政、防災

## 到達目標/Learning Objectives

第一に、政治の仕組みや基礎概念を説明できること、第二に、国政や地方政治を理解する上で重要な諸制度（議院内閣制、二元代表制、選挙制度など）の説明ができることを目標とする。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス  
【授業外学修】高校の時に用いた政治経済に関する教科書に目を通しておくこと。
- 第2回：【授業内容】政治とは何か  
【授業外学修】高校の時に用いた政治経済に関する教科書に目を通しておくこと。
- 第3回：【授業内容】議院内閣制 vs. 大統領制 どちらが望ましい？  
【授業外学修】執政制度についてあらかじめ調べておくこと。
- 第4回：【授業内容】なぜ日本の首相はすぐに交代するのか  
【授業外学修】戦後日本の首相一覧をあらかじめ調べておくこと。
- 第5回：【授業内容】ポピュリズムについて考える  
【授業外学修】事前に紹介する参考文献に目を通しておくこと。
- 第6回：【授業内容】職業としての政治家・公務員  
【授業外学修】全国紙の政治面に目を通しておくこと。
- 第7回：【授業内容】なぜ消費税は上がるのか  
【授業外学修】わが国の財政について事前に財務省のホームページを参照しておくこと。
- 第8回：【授業内容】若者が選挙に行かないとどのような不利益があるのか  
【授業外学修】投票率について事前に総務省のホームページを参照しておくこと。

## 履修上の注意/Notes

講義開始後、30分以上の遅刻は欠席として扱う。オフィス・アワーは火曜日の昼休み。シラバスの順番通りに講義していく予定だが、場合によって（その時々政治・経済・社会状況によって）変更されることもある。

## 情報端末の活用

活用しない。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 政治の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 政治の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 政治の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 政治の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 政治の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験（100%）を行う。世界の俯瞰する知識に関して50%（評価の観点には到達目標の①）、専門分野の知識や思考力に関して50%（評価の観点には到達目標の②）。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いない。 参考書：伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣、2003年、1995円。北山俊哉他『はじめて出会う政治学』有斐閣、2009年、1890円。馬渡剛『戦後日本の地方議会』ミネルヴァ書房、2010年、7350円。
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8352	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	福田 智子（Tomoko Fukuda）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

高齢社会と成年後見制度

## 授業の概要/Course Overview

本講義は、世界で最も高齢社会が進む日本における成年後見制度（精神上の障害により自分に関する事柄を自身で決めることができない人をサポートする制度）の概要について学ぶことを目的とする。成年後見法（民法・任意後見契約に関する法律）は、民法と密接に関係する内容であるが、本講義では法律だけでなく、成年後見制度の全体像（関連する公的機関・民間機関・コミュニティ）、認知症や犯罪など高齢者にかかわる問題、そして世界における成年後見制度の内容や動向など、幅広い範囲にわたり学習する。

## キーワード/Keyword(s)

成年後見制度、高齢社会、法定後見、任意後見、意思決定支援

## 到達目標/Learning Objectives

- (1)成年後見制度の概要を理解できている
- (2)(1)に対する問題点や改善点等を考察した上で、自分の意見を論理的に説明することができる

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスに関するガイダンスと日本における高齢社会の現状把握  
ガイダンスでは授業内容、予習の仕方、参考図書等に関する説明をする
- 第2回 高齢者を取り巻く問題（認知症、犯罪など）
- 第3回 成年後見制度概論（成年後見制度にかかわる機関や厚生労働省の取り組みなど）
- 第4回 成年後見制度各論①（法定後見制度）
- 第5回 成年後見制度各論②（任意後見制度）
- 第6回 成年後見人、任意後見人の役割（意思決定支援など）
- 第7回 諸外国（ドイツ・イギリス・オーストリアなど）の成年後見制度
- 第8回 総括（45分間）、試験（45分間）

### 【授業外学習】

各回で取り扱う内容について、事前に参考図書などでその概要等を確認し、分からない用語等は調べておくこと。

各回の授業外学習に要する時間は90分程度とする。

## 履修上の注意/Notes

毎回、授業の最後に小テストを行う（manabaで実施）。  
最後の講義内で、45分間の最終テストを行う（manabaで実施）。

## 情報端末の活用

オンライン授業のためPC必須

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：成年後見制度の基本的な知識と考え方を十分に修得し、その問題点や改善点を深く洞察し、論理的に自分の考えや提言を説明できている  
A：成年後見制度の基本的な知識と考え方を修得し、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えや提言を説明できている  
B：成年後見制度の概要を理解し、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えを説明できている  
C：成年後見制度の概要を理解しているが、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えを説明できていない  
D：成年後見制度の概要を理解できていない

## 成績の評価方法/Grading

成績評価は、毎回実施する小テストと最後の講義に行う最終テストの合計点で行う。  
毎回の小テスト（択一式、毎回4問、各2点）合計56点、最終テスト（記述式）合計44点の合計得点で成績評価を行う。

## 教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書2

書名	認知症と民法
著者名	小賀野晶一, 成本迅, 藤田卓仙 編
出版社	勁草書房
出版年	2018
ISBN	9784326449743
教材費	3200

### 参考書3

書名	認知症と医療
著者名	成本迅, 藤田卓仙, 小賀野晶一 編
出版社	勁草書房
出版年	2018
ISBN	9784326449750
教材費	3200

参考書4

書名	認知症と情報
著者名	藤田卓仙, 小賀野晶一, 成本迅 編
出版社	勁草書房
出版年	2019
ISBN	9784326449767
教材費	3000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語
-----

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8353	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	上田 悠久（Ueda Haruhisa）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

民主主義の歴史

## 授業の概要/Course Overview

かつてイギリスの首相を務めたウィンストン・チャーチルは、「民主主義は、これまで試されてきた他のありとあらゆる政治制度を除けば、最悪の政治形態である」と述べ、民主主義がベストではなくとも、人類が長い歴史の中で編み出してきたベターな選択肢であると示しました。この授業では古代ギリシアまで遡って民主主義の歴史を辿り、現代に至るまで民主主義を巡ってどのような議論が展開されてきたのか概観し、民主主義の課題について考えていきます。

## キーワード/Keyword(s)

民主主義、政治思想史、古代、近代、ヨーロッパ、日本、議会、大衆社会

## 到達目標/Learning Objectives

1. 民主主義の歴史や、民主主義についてこれまで展開されてきた議論を理解できるようになる
2. 民主主義の下で生きる市民として、民主主義について自分の問題として考えられるようになる
3. 民主主義について、自分の考えを論理的に組み立て、自分の言葉で表現できるようになる

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：オリエンテーション：民主主義とは何か  
 第2回：古代ギリシアの民主主義——民主主義の失敗？  
 第3回：混合政体——権力のバランスと民主主義  
 第4回：議会制民主主義の成立——代表制とは何か？  
 第5回：民主主義の変容——大衆社会  
 第6回：日本の戦後民主主義  
 第7回：民主主義の将来  
 第8回：まとめ（45分）、試験

### 【授業外学修】

- （1）講義資料はTeamsにアップロードするので、授業前に読んでおくこと。
  - （2）各授業回で取り扱う内容について、授業後に復習し、疑問点をリアクション・ペーパーにまとめ整理すること。
  - （3）授業で紹介したテキストを各自読んで理解を深めること。
- ※各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

- （1）毎回の授業後に書いてもらったリアクション・ペーパーに、翌週の授業で応答します。
- （2）理解度の確認のため小テストを、第2回～第7回の各回で実施し、次の授業でフィードバックを行います。

(3) リアルタイム（同時双方向）授業では担当講師から質問を投げかけて、チャットで応答してもらうことを考えています。

## 履修上の注意/Notes

- (1) 高校の世界史、政治経済、倫理の知識があると役に立ちますが、未履修でも構いません。必要な前提知識は授業で紹介します。
- (2) 授業計画、評価方法は、受講者数や社会情勢に応じて変更の可能性があります。変更の際は受講生に周知します。

## 情報端末の活用

リアルタイム配信型、オンデマンド授業の視聴はTeams、小テストの受験やリアクション・ペーパー提出はmanabaを使って実施する予定です。PC等の端末や通信環境を有していることを前提に授業を進めます。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 3つの到達目標をすべて高いレベルで達成している
- A : 3つの到達目標を達成している
- B : 3つの到達目標のうち2つを達成している
- C : 3つの到達目標のうち1つを達成している
- D : どの到達目標も達成できていない

## 成績の評価方法/Grading

- 試験（50点）
- 小テスト（30点：5点×6回）
- 平常点（リアクションペーパー、授業への貢献など）（20点）

## 教科書/Textbook(s)

備考	特定の教科書は用いません。授業で取り上げる著作の多くは図書館に所蔵されています。授業全体に関わる代表的な参考書を以下に挙げますが、これ以外については授業で紹介します。
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	民主主義とは何か
著者名	宇野重規
出版社	講談社
出版年	2020
ISBN	9784065212950
教材費	940

### 参考書2

書名	民主主義の源流：古代アテネの実験
著者名	橋場弦
出版社	講談社
出版年	2016
ISBN	9784062923453

教材費	
-----	--

参考書3

書名	西洋政治思想史
著者名	宇野重規著
出版社	有斐閣
出版年	2013
ISBN	9784641220010
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○
---

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語
-----

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8354	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	石垣 建志（Takeshi Ishigaki）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

経済学入門（ゲーム理論）

## 授業の概要/Course Overview

経済学は現代社会を生きるための常識です。  
経済学の大きな土台となるのが、ゲーム理論です。  
ゲーム理論は、「駆け引き」をあつかう応用数学の一分野です。  
あまり数理的にならない範囲で、しかし標準的な内容の入門レベルのゲーム理論の授業を行います。  
またゲーム理論の先に、これからの社会のあり方についてどのような展望が見えるのか、触れることができると思います。

## キーワード/Keyword(s)

ゲーム理論, 標準形ゲーム, 展開型ゲーム 囚人のジレンマ, 進化ゲーム, Nash均衡解, 繰り返しゲーム, メカニズムデザイン

## 到達目標/Learning Objectives

ゲーム理論の基礎的概念を理解し、社会の現象などをゲーム理論を用いて考察できること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス, 標準形ゲーム
2. Nash均衡解
3. 混合戦略)
4. 展開形ゲーム
5. 繰り返しゲーム（割引率, トリガー戦略）
6. 進化ゲーム
7. ゲーム理論からメカニズムデザインへ

【授業外学修】

講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

## 履修上の注意/Notes

オフィス・アワーは木曜3時限です。

## 情報端末の活用

1. 講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
2. 課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。



## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 本授業の範囲内のゲーム理論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 本授業の範囲内のゲーム理論の考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 本授業の範囲内のゲーム理論の考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 本授業の範囲内のゲーム理論の知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 本授業の範囲内のゲーム理論の知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

中間レポートの提出（25%）と試験レポート（75%）による。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は指定しない。
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	戦略的思考の技術：ゲーム理論を実践する
著者名	梶井厚志 著
出版社	中央公論新社
出版年	2002
ISBN	4121016580
教材費	760

### 参考書2

書名	ゼミナールゲーム理論入門
著者名	渡辺隆裕著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2008
ISBN	4532133467
教材費	3500

### 参考書3

書名	メカニズムデザインで勝つ：ミクロ経済学のビジネス活用
著者名	坂井豊貴, オークション・ラボ著
出版社	日経BP日本経済新聞出版本部
出版年	2020
ISBN	4532358604
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8355	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	田中 耕市				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

防災と地理学

## 授業の概要/Course Overview

本講義では、地震・津波を主とする自然災害について、人文・社会・自然分野に跨がる地理学的視点から考察する。特に、災害発生後における緊急対応や救援物資輸送など、残されている課題について学ぶ。

## キーワード/Keyword(s)

地理学, 防災, 減災, 物資輸送, GIS(地理情報システム)

## 到達目標/Learning Objectives

地域の問題を発見して、地理学的・空間的視点からそれを分析・考察する力を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス, インTRODクシヨン
2. 救援物資輸送を考える（教科書序章）
3. 広域自然災害と救援物資輸送（教科書第1・2章）
4. 自然的側面からみた救援物資輸送の課題（教科書第3章）
5. 社会経済的側面からみた救援物資輸送の課題（教科書第4章）
6. GISによる輸送シミュレーション（教科書第5章）
7. 救援物資輸送計画とGISの活用（教科書第6章）
8. 総括

### 【授業外学修】

予習については、前の回の授業において指示をする。

授業中に学んだ内容について教科書や資料をもとに、ネット検索も用いつつ復習すること。

受講者間で情報を共有しながらディスカッションをすることも効果的である。

復習内容はノートにまとめておくこと。

学習テーマに関する自発的な予習・復習は重要な授業外学修である。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

ミニツツペーパーの内容や質問について、次回授業冒頭で説明・回答する。

## 履修上の注意/Notes

教科書は各自で購入すること（オンラインで購入もできる）。  
ミニッツペーパーは小テストを兼ねる。授業中、受講生には積極的な発言を求める。  
20分までの遅刻は小テストの点数を減点する。20分以上の遅刻は認めない。

## 情報端末の活用

オンライン授業のためPCを利用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標について極めて高いレベルで達成されている。  
A：到達目標について高いレベル以上で達成されている。  
B：到達目標についておおむね以上のレベルで達成されている。  
C：到達目標について最低限のレベル以上において達成されている。  
D：到達目標について最低限のレベルが達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業後の小テスト(100%)。その他、発言についても加点する。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	救援物資輸送の地理学：被災地へのルートを確保せよ
著者名	荒木一視 [ほか] 著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2017
ISBN	9784779512179
教材費	2420

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	○

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

**PBL科目**

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語
-----

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8356	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

生命保険を考える（生命保険協会提供講座）

## 授業の概要/Course Overview

この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観する。

その理解の上に立ち、少子・高齢化社会の一層の進展等により表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、考察を深めて行く。

また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組・役割等について学ぶことを通じて、持続可能な社会を営む一員として、また、消費者として、役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

以上の内容について、実務家（後述）が講師となり、経験談や最新情報も随所に織り込み、理論と実践とのバランスに配慮して講義を行う。

この授業を通じて、それぞれの人生について考え、成長する契機として頂きたい。

## キーワード/Keyword(s)

社会保障と生命保険、公的保障と私的保障、共助と自助、生活設計とリスク管理

## 到達目標/Learning Objectives

1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。
2. 現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる。
3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 オリエンテーション、生保総論（私達を取り巻く環境、公私の生活保障、生命保険の歴史等）

（担当：（一社）生命保険協会 茨城県協会事務局長 池田秀喜）

第2回 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計・リスクとは？等）

（担当：同協会 調査部シニアアドバイザー 瀬戸信之）

第3回 公的保障と生保①（死亡・医療それぞれのリスクへの備え）

（担当：池田秀喜）

第4回 公的保障と生保②（老後・介護それぞれのリスクへの備え）

（担当：池田秀喜）

第5回 生命保険契約の仕組、生命保険と資産運用（消費者保護の視点も考慮したサービス設計を含む）

（担当：同協会 調査部長 鈴木孝昌）

第6回 生命保険商品の変遷・動向（生保の主力商品が、時代・社会構造の変化に応じてどのように対応し、多様化してきたかの確認）

（担当：池田秀喜）

第7回 災害時の生命保険業界の対応（東日本震災時等の生命保険協会の対応）

（担当：池田秀喜）

第8回 総括（担当：池田秀喜） 45分  
期末試験（担当：池田秀喜）45分

【授業外学修】

- (1)毎回事前に配信する資料により次時の授業内容の予習と本時の復習を行っておくこと。
- (2)少子・高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況等について、メディア等を通じて情報収集し、自分なりの課題意識・意見を持って授業に臨むこと。
- (3)各回の授業外学修に要する時間は60分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

- (1)毎回の授業終了時に、レスポンスシート（A4サイズ1枚程度）を配布し、提出してもらう。  
（例：授業内容の理解度確認として的小テスト、設定したテーマに関する意見の論述など）

## 履修上の注意/Notes

- (1)前述のポータルシステムを通じて、毎回事前に授業資料を配信する。
- (2)前述のレスポンスシートの中で、その回の授業についての感想・気づきも書いてもらうことを予定しているが、直接質問等は、講義後に時間を取り対応する。

## 情報端末の活用

活用予定なし

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている
- A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている
- C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

## 成績の評価方法/Grading

到達目標の3点について、レスポンスシートの内容30%、期末試験の得点70%で成績を評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

一般社団法人 生命保険協会の提供講座として、同協会役職員（※）によるオムニバス形式である。  
 （※）生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業について豊富な知識・経験等を有する  
 ただし、授業内容の一貫性を保つため、同協会・茨城県事務局長がメインスピーカーとして、全ての回を担当する。その立会のもとで、第2・5回は、同協会・本部（東京）の役職員がゲストスピーカーとして担当予定である。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--



時間割コード	KB8357	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アントレプレナーシップ入門 I

## 授業の概要/Course Overview

ますます不確実な未来予想の中で、営利・非営利を問わず社会課題を解決するために、アントレプレナー（起業家）やイントレプレナー（社内起業家）が求められる背景やそのために必要な資質・能力について学ぶ。講義は外部のアントレプレナー/イントレプレナーを講師として招き、知見獲得を目指すとともに、途中グループワークによるふりかえりを挟むことで、他者との対話を通してアントレプレナーシップ（起業家精神）について考えていく。

## キーワード/Keyword(s)

アントレプレナーシップ、アントレプレナー/イントレプレナー、社会課題解決、チャレンジ精神、リーダーシップ、営利組織（企業）、非営利組織（NGO/NPO）、社会力

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) アントレプレナー/イントレプレナーが求められる背景について理解している。
- (2) アントレプレナー/イントレプレナーに必要な資質・能力について理解している。
- (3) 身近なアントレプレナー/イントレプレナーを発見し、その役割と意義について理解している。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、アントレプレナー（起業家）/イントレプレナー（社内起業家）・アントレプレナーシップ（起業家精神）とは何か、アントレプレナーやイントレプレナーが求められる背景、生まれながらに利他的な人間の特徴、について（オンライン授業（Zoom））

第2回：外部講師による講義① ～営利組織（企業）でのアントレプレナー～（対面授業）

第3回：外部講師による講義② ～非営利組織（NGO/NPO）でのアントレプレナー～（対面授業）

第4回：第2回、第3回の外部講師による授業のふりかえり（オンラインによるグループワーク）（オンライン授業（Zoom））

第5回：外部講師による講義③ ～海外でのアントレプレナー～（対面授業）

第6回：外部講師による講義④ ～企業でのイントレプレナー～（対面授業）

第7回：第5回、第6回の外部講師による授業のふりかえり（オンライン授業（Zoom））

第8回：授業のまとめ（45分）（オンライン授業（Zoom））

\* 外部講師との調整により、順番が変わったり、内容が多少変わることもある

### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。
- ・アントレプレナー（起業家）やイントレプレナー（社内起業家）が求められる背景、必要とされる資質・能力、各自の身近なアントレプレナー/イントレプレナー、について各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。

・各回の外部講師については事前にアナウンスをするので、各自その講師の経歴・事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考  
えておくこと。

#### 【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1, 4, 7, 8回については、Zoomのブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッションを行う。

(2) 第2, 3, 5, 6回については、講師による講義後、質疑応答を行う。

(3) また、毎回の授業終了時は、FORMSによるふりかえりコメント提出を行い、理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

(1) オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。

(2) 最終レポートについては、manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。

A : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。

B : 到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。

C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D : 到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回授業最後に提出するふりかえりコメント (50%) と最終レポート (50%) とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	リーダーになる人に知っておいてほしいこと
著者名	松下幸之助 述
出版社	PHP研究所
出版年	2009
ISBN	9784569704104
教材費	1047

### 参考書2

書名	子どもの社会力
著者名	門脇厚司 著
出版社	岩波書店
出版年	1999

ISBN	4004306485
教材費	858

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

オムニバス形式の授業として、営利組織（企業）や非営利組織（NGO/NPO）でアントレプレナー/イントレプレナーとして起業経験のある外部講師をお呼びし、その経験を活かして、具体的にアントレプレナーシップ（起業家精神）について講義する。

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8358	ナンバリング	KB-GHS-112-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

Intercultural Psychology A

## 授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students would also experience cross-culture while imagining life in the international community. We will make international comparisons to deepen our understanding of cultural differences. Lecture include psychological perspectives on the differences between Japanese society, American society, and Chinese society.

## キーワード/Keyword(s)

Psychology, cross-culture, cultural difference, foreign cultures, social psychology

## 到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know how it is like to adapt in a cross-cultural society. Goal of this course is to learn the basic knowledge of psychology and adapt it to real life. Also, we aim to improve English skill by conducting lectures in English.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods)
2. What is psychology?
3. Social psychology
4. Cross-cultural psychology and adaptation
5. Japanese concept of Wa, Enryo, and Amae
6. Stereotype and prejudice
7. How to overcome prejudice
8. Summary

Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

## 履修上の注意/Notes

Basically, this course will be conducted in English.

※Schedule of syllabus might differ depending on students interest and lecture progress.

If you miss a short report or short quiz, it will be counted as an absent.

## 情報端末の活用

PC等活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.  
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.  
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.  
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of psychology.  
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of psychology.

## 成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Short report or quiz 40 %, Final Exam 60 %.

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

English

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8359	ナンバリング	KB-GHS-111-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	馬渡 剛（Tsuyoshi Mawatari）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

生き残るための政治学

## 授業の概要/Course Overview

我が国が少子高齢化や財政難などの課題を抱える中、我々は厳しい現実と向き合いながらも生きていく必要がある。「生き残り」を鍵概念に据える本講義では、日本はどのような課題に直面しているのか、中央・地方政府の取り組みについて概説するとともに、その時々ニュースや時事問題も積極的に取り上げながら、政治や行政の仕組みについて説明する。

## キーワード/Keyword(s)

政治、行政、少子高齢化、人口減、消滅自治体、地方創生、防災・減災

## 到達目標/Learning Objectives

第一に、政治の仕組みや基礎概念を説明できること、第二に、国政や地方政治を理解する上で重要な諸制度（議院内閣制、二元代表制、選挙制度など）の説明ができること、第三にどのような危機に日本が直面しているのか説明できることを目標とする。

ディプロマ・ポリシー：②専門分野の学力、⑤地域活性化志向

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス

【授業外学修】現在起きている政治にかかわる諸問題について、シラバスを参照しながらあらかじめ調べておく。

第2回：【授業内容】日本における地方政治の存在意義

【授業外学修】地方紙を参照し、あらかじめ地方政治に関して興味あるトピックスを調べておく。

第3回：【授業内容】茨城県の政治・行政について理解を深める

【授業外学修】地方紙を参照し、あらかじめ地方政治に関して興味あるトピックスを調べておく。

第4回：【授業内容】東日本大震災と自助・共助・公助

【授業外学修】国の防災計画等を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第5回：【授業内容】消滅自治体の衝撃と地方の生き残り策

【授業外学修】増田寛哉『地方消滅』を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第6回：【授業内容】生き残るののために何ができるのか

【授業外学修】国や地方の総合戦略等を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第7回：【授業内容】地方創生と政治行政の役割

【授業外学修】国や地方の総合戦略や総合計画を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第8回：初級条例策定講座

【授業外学修】事前に紹介する参考文献を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

## 履修上の注意/Notes

講義開始後、30分以上の遅刻は欠席として扱う。オフィス・アワーは金曜日の昼休み。シラバスの順番通りに講義していく予定だが、場合によって（政治・経済・社会状況によって）変更されることもある。

## 情報端末の活用

--

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：政治の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：政治の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：政治の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：政治の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験（100%）を行う。専門的な知識に関して50%（評価の観点は到達目標の②）、課題の特定や解決に向けた知識に関して50%（評価の観点は到達目標の⑤）。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	震災とコミュニティ－その力・限界・可能性－
著者名	茨城大学地方政治論ゼミナール
出版社	志学社
出版年	2015
ISBN	
教材費	2000

備考	参考書：増田寛哉『地方消滅』中公新書、2014年、820円。
----	--------------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地方消滅
著者名	増田寛哉
出版社	中公新書
出版年	2014
ISBN	
教材費	820

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○



課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	<input type="radio"/>

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8360	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	福田 智子（Tomoko Fukuda）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

税金と法

## 授業の概要/Course Overview

本講座は、税金の仕組み、税金と法律との関係、そして具体的な税金計算の基礎を学ぶことを目的とする。税金は私たちの生活に身近なものであるにもかかわらず、その内容や課税の仕組みはあまり知られていない。そこで本講座では、具体的な税金計算方法だけでなく、私達がなぜ税金を納めなければならないのか、法学的視点を交えながら学習する。最終回には、税理士の職務内容等についても簡単に紹介する。

## キーワード/Keyword(s)

税金、租税法、租税法律主義、所得税、相続税、消費税、税理士業務

## 到達目標/Learning Objectives

- (1)税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解できている
- (2)(1)を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見を論理的に述べることができる

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスに関するガイダンス、税金とは？
- ・ガイダンスでは授業内容、予習の仕方、参考図書等に関する説明をする
  - ・税金に関する導入の説明
- 第2回 税金と法律
- ・なぜ税を納める必要があるのか、法学的視点から学習する
- 第3回 所得税（個人の所得にかかる税金）①
- 第4回 所得税（個人の所得にかかる税金）②
- 第5回 所得税（個人の所得にかかる税金）③
- 第6回 相続税（人が亡くなった時にかかる税金）
- 第7回 消費税、税理士の業務
- 第8回 総括（45分）、最終試験（45分）

【授業外学習】

各回で取り扱う内容について、事前に参考図書などでその概要等を確認し、分からない用語等は調べておくこと。  
各回の授業外学習に要する時間は90分程度とする。

## 履修上の注意/Notes

毎回、講義の最後に小テストを行う（manabaにて実施）。  
最終回に45分間で最終テストを行う（manabaにて実施）。

## 情報端末の活用

オンライン授業のためPC必須

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を十分に理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見や提言を論理的に説明できている
- A：税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見や提言を説明できている
- B：税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見を説明できている
- C：税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎は理解しているが、税金の社会における役割に対する自分の意見を説明できていない
- D：税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解できていない

## 成績の評価方法/Grading

成績評価は、毎回の小テストと最終テストの合計点で行う。  
小テスト（択一式、毎回4問、各2点）合計56点、最終テスト（記述式）合計44点の合計点数で評価を行う。

## 教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語
-----

## 実務経験のある教員による授業科目

税理士として15年以上、税理士業務を行ってきた講師が、その経験を活かして、税金の仕組みや計算方法について講義を行う。
--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8361	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	上田 悠久（Ueda Haruhisa）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

共生の政治

## 授業の概要/Course Overview

西洋の伝統において、「政治」とは共同体（コミュニティ）に関わる「公」の事柄を意味していました。そして「政治」の大きな課題は、バラバラの利害や関心を持つ人々が、同じ共同体の中で共に生きていく術を模索することにあります。特に社会が混乱している状況において、人々は危機を乗り越え、よりよい社会を実現するために、「共生」のあり方を論じてきました。コロナ禍という未曾有の危機を経験した今、危機に直面した人々がどのように「共生」について論じたのかを学び、混沌とした時代に生きる我々が政治や社会とどのように関わっていけば良いのか考えていきます。

## キーワード/Keyword(s)

共生、政治、公共哲学、政治理論、政治思想史、社会思想史、倫理、公衆衛生

## 到達目標/Learning Objectives

1. 共生について、これまでなされた議論を理解する
2. 学問的関心と、自分の身の回りの課題とを結びつけて考えられるようになる
3. 社会的課題について論理的に思考し、自分の考えを文章で表現できるようになる

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：オリエンテーション——「共生の政治」とは何か  
 第2回：危機と政治（1）——危機に生まれた共生の思想  
 第3回：危機と政治（2）——社会の混乱とホップズ  
 第4回：危機と政治（3）——災禍に立ち向かう政治  
 第5回：コロナ禍の政治（1）——自由への制限  
 第6回：コロナ禍の政治（2）——苦境にある人々をどのように救えるのか  
 第7回：コロナ禍の政治（3）——差別にどう立ち向かうか  
 第8回：まとめ（45分）、試験

### 【授業外学修】

- （1）講義資料はTeamsにアップロードするので、授業前に読んでおくこと。
  - （2）各授業回で取り扱う内容について、授業後に復習し、疑問点をリアクションペーパーにまとめ整理すること。
  - （3）授業で紹介したテキストを各自読んで理解を深めること。
- ※各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

- （1）毎回の授業後に書いてもらったリアクション・ペーパーに、翌週の授業で応答します。

- (2) 理解度の確認のため小テストを、第2回～第7回の各回に実施し、次の授業でフィードバックを行います。
- (3) リアルタイム（同時双方向）授業では担当講師から質問を投げかけて、チャットで応答してもらうことを考えています。

## 履修上の注意/Notes

- (1) 高校の世界史、政治経済、倫理の知識があると役に立ちますが、未履修でも構いません。必要な前提知識は授業で紹介します。
- (2) 授業計画、評価方法は、受講者数や社会情勢に応じて変更の可能性があります。変更の際は受講生に周知します。

## 情報端末の活用

リアルタイム配信型授業、オンデマンド授業の視聴はTeams、小テストの受験やリアクションペーパー提出はmanabaを使って実施する予定です。PC等の端末、および通信環境を有していることを前提に授業を進めます。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：3つの到達目標をすべて高いレベルで達成している
- A：3つの到達目標を達成している
- B：3つの到達目標のうち2つを達成している
- C：3つの到達目標のうち1つを達成している
- D：どの到達目標も達成できていない

## 成績の評価方法/Grading

- 試験（またはレポート）（50点）
- 小テスト（30点：5点×6回）
- 平常点（リアクションペーパー、授業への貢献など）（20点）

## 教科書/Textbook(s)

備考	特定の教科書は用いません。授業で取り上げる著作の多くは図書館に所蔵されています。授業全体に関わる代表的な参考書を以下に挙げますが、これ以外については授業で紹介します。
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	現代政治理論 新版
著者名	川崎 修 編
出版社	有斐閣
出版年	2012
ISBN	9784641124547
教材費	2000

### 参考書2

書名	西洋政治思想史
著者名	宇野重規
出版社	有斐閣
出版年	2013

ISBN	9784641220010
教材費	

参考書3

書名	入門・医療倫理III：公衆衛生倫理
著者名	赤林 朗
出版社	勁草書房
出版年	2015
ISBN	9784326102501
教材費	3200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--



時間割コード	KB8362	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	清山 玲（Seiyama Rei）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

キャリア論入門：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス

## 授業の概要/Course Overview

女性のキャリアについて、とくに労働市場、企業の人事労務管理、公的な政策制度の観点から講義する。将来、自分、配偶者、あるいは職場の同僚や部下がキャリアを継続し活躍できるために、ワーク・ライフ・バランスと女性活躍を推進する人事労務管理やライフ・キャリアデザインの意義と方法について授業します。卒業後に、女性も男性もワーク・ライフ・バランスしながら幸せに社会で活躍するために必要な職業観とスキルの涵養を目的としています。

## キーワード/Keyword(s)

ジェンダー、人事労務管理、コース別雇用管理、人事考課、ライフデザイン、キャリアデザイン、ダイバーシティ・マネジメント、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進法、家計（将来の収入と支出の見通しなどお金の話）

## 到達目標/Learning Objectives

1. 女性のキャリアについて、とくに労働市場、企業の人事労務管理、公的な政策制度および勤労者の家計の観点から説明できる。
2. 将来、自分自身、配偶者（パートナー）がキャリアを継続し活躍するためのライフおよびキャリアデザインの意義と方法について理解し考察できる。
3. 将来、職場の同僚や部下のキャリア形成とワーク・ライフ・バランスの両立を理解し支援できることの重要性を理解し、具体的な支援の方法について説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：ガイダンス 雇用・家計・福祉国家と女性  
将来の働き方、生き方に関するアンケート実施
- 第2回：変貌する企業の雇用戦略と女性－働き方格差と女性労働  
アンケート結果に関するコメント
- 第3回：勤労者の家計から考える女性のキャリア  
感想文
- 第4回：成長戦略で全員参加型社会へ－ダイバーシティ・マネジメントで変わる職場  
感想文へのコメント
- 第5回：女性が活躍できる職場と探し方  
調べ学習
- 第6回：ライフデザイン・キャリアデザイン－働き方の選択、生き方の選択と学生時代の課題
- 第7回：わたしのキャリアとワーク・ライフ・バランス（オンライン・パネルシンポジウム）（感想文）
- 第8回：試験（40分）、働きがいのある会社・職場の選び方：茨大生の就職活動紹介
- 【授業外学修】

- (1) キーワードについて、あらかじめ調べておくことスムーズに理解できます。
- (2) 新聞記事検索や内閣府・厚生労働省など政府サイトその他で、本テーマについてインターネット検索をかけ、情報を収集してみてください。
- (3) 授業外学修時間は、各回90分を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 2-8回目までに、原則として、簡単な授業の振り返り・感想コメント、Formsアンケートを行います。ゲストスピーカーの時には、上記に替えて感想文を求めます。皆さんのコメント等を紹介しながら、文章作成上の留意点などお話しします。
- (2) 受講生が作成したミニレポートやアンケート結果などを紹介しながら、ライブおよびキャリアデザインをするうえでのポイントや留意点について、コメントします。
- (3) 授業中に、オンラインでの質疑応答があります。

## 履修上の注意/Notes

1. 配布資料は、MS-Teamsの各回の授業チャンネルにファイルをアップします。
2. 第7回のパネルシンポジウムは、対面で行う予定ですが、状況によってはオンラインに変更になることがあります。また、ゲストのご都合により授業回など変更になることがあります。この場合、教務情報ポータルから案内をメール配信します。
3. 遠隔授業でも、授業中にアンケートや感想・意見等を求めることがあります。積極的に楽しく参加してください。
4. 質問は個人チャットではなく、授業クラスのチャットを利用してください。時間外面談希望の場合には、授業終了時に口頭または投稿欄を通じて予約申請してくださいと、対応がスムーズです。
5. オフィスアワー：金曜日の昼休み（MS-Teams）  
授業終了時もしくは投稿欄を通じて予約申請すると対応がスムーズです。

## 情報端末の活用

1. 授業の配付資料は、MS-Teamsの授業チームにファイルをアップします。
2. 試験や課題レポートについては、manabaやMS-Formsなど、その都度指示された方法で提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、十分に基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- A：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- B：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、概ね基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- C：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、最低限の基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- D：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、基本的な知識を修得できておらず、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できていない。

## 成績の評価方法/Grading

小テスト：60点（60点×1回）/感想文：30点（20点×1回、10点×1回）/授業の振り返り・感想：10点（5点×2回）

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	なぜ女性は仕事を辞めるのか 5155人の軌跡から読み解くライブラリー
著者名	岩田 大沢他
出版社	青弓社
出版年	2015
ISBN	9784787233905
教材費	1728

### 参考書2

書名	女性はなぜ活躍できないのか
著者名	大沢 真知子
出版社	東洋経済新報社
出版年	2015
ISBN	9784492223536
教材費	2160

### 参考書3

書名	仕事と家族
著者名	筒井 淳也
出版社	中公新書
出版年	2015
ISBN	4121023226
教材費	842

### 参考書4

書名	男女共同参画白書 令和3年版
著者名	
出版社	
出版年	2021
ISBN	
教材費	

### 参考書5

書名	論文「スーパーマーケット業界における働き方改革」
著者名	清山玲
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8363	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	田中 耕市				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

暮らしと地理学

## 授業の概要/Course Overview

本講義では、地域の諸現象を把握するための人文地理学の基礎的概念と分析手法を学び、私たちの暮らしに関わる問題を地理学的視点から分析して、メカニズムを解明するための目を養う。

## キーワード/Keyword(s)

人文地理学, 地域, 地域経済, 地域問題, GIS(地理情報システム)

## 到達目標/Learning Objectives

地域の問題を発見して、地理学的・空間的視点からそれを分析・考察する力を身につける。  
茨城大学DP(1)世界の俯瞰的理解, (2)専門分野の学力, (5)地域活性化志向, に該当する。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス, 人文地理学の視点と考え方
2. 地域の概念
3. 距離と空間
4. デジタルマップとGIS (地理情報システム)
5. 頭の中の地図 (メンタルマップ)
6. 便利な場所はどこ? (アクセシビリティ測定)
7. 買物客はどこから来る? (重力モデル)
8. 総括

### 【授業外学修】

予習については、前の回の授業において指示をする。

授業中に学んだ内容について板書や資料をもとに、ネット検索も用いつつ復習すること。

受講者間で情報を共有しながらディスカッションをすることも効果的である。

復習内容はノートにまとめておくこと。

学習テーマに関する自発的な予習・復習は重要な授業外学修である。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

ミニツッペーパーは小テストを兼ねる。授業中、受講生には積極的な発言を求める。  
20分までの遅刻は小テストの点数を減点する。20分以上の遅刻は認めない。

## 情報端末の活用

オンライン授業のためPCを利用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標について極めて高いレベルで達成されている。  
A：到達目標について高いレベル以上で達成されている。  
B：到達目標についておおむね以上のレベルで達成されている。  
C：到達目標について最低限のレベル以上において達成されている。  
D：到達目標について最低限のレベルが達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業後の小テスト(100%)。その他、発言についても加点する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	テキストは使用せず、毎回の授業で資料を配付する。
----	--------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	○

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

**使用言語**

--

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8364	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

仕事を考える

## 授業の概要/Course Overview

社会や職業について視野を広め自分の将来と大学時代の在り方について考える。業界研究や企業研究を通じて雇用社会を知り、自分のやりたい仕事を見つけ、今後の職業選択や大学での勉学の在り方、さらに地方創生について考えていくことをねらいとする。

## キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

## 到達目標/Learning Objectives

授業で取り上げた職業や業界の理解をとおして社会の動向に興味関心を持つとともに、働くイメージを持ってそれに向かって必要なことを理解し、専門科目の学修につなぐことができる。また、地域の課題を知り、働くことの社会的役割を自覚することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

授業の概要、進め方、スケジュールの説明、大学生がキャリアを考えることの意味

第2回：「働くルール」を知る、雇用の多様化、働く意義、正社員/非正社員

茨城県で働くことの意義を考える、グローバルに活躍する意義を考える

第3回：キャリア理論、自己分析、こだわる労働条件を考える

大学生活での目標や行動計画、学びの動機づけ、キャリアプランニング

第4回：多様な職業について知る①（勤務地限定のない仕事）

業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る

第5回：多様な職業について知る②（地元就職を考える）

業界研究や企業研究を通じて多様な職業について知る

第6回：社会の現状とこれからの就職を考える

自らのキャリア形成を計画する。進学、就職活動を考える

第7回：大学での学びを考える

将来の仕事と大学での学びを考える

第8回：まとめ、総合レポート（第8回後半45分）

### 【授業外学修】

- （1）事前に職業や地域社会について調べておくことが求められます
- （2）多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。
- （3）キャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。



各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

- (1) 他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) 各回レポートを通じて自分の考えを整理します。

## 履修上の注意/Notes

※重要：教務情報ポータルシステム「講義資料」から、Web授業Teamsを接続するための「コード」を確認してください。また、授業開始の直前に当日資料を追加します。

※パワーポイント資料及びWeb授業Teamsを利用して双方向の授業を実施します。授業内アンケートやレポートの提示を支持します。

※遅刻の度合いに応じて欠席とみなす場合があります。

## 情報端末の活用

「履修上の注意点」を参照してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C : 仕事と社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D : 仕事と社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

成績評価は平常評価（授業への積極的参加及び各回レポート等）70%、期末総合レポート30%を合算して総合評価します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
----	--------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する担当教員が業界研究や企業研究を通じて講義を行います。

## 実践的教育から構成される授業科目

実践的教育としてキャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8365	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	野中 美津枝（Nonaka）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

消費者の自立

## 授業の概要/Course Overview

消費者保護から消費者の自立へと消費者法が転換している今日、消費者問題、契約についての知識と対処法を学び、消費生活における問題解決能力を養う。消費者問題の事例から、消費者行動の問題点を認識し、消費者の自立の必要性と消費者法の現実を学ぶ。そして、消費行動における批判的思考力と課題解決能力を養うため、環境問題や消費者行動に関するテーマでディベートをグループ対抗で実施する。

## キーワード/Keyword(s)

消費者問題、消費者法、消費者契約、金銭管理、消費者市民社会、消費者行動

## 到達目標/Learning Objectives

- 1) 現代の消費者問題から、金銭管理の必要性を自覚し、契約と消費者法を理解して、対処法を考えることができる。
- 2) ディベートでは、グループで消費者問題を分析し、立論に対する資料を作成して理論的に表現できる。
- 3) 「消費者の自立」について自分の考えを持ち、消費者行動を説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス、消費者問題

（クイズ形式でグループディスカッション）消費者問題と被害状況について、グループで考える。

第2回：契約の意味、未成年の契約

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第3回：クレジット契約、消費者信用

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第4回：悪質商法、特定商取引法

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第5回：消費者市民社会と消費者行動

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、原因と解決策を考え話し合う。

第6回：ディベート準備

（PBL、グループディスカッション）グループのテーマについて、立論を検討し、資料準備をする。

第7回：環境問題、消費者行動に関するディベート

（ディベート）環境問題や消費者行動に関するテーマでディベートをグループ対抗で実施する。

第8回：環境問題、消費者行動に関するディベート

（ディベート）環境問題や消費者行動に関するテーマでディベートをグループ対抗で実施する。

【授業外学修】

- (1) 授業資料とワーク課題をmanabaにアップするので、必ず授業前にダウンロードして授業に備える。
  - (2) 授業後には、授業を復習してワーク課題を記入して、manabaのレポートに提出をする。
  - (3) 第1回～第5回は、消費者問題の事例と消費者法について復習し、問題解決策を確認して次回の授業に生かす。(4) 第6回～第8回のディベートでは、グループの消費者テーマを分析して、立論のための資料を作成する。
  - (5) 「消費者の自立」について、最終の個人課題レポートに取り組む。
- 各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

## 履修上の注意/Notes

原則として遅刻は認めない。

オンライン授業のため、Teamsへの入室退出時間で出欠が確認できるが、授業後のワーク課題を未提出の場合は欠席扱いとする。

グループ討論、ワークショップには積極的に参加し、自分の意見を表現するスキルを身につけるようにする。

オフィスパワー：木曜日昼休み

## 情報端末の活用

- ・オンライン授業は、Teamsで行う。授業資料の事前配信、ワーク課題の提出はmanabaを通じて行う。
- ・第6～第8回は、グループで担当した消費者テーマの分析、ディベートの立論のための資料をP.P.で作成する。
- ・ディベートは、遠隔授業のため、グループのPCを使って戦う。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむねレベル以上で達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

授業時に毎回提出するワーク課題の内容およびグループワークへの貢献度40点、グループでのプレゼンテーション20点、最終課題レポート（グループ課題、個人課題）40点で成績を評価する。

期末試験は行わない。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントを配布する。
----	----------------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新しい消費者教育－これからの消費生活を考える－
著者名	日本消費者教育学会関東支部監修
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	
ISBN	978-4-7664-2633
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

消費生活アドバイザーの資格を持ち、企業で消費者相談の実務経験がある教員が、その経験を活かして、消費者教育を行う。
--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8366	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	井坂 寛				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

大学生と消費生活

## 授業の概要/Course Overview

大学生活とその後の社会生活において、安全で安心した消費生活を送るための基本的な知識について、ゲストスピーカーをお招きしながら概観します。「自立」した消費者になるために、消費者トラブルと関連する法律、ライフプランと保険、食育と栄養を中心に学習していきます。親元を離れて1人暮らしを始めた学生さんはもちろん、すべての学生さんに必要な消費生活のノウハウを伝授し、「消費者力」を養成していきます。

## キーワード/Keyword(s)

消費生活、消費者力、消費者トラブル、契約、ライフプラン、お金との付き合い方、セーフティネット、地産地消、食育、消費者の権利と義務

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 消費者トラブルを回避し解決するための契約についての基礎知識を身につける。
- (2) ライフプランを貯蓄や保険の点から設計するための基礎知識を身につける。
- (3) 安全で安心な食生活のための栄養などの基礎知識を身につける。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】消費生活と消費者力、ガイダンス  
【授業外学修】授業の内容に基づき、自分の消費生活の課題について考えておく。
- 第2回：【授業内容】消費者トラブルと法律（1）消費者トラブルと対処法（消費生活センター相談員）  
【授業外学修】授業内容に基づき、自分が関連した消費者トラブルにつき考えておく。
- 第3回：【授業内容】消費者トラブルと法律（2）契約の基本（消費生活センター相談員）  
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第4回：【授業内容】ライフプランと保険（1）ライフプランと三大資金（ファイナンシャルプランナー）  
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の金銭面でのライフプランを立ててみる。。
- 第5回：【授業内容】ライフプランと保険（2）貯蓄・保険・セーフティネット（ファイナンシャルプランナー）  
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第6回：【授業内容】食育（1）若者の食生活（管理栄養士）  
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の食生活診断をしてみる。
- 第7回：【授業内容】食育（2）和食と地産地消（農業協同組合・生活協同組合職員）  
【授業外学修】小レポートをまとめて提出する。
- 第8回：【授業内容】消費者の権利と義務、まとめ  
【授業外学修】最終レポートをまとめて提出する。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回では、対面の場合、グループなどによるディスカッションを行う。

## 履修上の注意/Notes

- (1) 自分の消費生活を改善するという実践的な目標意識をもって講義に臨んでください。トラブル、金銭管理、食事の問題は他人事ではありません。
- (2) ディスカッションでは積極的に発言してください（オンラインの場合はありません）。他者の考えもきちんと受け止めるようにしてください。
- (3) 遅刻すると、その回の授業全体を理解するのが難しくなります。開始時間は守るようにしてください

## 情報端末の活用

対面授業・オンライン授業いずれの場合も、オンラインで小レポートなどを提出してもらいます。したがってPCが必要となります。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 小レポートと最終レポートをきわめてすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- A : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- B : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- C : 小レポートと最終レポートを提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- D : 小レポートや最終レポートを提出していない。

## 成績の評価方法/Grading

最終レポート：60点/小レポート：20点/ディスカッションなどへの参加：20点  
ただしオンラインの場合、ディスカッションの配点はなくなるかもしれません。

## 教科書/Textbook(s)

備考 とくにありません。資料をプリントして配布します。講義期間中はきちんと保管しておいてください。

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

法律、保険、食育など、消費生活に関する専門的知識を有する者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、「消費者力」を養成する。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8367	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アントレプレナーシップ入門Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

アントレプレナーシップ入門Ⅰで学んだアントレプレナー/イントレプレナーに必要な資質・能力を踏まえ、入門Ⅱではイノベーションについて考えていく。ますます不確実な未来予想の中で、社会課題を解決するために、新たな価値を創出するイノベーション。イノベーションとは何なのか、イノベーションが求められる背景、それがどのように生み出されるのか、についていくつかのテーマ毎に学ぶ。講義は外部のアントレプレナー/イントレプレナーを講師として招き、知見獲得を目指すとともに、途中グループワークによるふりかえりを挟むことで、他者との対話を通してイノベーションについて考えていく。

## キーワード/Keyword(s)

イノベーション、希望、アントレプレナーシップ、アントレプレナー/イントレプレナー、社会課題解決、チャレンジ精神、営利組織（企業）、非営利組織（NGO/NPO）

## 到達目標/Learning Objectives

- （1）イノベーションの意味について理解している。
- （2）イノベーションが求められる背景について理解している。
- （3）身近なイノベーションを発見し、それが必要とされる背景と生み出された新たな価値について理解している。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、イノベーションとは何か、イノベーションが求められる背景、について（オンライン授業（Zoom））

第2回：外部講師による講義① ～医療とイノベーション～（対面授業）

第3回：外部講師による講義② ～女性とイノベーション～（対面授業）

第4回：第2回、第3回の外部講師による授業のふりかえり（オンライン授業（Zoom））

第5回：外部講師による講義③ ～ITとイノベーション～（対面授業）

第6回：外部講師による講義④ ～まちづくりとイノベーション～（対面授業）

第7回：第5回、第6回の外部講師による授業のふりかえり（オンライン授業（Zoom））

第8回：授業のまとめ（45分）（オンライン授業（Zoom））

\*外部講師との調整により、順番が変わったり、内容が多少変わることもある

### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。
- ・イノベーションが求められる背景、各自の身近なイノベーション、について各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。
- ・各回の外部講師については事前にアナウンスをするので、各自その講師の経歴・事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考

えておくこと。

#### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1, 4, 7, 8回については, Zoomのブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッションを行う。
- (2) 第2, 3, 5, 6回については, 講師による講義後、質疑応答を行う。
- (3) また, 毎回の授業終了時は, FORMSによるふりかえりコメント提出を行い、理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

- (1) オンライン授業で使用可能なPCを準備しておくこと。
- (2) 最終レポートについては, manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。  
A : 到達目標の3点を高いレベルで達成している。  
B : 到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。  
C : 到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。  
D : 到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回授業最後に提出するふりかえりコメント(50%)と最終レポート(50%)とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	ソーシャル・イノベーションが拓く世界：身近な社会問題解決のためのトピックス30
著者名	西村仁志 編著
出版社	法律文化社
出版年	2014
ISBN	9784589036278
教材費	2860

### 参考書2

書名	希望のつくり方
著者名	玄田有史 著
出版社	岩波書店
出版年	2010

ISBN	9784004312703
教材費	836

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

オムニバス形式の授業として、営利組織（企業）や非営利組織（NGO/NPO）でアントレプレナー/イントレプレナーとして起業経験のある外部講師をお呼びし、その経験を活かして、具体的にイノベーションについて講義する。

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8368	ナンバリング	KB-GHS-112-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	胡 安琪				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

Intercultural Psychology B

## 授業の概要/Course Overview

This class would include intercultural adaptation lectures. Students would also experience cross-culture while imagining life in the international community. We will make international comparisons to deepen our understanding of cultural differences. Lecture include psychological perspectives on the differences between Japanese society, American society, and Chinese society.

## キーワード/Keyword(s)

Psychology, cross-culture, cultural difference, foreign cultures, social psychology

## 到達目標/Learning Objectives

The purpose of this course is to know how it is like to adapt in a cross-cultural society. Goal of this course is to learn the basic knowledge of psychology and adapt it to real life. Also, we aim to improve English skill by conducting lectures in English.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction (Explaining the course schedule, the contents of this course, and evaluation methods) and review from previous quarter
2. Cross-cultural adaptation pattern and process
3. Why culture shock occurs
4. How to overcome culture shock
5. Reverse culture shock
6. Interpersonal Communication
7. Group Communication
8. Summary & Final exam

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

[Homework]

Review the lecture materials after each class. Students will be asked to write a short report or take a quiz after each session as a homework.

## 履修上の注意/Notes

Basically, this course will be conducted in English. This course partially include English version of “心理学でみる異文化適応”.  
※Schedule of syllabus might differ depending on students interest and lecture progress.  
If you miss a short report or short quiz, it will be counted as an absent.

## 情報端末の活用

PC等活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Students have fully mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.  
A : Students have mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.  
B : Students have generally mastered and applied the outline of each specialized field of psychology.  
C : Students have minimal acquisition of each specialized field of psychology.  
D : Students have not mastered or applied the outline of each specialized field of psychology.

## 成績の評価方法/Grading

Students will be evaluated comprehensively from the following viewpoints: Short report or quiz 40 %, Final Exam 60 %.

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付する
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

**使用言語**

English
---------

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8369	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	酒井 宗寿（Sakai Munetoshi）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

知的財産と社会実装

## 授業の概要/Course Overview

アントレプレナーシップを磨いていく際に、特にTech系の新事業創出においては、「知的財産」を意識した行動・判断力を体得していくことも肝要である。本講義では、知的財産（特に、特許）に関する「基礎的知識」について網羅的に概説していく。加えて、知的財産を取り扱う実務者や、実際の起業家をゲストスピーカーとして招き、実社会における「知的財産と社会実装」に触れる機会を提供する。

## キーワード/Keyword(s)

知的財産 特許 意匠 商標 育成者権 不正競争防止法 実用化 社会実装 起業

## 到達目標/Learning Objectives

1. 知的財産（特に、特許）に関する「基礎的知識」について、網羅的に理解できる。
2. 網羅的に理解することができた“知的財産（特に、特許）に関する「基礎的知識」”に基づいて、社会実装に繋げていく考察ができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：オリエンテーション、「知的財産」とは何か？

- ・授業の進め方を説明した後、知的財産の種類（特許・意匠・商標・著作権・不正競争防止法・育成者権）を概説する。

第2回：「企業経営」からみた「知的財産」の役割

- ・ビジネスと知的財産、企業経営と知的財産、ビジネスの成長要因と知的財産の役割を概説する。

第3回：「知的財産」の発生の歴史と国際的枠組み

- ・国内外の「知的財産」の発展の歩みに加え、今日のプロパテント時代における国内外の動向を概説する。

第4回：「知的財産」の取得と行使 1 （特許）

特許に関する考え方と、日本国特許の出願から登録までの流れを概説する。

第5回：「知的財産」の取得と行使 2 （特許）

独立行政法人工業所有権情報・研修館の「J-PlatPat（特許情報プラットフォーム）」を活用して、実際の特許調査を実感してみる。

第6回：「知的財産」の取得と行使 3

企業の研究開発から見た知的財産の取り扱い方について概説する。

第7回：「知的財産と社会実装」の実際 1

現役の起業家を講師に迎え、実際の体験について講義してもらいます。

## 第8回：「知的財産と社会実装」の実際 2

産学連携を含む地域との関りについても概説し、全体を取り纏めます。

### 【授業外学修】

- (1) 講義資料はmanabaにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語等は、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 教科書に提示した「産業財産権標準テキスト 総合編（第5版）」を、事前に目を通しておくことが望ましい。
- (3) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

### 【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第5回では、独立行政法人工業所有権情報・研修館の「J-PlatPat（特許情報プラットフォーム）」を活用して、実際の特許調査を体感する。
- (2) 第7回の授業終了時は、コメントペーパーによる理解度の確認を行う。
- (3) 適宜、投票機能を利用する予定。

## 履修上の注意/Notes

- ・2022アントレプレナーシップ教育プログラムの一環の講義であるが、プログラム受講者以外の者も履修は可能です。
- ・知的財産と社会実装を網羅的に興味があることを前提とする。
- ・“第7回：「知的財産と社会実装」の実際 1”については、ゲストスピーカとの日程調整により開催回が変更になる可能性があります。

## 情報端末の活用

- ・講義資料はmanabaで事前配信するので、毎回の授業時にはPCやタブレット等を持参すること。
- ・WEB投票機能を利用する予定なので、毎回の授業時にはPC・タブレット・スマートフォン等を持参すること。
- ・5回目では、WEBを用いて講義を進めていく予定なので、PC・タブレット・スマートフォン等を持参することを特に意識すること。
- ・8回目では、アンケートを実施する予定のため、PC・タブレット・スマートフォン等を持参すること。
- ・課題レポートについては、manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：「知的財産」の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに多角的な視点から「社会実装」に繋げていく考察ができています。
- A：「知的財産」の基本的な知識と考え方を修得し、さらに多角的な視点から「社会実装」に繋げていく考察ができています。
- B：「知的財産」の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに多角的な視点から「社会実装」に繋げていく考察ができています。
- C：「知的財産」の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに多角的な視点から「社会実装」に繋げていく考察ができています。
- D：「知的財産」の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに多角的な視点から「社会実装」に繋げていく考察ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

講義時間中の議論への積極的な参加を求め、下記の基準により成績評価を行う。

- ・第2回～第6回の講義内に実施する課題（35%）
- ・第7回のコメントペーパーの内容（15%）（200字程度）
- ・最終レポート（50%）（1600～2000字程度、説明に用いる図表や引用文献は字数にカウントしない。）

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	産業財産権標準テキスト
著者名	経済産業省特許庁, 工業所有権情報・研修館 企画



出版社	発明推進協会
出版年	2019
ISBN	9784827112948
教材費	990

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	知的財産—基礎と活用
著者名	佐伯 とも子/京本 直樹/田中 義敏
出版社	朝倉書店
出版年	2004
ISBN	
教材費	3190

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	知的財産と社会実装を網羅的に興味があることを前提とする。
--------	---	-------	------------------------------

時間割コード	KB8451	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	古屋 等（Hitoshi Furuya）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

憲法と統治機構

## 授業の概要/Course Overview

憲法とは何か、また国家権力はどのように行使されなければならないかを、憲法の基本原理をもとに理解することにより、統治機構のあり方やその機能について考えていきます。憲法の立憲主義や法の支配、国民主権や民主主義といった諸原理が、基本的人権の保障にとっていかなる役割や機能を果たすのかを関連づけて分かるようにします。

## キーワード/Keyword(s)

近代立憲主義憲法、日本国憲法の基本原理(国民主権・民主主義・権力分立・法の支配)、憲法9条と平和主義・国際協調主義

## 到達目標/Learning Objectives

近代立憲主義憲法の意義、国民主権と国家権力の相互関係、国民の人権保障を目的とした憲法定と国家成立、憲法による人権保障のシステム(権力分立・民主主義・法の支配)について理解し、日常生活において生じるさまざまな法的問題を、基本的人権の観点から捉えて分析し、適切に評価し判断することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入【講義レジュメNo.1】
- 第2回：憲法の意義と立憲主義【講義レジュメNo.2】
- 第3回：日本国憲法の基本原理①(国民主権)【講義レジュメNo.2】
- 第4回：日本国憲法の基本原理②(民主主義・権力分立)【講義レジュメNo.2】
- 第5回：日本国憲法の基本原理③(法の支配・平和主義)【講義レジュメNo.3】
- 第6回：憲法9条と平和主義、小テスト【講義レジュメNo.1～3】
- 第7回：憲法9条と国際協調主義【講義レジュメNo.3】
- 第8回：まとめ(45分)、試験(45分)

### 【授業外学修】

- (1)第1回から第8回まで、穴埋め式のレジュメを使用して、重要な用語を空欄に記入しながら、授業のポイントについて理解してもらいます。レジュメは事前にTeamsのファイルに掲載しておきますので、事前に印刷して、空欄に当てはまる用語について検討してみてください。
- (2)授業で使用したパワーポイントも、レジュメと同様にTeamsのファイルに掲載しておきます。小テストや期末試験に向けた復習にご利用ください。
- (3)小テストや期末試験は、各レジュメの空欄に記入してもらって用語のうち、マーカーでチェックしてもらったものを中心に出题していきます。各試験にあたり、レジュメや授業で使用したパワーポイントなどを再確認し、小テストは間違った部分を再確認したうえで、期末テストに臨むようにしてください。
- (4)各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とします。

### 【アクティブ・ラーニング】

・授業で説明したポイントについて、授業終了時にレスポンスシートにより確認いただきます。当日使用したレジюмеやパワーポイントを再確認して入力してください。

## 履修上の注意/Notes

1.授業の進度にあわせて、レジюмеや教科書の該当箇所をよく読み、レジюмеの空欄を穴埋めするなどして、事前に授業のポイントについて理解しておいてください。2.授業で使用するパワーポイントも含め、使用する資料はTeamsのファイルに掲載しておきます。3.オフィス・アワー：火曜日昼休み。4.授業中の小テストも成績評価の対象になりますので、欠席しないようにしてください。5.その他、やむを得ない理由で欠席する場合には、メール等で連絡をお願いします。

## 情報端末の活用

・授業で使用するレジюмеやパワーポイントは、事前にTeamsのファイルに掲載しておきます。レジюмеはPDFファイルですので、事前に印刷して、パワーポイントによる説明を聞きながら、空欄を埋めてください。

・出欠確認を兼ねて、レスポンスシートを提出いただきます。教務情報ポータル「授業支援」→「レポート」からダウンロードして、記入後提出いただきますので、パソコンを用意してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+： 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A： 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B： 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C： 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D： 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

1.授業中（第6回）に行う小テストを20%、期末テストを80%の割合で合算して評価します(すべて参照不可)。2.期末テストは第8回に実施します。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	国家と社会の基本法（第4版）
著者名	上野幸彦, 古屋等 著
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	9784792306335
教材費	2750

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法（第7版）
著者名	芦部信喜 著, 高橋和之 補訂
出版社	岩波書店

出版年	2019
ISBN	9784000227995
教材費	3520

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8452	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	古屋 等（Hitoshi Furuya）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

憲法と人権保障

## 授業の概要/Course Overview

基本的人権とは何か、どのような人権が含まれるのか、人権の中核とされる自由権は、その種類に応じていかなる保障と制約を受けなければならないのかを、公共の福祉の原理をもとに、具体的な事例を交えて考察していきます。また、社会権の自由権との関係と限界、法の支配の原理の発現としての違憲審査制度について学びます。

## キーワード/Keyword(s)

基本的人権、公共の福祉、精神的自由権・経済的自由権、社会権、司法審査、法の支配、違憲審査

## 到達目標/Learning Objectives

基本的人権は、個人の尊重と平等を理念とし、特に自由権は、社会的影響の有無や大きさにより、公共の福祉の原理により一定の制約を受けること。その程度は、精神的自由権と経済的自由権により異なり、自由権に対する具体的な制約は、国民代表機関である国会の法律により行われること。その合憲性の審査は、最終的に裁判所によって行われなければならないことを、法の支配の原則をもとに理解することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入  
第2回：基本的人権の観念と種類【講義レジュメ No.4】  
第3回：基本的人権の保障と限界(公共の福祉)【講義レジュメ No.4】  
第4回：精神的自由権(内心の自由・表現の自由)【講義レジュメ No.5】  
第5回：経済的自由権(職業選択の自由・財産権)【講義レジュメ No.5】  
第6回：社会権の保障(生存権・教育の機会均等)、小テスト【講義レジュメ No.4～5】  
第7回：法の支配と違憲審査【講義レジュメ No.6】  
第8回：まとめ(45分)、試験(45分)

### 【授業外学修】

- (1)第1回から第8回まで、穴埋め式のレジュメを使用して、重要な用語を空欄に記入しながら、授業のポイントについて理解してもらいます。レジュメは事前にTeamsのファイルに掲載しておきますので、事前に印刷して、空欄に当てはまる用語について検討してみてください。
- (2)授業で使用したパワーポイントも、レジュメと同様にTeamsのファイルに掲載しておきます。小テストや期末試験に向けた復習にご利用ください。
- (3)小テストや期末試験は、各レジュメの空欄に記入してもらって用語のうち、マーカーでチェックしてもらったものを中心に出题していきます。各試験にあたり、レジュメや授業で使用したパワーポイントなどを再確認し、小テストは間違った部分を再確認したうえで、期末テストに臨むようにしてください。

(4)各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とします。

【アクティブ・ラーニング】

・授業で説明したポイントについて、授業終了時にレスポンスシートにより確認いただきます。当日使用したレジюмеやパワーポイントを再確認して入力してください。

## 履修上の注意/Notes

1.授業の進度にあわせて、レジюмеや教科書の該当箇所をよく読み、レジюмеの空欄を穴埋めするなどして、事前に授業のポイントについて理解しておいてください。2.授業で使用するパワーポイントも含め、使用する資料はTeamsのファイルに掲載しておきます。3.オフィス・アワー：火曜日昼休み。4.授業中の小テストも成績評価の対象になりますので、欠席しないようにしてください。5.その他、やむを得ない理由で欠席する場合には、メール等で連絡をお願いします。

## 情報端末の活用

・授業で使用するレジюмеやパワーポイントは、事前にTeamsのファイルに掲載しておきます。レジюмеはPDFファイルですので、事前に印刷して、パワーポイントによる説明を聞きながら、空欄を埋めてください。

・出欠確認を兼ねて、レスポンスシートを提出いただきます。教務情報ポータル「授業支援」→「レポート」からダウンロードして、記入後提出いただきますので、パソコンを用意してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+： 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A： 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B： 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C： 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D： 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である

## 成績の評価方法/Grading

1.授業中（第6回）に行う小テストを20%、期末テストを80%の割合で合算して評価します(すべて参照不可)。2.期末テストは第8回に実施します。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	国家と社会の基本法
著者名	上野幸彦, 古屋等 著
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	9784792306335
教材費	2750

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法（第7版）
著者名	芦部信喜 著, 高橋和之 補訂

出版社	岩波書店
出版年	2019
ISBN	9784000227995
教材費	3520

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8453	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	伊藤 純子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

人権

## 授業の概要/Course Overview

この講義では、身近な問題や時事問題、歴史などの話も適宜交えながら、日本国憲法に定める人権についての意義と目的を学びます。

## キーワード/Keyword(s)

国民主権、立憲主義、法の下での平等、表現の自由、思想・良心の自由、信教の自由、社会権、人身の自由、経済的自由権

## 到達目標/Learning Objectives

憲法の基本的な考え方と解釈を習得し、日本国憲法に定める人権についての基礎的な知識と理解を身につけることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 授業計画

- 第1回：国民主権と立憲主義
- 第2回：参政権と国務請求権
- 第3回：精神的自由（1）表現の自由
- 第4回：精神的自由（2）思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由、教育を受ける権利
- 第5回：人身の自由、法の適正手続
- 第6回：経済的自由権
- 第7回：社会権（1）
- 第8回：社会権（2）（45分）、試験

### 【授業外学修】

- (1) 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読み、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- (2) 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読んで予習するだけでなく、第2回以降については、参考書「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」により関連判例について調べておくことが望ましい。
- (3) 各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。

## 履修上の注意/Notes

教育職員免許上取得希望者は、題目「統治機構」（担当：伊藤）と合わせて2単位を習得すること。

## 情報端末の活用

なし

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 人権の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A : 人権の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B : 人権の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C : 人権の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D : 人権の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験の成績で評価します。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	〈合格水準〉教職のための憲法
著者名	志田陽子 編著
出版社	法律文化社
出版年	2017
ISBN	458903865X
教材費	2500

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 第7版
著者名	芦部信喜
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	4000613227
教材費	

参考書2

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641115451
教材費	2300

参考書3

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	464111546X
教材費	2300

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8454	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	伊藤 純子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

統治機構

## 授業の概要/Course Overview

この講義では、身近な問題や時事問題、歴史などの話も適宜交えながら、日本国憲法に定める統治機構の意義と目的、また、第3クォーターで学んだ人権との関係について学んでいきます。

## キーワード/Keyword(s)

国民主権、立憲主義、平和主義、立法権、国会、行政権、内閣、司法権、裁判所、違憲審査制、地方自治

## 到達目標/Learning Objectives

憲法の基本的な考え方と解釈を習得し、日本国憲法に定める統治機構のについての基礎的な知識と理解を身につけることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：教育を受ける権利と児童の権利  
第2回：幸福追求権と新しい人権  
第3回：人権の共有主体  
第4回：法の下での平等  
第5回：統治（1）立法と国会  
第6回：統治（1）行政と内閣、財政、地方自治  
第7回：統治（2）司法権と裁判所、憲法保障  
第8回「平和のうちに生存する権利」と安全保障  
期末試験

### 【授業外学修】

- 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読み、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読んで予習するだけでなく、第2回以降については、参考書「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」により関連判例について調べておくことが望ましい。
- 各回の授業外学修に要する時間は60分程度目安とする。

## 履修上の注意/Notes

教育職員免許状取得希望者は、題目「人権」（担当：伊藤）と合わせて2単位を修得すること。

## 情報端末の活用

なし

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：統治機構の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A：統治機構の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B：統治機構の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C：統治機構の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D：統治機構の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末試験の成績で評価します。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	〈合格水準〉教職のための憲法
著者名	志田陽子 編著
出版社	法律文化社
出版年	2017
ISBN	458903865X
教材費	2500

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 第7版
著者名	芦部信喜
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	4000613227
教材費	

参考書2

書名	憲法判例百選 I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	
出版年	2019
ISBN	4641115451
教材費	2300

参考書3

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男ほか
出版社	
出版年	2019
ISBN	464111546X
教材費	2300

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8455	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

現代人権論 I

## 授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけではなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

## キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

## 到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。欠席した場合は、友達に内容を教えてもらうこと。また、毎回、講義後に提出してもらうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 第1講 ガイダンス

第2講 今年の重要な最高裁判所判例を取り上げ、裁判のプロセス、判決の種類、三審制度などの基本的知識を解説する。

第3講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート1)

第4講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート2)

第5講 国民主権と権力分立(パート1)

第6講 国民主権と権力分立(パート2)

第7講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート1)

第8講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート2)、期末試験(論述)

### 【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

## 履修上の注意/Notes

オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するが休んだ回の内容は友達などに聴くこと。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。



## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8456	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

現代人権論Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

## キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

## 到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1講 基本的人権の基礎付けと分類(パート1)
- 第2講 基本的人権の基礎付けと分類(パート2)
- 第3講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート1)
- 第4講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート2)
- 第5講 平等原則と新しい人権(パート1)
- 第6講 平等原則と新しい人権(パート2)
- 第7講 精神的自由(表現の自由)の優越的地位と、その他の人権の司法審査基準について
- 第8講 まとめと期末試験(論述)、授業アンケート

### 【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

## 履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

## 教科書/Textbook(s)

### 教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

### 教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

**備考** 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8371	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

キャリアデザイン論

## 授業の概要/Course Overview

何のために働くのか、職業という働き方を知り、自らのキャリアをデザインして、自分の進路を歩むための方法を学びます。自分の将来への適切な展望と職業意識を持てるように学びます。また社会人になった後のキャリア形成の進め方を学びます。

## キーワード/Keyword(s)

キャリア形成、職業観、職業の適性、4つのキャリア理論、雇用の多様化

## 到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望、キャリア形成を考える方法を理解し、身に付けること。自分の考えをまとめ、示すことができること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：何のために働くのか

シラバスを用いたガイダンスと導入、働く目的と意味、働くことに意義を深く掘り下げる、  
生き方と働き方のつながり、学生時代にしなければならないこと

第2回：職業という働き方

労働・仕事・職業の現代的意味、求められる4つの能力

第3回：キャリアデザイン①

多様な働き方、正社員-非正社員、派遣労働、契約社員、ワークライフバランス、職業能力とキャリア形成  
キャリアについて考える、スーパー（D.E.Super）の「職業適合性」

第4回：キャリアデザイン②

ホランド（J.L.Holland）の六角形「V P I 職業興味検査」

第5回：キャリアデザイン③

シャイン（E.H.Schein）の「キャリア・アンカー」

第6回：キャリアデザイン④

クランボルツ（J.D.Krumboltz）の「計画された偶発性理論」

第7回：社会人になった後のキャリア形成

入社直後のキャリア危機（リアリティショック）、入社3年以内離職率を考える、自立的職業人に向けて

第8回：まとめ、総合レポート（第8回後半45分）

【授業外学修】

- いくつかのキャリア論を理解し、自分の将来への適切な展望を考えて行動することを求めます。
- 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターアップ等の現状を知り、必要な事を調べ、検討します。

各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

(1) 他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。

(2) ミニレポートを通じて自分の考えを整理します。

## 履修上の注意/Notes

※重要：教務情報ポータルシステム「講義資料」から、Web授業Teamsを接続するための「コード」を確認してください。また、授業開始の直前に当日資料を追加します。

※パワーポイント資料及びWeb授業Teamsを利用して双方向の授業を実施します。授業内アンケートやレポートの提示を支持します。

※遅刻の度合いに応じて欠席とみなす場合があります。

## 情報端末の活用

「履修上の注意点」を参照してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：キャリアデザインの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：キャリアデザインの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：キャリアデザインの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：キャリアデザインの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：キャリアデザインの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

平常評価70%（授業への積極的参加及び各回レポート等）、期末総合レポート30%を合算して総合評価します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎



## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する担当教員が業界研究や企業研究を通じて講義を行います。

## 実践的教育から構成される授業科目

実践的教育としてキャリアを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8372	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	成澤 雅寛（Masahiro Narisawa）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

現代社会論A

## 授業の概要/Course Overview

本授業は、現代日本社会における様々な社会問題を取り上げ、社会学的研究が何を明らかにしてきたのかを包括的に学ぶ。具体的には、教育機会の不平等や非行、不登校などの教育問題から、社会階層、ジェンダーやセクシュアリティ、家族に関する問題などを取り扱う。

## キーワード/Keyword(s)

社会階層 教育問題 ジェンダー セクシュアリティ 家族 福祉 エスニシティ

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 社会学という学問がどのような学問であるのかについての理解し、社会学が取り組んできた様々な社会問題に対する理解を深める。
- (2) 社会問題について、批判的検討、および論証・議論を行えるようになる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 【授業内容】 授業ガイダンス／社会学とは何か？
- 第2回 【授業内容】 不平等の社会学としての社会階層論
- 第3回 【授業内容】 教育機会の不平等
- 第4回 【授業内容】 非行・不登校・マイノリティの教育問題
- 第5回 【授業内容】 近代家族論／レポート中間評価
- 第6回 【授業内容】 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第7回 【授業内容】 医療・福祉・障害
- 第8回 【授業内容】 グローバリゼーションとエスニシティ／まとめ

### 【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

### 【アクティブラーニング】

- (1) 第5回については、それまでの授業を踏まえて期末レポートの中間提出をしてもらい、それについて批評する。
- (2) 毎回、授業終了時に授業コメントを提出してもらい、授業の理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

パワーポイントを使った授業であり、教員から疑問を投げかけることがあるのでノートなどを手元に用意し、書き込めるようにしておくこと。30分以上の遅刻は、出席とは認めません。

## 情報端末の活用

オンライン授業で使用可能なPCを準備して置くこと。また、授業コメントを授業の最後に速やかに提出できるようにMicrosoft Wordなどをインストールしておくこと。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標2点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標2点について高いレベルで達成されている。

B：到達目標2点についておおむね達成されている。

C：到達目標2点について最低限のレベルで達成されている。

D：到達目標2点について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末レポートの成績：85%／授業コメント：15%（初回授業1点、2～8回各2点）

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

日本語のみ

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8373	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	田中 泉				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

身近な経済学入門I

## 授業の概要/Course Overview

日々の消費行動の中で出会う様々な価格の現象をトピックとして取り上げ、経済学的な思考方法を説明する。

## キーワード/Keyword(s)

価格、需給バランス、消費者、企業、価格戦略、需要の価格弾力性、消費税、流通

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 市場における価格システムの役割を理解して説明できる。
- (2) 身近な価格の現象を経済学的な視点で理解して説明できる。
- (3) 企業の価格戦略を経済学的な視点で理解して説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、イントロダクション（需給バランスと価格支配力）
2. 売り手は価格を決定できるのか（需給バランスと価格支配力）
3. 消費税は消費者だけが負担しているのか（需要・供給の増加・減少）
4. 学生割引、シニア割引があるのに、なぜ働き盛り割引がないのか（価格弾力性の概念と差別価格戦略）
5. なぜチラシに付いている割引クーポンは切り取りにくいのか（需要曲線の高さ・限界価値の概念）
6. 2着同時に買うと安いのはなぜか（消費者余剰の概念）
7. セット商品は安いのに、カミソリの替刃は高いのはなぜか（価格戦略）
8. なぜコストコでは会費を取られるのか（二部料金制）、まとめ

### 【授業外学修】

- (1) 第2回以降は毎回、授業前に「授業資料」をmanabaにアップしておくので事前に読んで、自分の考えを整理しておくこと（45分）。
- (2) 毎回、「授業資料」と講義内容を復習してコメント（小テスト）課題、あるいは少レポート課題を提出すること（45分）。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回、授業中に授業内容に関する質問、アンケートを実施し、その結果を授業の参考資料として使用する。第2回以降は、授業終了後に提出されたコメント、小レポートの内容を振り返り、授業内に教員のコメントを加え、受講生の理解度・到達度を確認して新たな内容に入る。

## 履修上の注意/Notes

- (1) 毎回、manabaを通じて授業前資料を配布する。

- (2) 毎回、コメントあるいは小レポート（300字程度）を提出する。
- (3) 期末試験は実施しない。

## 情報端末の活用

資料はすべてmanabaを用いて配信し、コメントあるいは小レポートを提出してもらうので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回の講義の最後に実施するコメント、小レポート等で評価（100%）をする。期末試験は実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営の経済学 = BUSINESS ECONOMICS
著者名	丸山雅祥 著
出版社	有斐閣
出版年	2017
ISBN	9784641164956
教材費	3000

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

**PBL科目**

--

**地域志向科目**

--

**使用言語**

日本語のみ
-------

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8374	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	今村 一真（IMAMURA Kazuma）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

マーケティングの可能性

## 授業の概要/Course Overview

企業が利潤を獲得しようとする際、顧客からの支持なしに成立しない。企業は顧客との関係が構築できてこそ存立可能になるものであり、企業・顧客間には良好な関係は不可欠である。ところが、消費社会の変化に伴い顧客対応は進化せざるを得ない。そこで本講義では、主にBtoCの工業製品のマーケティングという視点で諸問題を捉え、企業活動の成果や課題について考察する。

## キーワード/Keyword(s)

マーケティング・ミックス、プロダクト・アウト、マーケット・イン、価値共創

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) マーケティングの視点による企業活動の構造や特徴に関する基礎的な知識を身につける、
- (2) 顧客対応に関する諸問題に関心を持つ、
- (3) 講義で身につけた考え方に基づいた意見ができる

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.オリエンテーション（本講義のねらい、受講の方法など）、マーケティングの射程
- 2.マーケティングの基礎（マーケティング・ミックスとマーケティング戦略）
- 3.新製品開発とマーケティング（プロダクト・アウトとマーケット・インの葛藤）
- 4.BtoCの工業製品の流通とマーケティング（流通の構造や機能の検討）
- 5.事例研究①（小売企業を事例として）
- 6.事例研究②（物流機能に注目して）
- 7.BtoC工業製品のマーケティングの展望（錯綜するミクロとマクロの課題）
- 8.期末試験（授業時間の前半に実施）【対面】

（各回に共通する授業外学修内容）

復習として授業の内容に関連した事例に注目し、マーケティングの視点で考察するとともに、次回以降のレポート作成に成果を活かす。各回の復習時間の目安は2時間とする。

（アクティブ・ラーニング）

各回の授業で、その日学んだ内容に即したテーマのレポートを作成して提出する。その振り返りは次の授業の冒頭で実施し、受講者の理解度や到達点を確認したのちに、新たな内容に入る。

## 履修上の注意/Notes



毎回出席を基本とします。また、講義は教科書のほかプリント等を用いて進めるほか、理解の定着や深化のためにレポートの提出を求めることがあります。講義プリントは再配布しませんので、きちんと保管してください。

## 情報端末の活用

- ・ 講義資料はDreamCampusおよびmanabaで事前配信することがあるほか、レポート課題もDreamCampusおよびmanabaを用いることがある。
- ・ 授業はTeamsを用いて配信することがあるので、PCを用意して受講すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

授業後に作成する小レポートを評価基準として用います

- A+ : マーケティングの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A : マーケティングの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B : マーケティングの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C : マーケティングの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D : マーケティングの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

最終回の授業時に期末試験を実施します。ただし、今後の社会情勢によって変更することがあります。

原則として、講義毎の小レポート70%、期末テスト30%の割合で評価します（小レポートは、受講内容を踏まえた記述を原則とします。このほか、テスト欠席は単位を認めません）。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	はじめてのマーケティング = Marketing for beginners
著者名	久保田進彦, 澁谷寛, 須永努著
出版社	有斐閣
出版年	2013
ISBN	9784641150034
教材費	1800

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○

地域活性化志向	<input type="radio"/>
---------	-----------------------

### アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>
-----------------------

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語のみ
-------

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB0871	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	公共社会				
担当教員(ローマ字表記)	成澤 雅寛 (Masahiro Narisawa)				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

現代社会論A

## 授業の概要/Course Overview

本授業は、現代日本社会における様々な社会問題を取り上げ、社会学的研究が何を明らかにしてきたのかを包括的に学ぶ。具体的には、教育機会の不平等や非行、不登校などの教育問題から、社会階層、ジェンダーやセクシュアリティ、家族に関する問題などを取り扱う。

## キーワード/Keyword(s)

社会階層 教育問題 ジェンダー セクシュアリティ 家族 福祉 エスニシティ

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 社会学という学問がどのような学問であるのかについての理解し、社会学が取り組んできた様々な社会問題に対する理解を深める。
- (2) 社会問題について、批判的検討、および論証・議論を行えるようになる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 【授業内容】 授業ガイダンス/社会学とは何か？
- 第2回 【授業内容】 不平等の社会学としての社会階層論
- 第3回 【授業内容】 教育機会の不平等
- 第4回 【授業内容】 非行・不登校・マイノリティの教育問題
- 第5回 【授業内容】 近代家族論/レポート中間評価
- 第6回 【授業内容】 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第7回 【授業内容】 医療・福祉・障害
- 第8回 【授業内容】 グローバリゼーションとエスニシティ/まとめ

### 【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

### 【アクティブラーニング】

- (1) 第5回については、それまでの授業を踏まえて期末レポートの中間提出をしてもらい、それについて批評する。
- (2) 毎回、授業終了時に授業コメントを提出してもらい、授業の理解度の確認を行う。

## 履修上の注意/Notes

パワーポイントを使った授業であり、教員から疑問を投げかけることがあるのでノートなどを手元に用意し、書き込めるようにしておくこと。30分以上の遅刻は、出席とは認めません。

## 情報端末の活用

オンライン授業で使用可能なPCを準備して置くこと。また、授業コメントを授業の最後に速やかに提出できるようにMicrosoft Wordなどをインストールしておくこと。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標2点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標2点について高いレベルで達成されている。

B：到達目標2点についておおむね達成されている。

C：到達目標2点について最低限のレベルで達成されている。

D：到達目標2点について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

期末レポートの成績：85%／授業コメント：15%（初回授業1点、2～8回各2点）

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

日本語のみ

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB0872	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	経済・経営				
担当教員(ローマ字表記)	田中 泉				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

身近な経済学入門II

## 授業の概要/Course Overview

日々の生活の中で感じる消費者の非合理的行動をトピックとして取り上げ、経済学的な思考方法を説明する。

## キーワード/Keyword(s)

機会費用、サunkコスト、合理性と非合理性、限定合理性、消費者心理、行動経済学

## 到達目標/Learning Objectives

合理的経済人の仮定の意味を説明できる。  
 経済学の費用の概念を理解し、それを日常生活に応用できる。  
 人間の非合理的な感情や行動を経済学的な視点で理解し、説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、合理的経済人の仮定の説明
2. 一日中寝ていれば費用かかからないのか(機会費用)
3. 食べ放題だとなぜ、食べ過ぎてしまうのか(サunkコスト、心理的勘定)
4. 最終レースの大穴狙いの心理的要因は何か(プロスペクト理論)
5. なぜ日米は北欧諸国に比べ臓器移植の同意者の割合が低いのか(フレーミング効果)
6. 2年目のジnxスとは(ヒューリスティクス)
7. 情けは人の為ならず or 合理的な愚か者?(互酬性)
8. 合理的経済人と限定合理性、まとめ

### 【授業外学修】

- (1) 第2回以降は毎回、授業前に「授業資料」をmanabaにアップしておくので事前に読んで、自分の考えを整理しておくこと(45分)。
- (2) 毎回、「授業資料」と講義内容を復習してコメント(小テスト)課題、あるいは少レポート課題を提出すること(45分)。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回、授業中に授業内容に関する質問、アンケートを実施し、その結果を授業の参考資料として使用する。第2回以降は、授業終了後に提出されたコメント、小レポートの内容を振り返り、授業内に教員のコメントを加え、受講生の理解度・到達度を確認して新たな内容に入る。

## 履修上の注意/Notes

- (1) 毎回、manabaを通じて授業前資料を配布する。

- (2) 毎回、コメントあるいは小レポート（300字程度）を提出する。  
(3) 期末試験は実施しない。

## 情報端末の活用

資料はすべてmanabaを用いて配信し、コメントあるいは小レポートを提出してもらうので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。  
A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。  
B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。  
C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。  
D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

毎回の講義の最後に実施するコメント、小レポート等で評価（100%）をする。期末試験は実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	競争政策論 第2版 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論
著者名	小田切宏之
出版社	日本評論社
出版年	2017
ISBN	9784535558823
教材費	2400

参考書2

書名	行動経済学入門
著者名	筒井義郎 [ほか] 著
出版社	東洋経済新報社
出版年	2017
ISBN	9784492314975
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	

コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8381	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	伊丹 一浩				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

フランスの経済と農業—歴史と現状

## 授業の概要/Course Overview

1.フランスの経済と農業の歴史的背景に関する基本事項の解説。2.グローバル化の進展の中でのフランス農業に関する基本事項の解説。3.グローバル化の進展の中でのフランスにおける食のあり方に関する基本事項の解説。

## キーワード/Keyword(s)

フランス、ヨーロッパ、EU、経済、農業、歴史、現状、食文化

## 到達目標/Learning Objectives

1.フランスの経済と農業の歴史的背景について理解する。2.グローバル化の進展の関連でフランス農業について理解する。3.グローバル化の進展の関連でフランスの食のあり方について理解する。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.シラバスを用いたガイダンスと導入：フランスの概要と特徴
- 2.フランスの経済と農業の歴史的背景
- 3.ヨーロッパの統合とフランス農業
- 4.グローバル化の進展と地域政策の展開
- 5.グローバル化の進展と有機農業をめぐる動き
- 6.フランスにおける食生活の基層と変化
- 7.グローバル化の進展とフランスの食文化
- 8.フランス経済における農業の位置と今後の展望

### 【授業外学習】

- 1.概要：授業においてノートを書ける限り詳しくとるようにし、配付資料や参考書とあわせて、丹念に読み返して、十全な復習を行うとともに、その内容の完全な理解をもって次回授業の予習とすること。なお、各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。
- 2.予習のポイント：次回授業の概要を事前に伝えるようにするので、参考書などで、関連しそうな用語や事柄について調べるなどしておくこと。なお、予習においては、内容を完全に理解する必要はない。わからないことがあってもがっかりすることなく、まずは、とりあえず、目を通すようにすることが重要である。
- 3.復習のポイント：授業時に詳しくとったノートの復習が中心となる。授業終了後、できるだけ速やかにノートを見返すことが望ましい。もし、可能であれば、周りの学生さんと内容確認、ディスカッション、説明、質疑応答などをすると、理解が深まるであろう。そして、同時に、うまく消化しきれていない点も明らかとなると思われるので、その場合には、配付資料や参考書を、今一度、読み返したり、メール等を利用して、教員に質問をするのがよい。実際、毎年、授業後に質問をする学生さんやメールで質問をする学生さんが、少なからず存在する。

皆さんの勉強のお手伝いをするべく、教員の方でもできるだけ対応したいと考えている。

## 履修上の注意/Notes

オフィス・アワー：木曜日11:50～12:40。

## 情報端末の活用

オンライン授業で実施する場合にはPCは必須である。対面授業であっても、出席やフォームズ機能を利用した質疑応答、ディスカッションにおいてPCを利用する予定である。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
A : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
B : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。  
C : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。  
D : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

対面授業の場合：期末試験で評価する予定である。

オンライン授業の場合：課題（2回のレポート）で評価する予定である。

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	教養としてのフランス近現代史
著者名	杉本淑彦
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623072712
教材費	

### 参考書2

書名	フランス史2 16世紀～19世紀なかば
著者名	柴田三千雄他著
出版社	山川出版社
出版年	1996
ISBN	9784634461000
教材費	

### 参考書3

書名	フランス史3 19世紀なかば～現在
著者名	柴田三千雄他著
出版社	山川出版社
出版年	1995
ISBN	9784634461109
教材費	

参考書4

書名	よくわかるフランス近現代史
著者名	剣持久木編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2018
ISBN	9784623082605
教材費	

参考書5

書名	フランス現代史
著者名	小田中直樹
出版社	岩波新書
出版年	2018
ISBN	9784004317517
教材費	

参考書6

書名	グローバリゼーション ―縮小する世界―
著者名	矢ヶ崎典隆他編
出版社	朝倉書店
出版年	2018
ISBN	9784254168815
教材費	

参考書7

書名	ローカリゼーション ―地域へのこだわり―
著者名	矢ヶ崎典隆他編
出版社	朝倉書店
出版年	2018
ISBN	9784254168822.0
教材費	

参考書8

書名	世界地誌シリーズ 3 EU
著者名	加賀美雅弘編

出版社	朝倉書店
出版年	2011
ISBN	9784254168570.0
教材費	

参考書9

書名	フランス農業構造の展開と特質
著者名	是永東彦著
出版社	日本経済評論社
出版年	1993
ISBN	9784818806634
教材費	

参考書10

書名	フランス山間地農業の新展開：農業政策から農村政策へ
著者名	是永東彦著
出版社	農山漁村文化協会
出版年	1998
ISBN	9784540980114
教材費	

参考書11

書名	フランス農政における地域と環境
著者名	石井圭一著；農林水産省農林水産政策研究所編
出版社	農山漁村文化協会
出版年	2002
ISBN	9784540012549.0
教材費	

参考書12

書名	多機能化する農村のジレンマ：ポスト生産主義後にみるフランス山村変容の地理学
著者名	市川康夫著
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326200603.0
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	

コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

--

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語
-----

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8382	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	長澤 淳（Nagasawa Jun）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

世界農業の展望

## 授業の概要/Course Overview

農業は人の営みの影響を受け様々に変化してきた。現在では一国だけで農業を語ることはできない。国家間の影響を受けざるを得ない状況にあるし、もちろん、経済の影響も受ける状況にある。本授業では、World Bank や Food and Agriculture Organization(FAO) が収集管理するデータを用い1960年代以降に焦点を当て、所得によって生産、消費がどのような差異があるのか、そして農業がどのように変貌してきたかを以下に述べる項目を取り上げることで理解し、展望を試みる。

## キーワード/Keyword(s)

農業、食料、人口、生産、消費、経済

## 到達目標/Learning Objectives

データを元に農業の現状を理解し、展望を考えることができるようになる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. 【授業内容】ガイダンスと農業と食糧生産の概要
2. 【授業内容】人口
3. 【授業内容】経済
4. 【授業内容】生産
5. 【授業内容】取引(輸出入)
6. 【授業内容】消費
7. 【授業内容】食料と経済
8. まとめ（45分で終了）

【授業外学修とアクティブラーニング】授業内容と関連すると思われるニュースなどを2件以上取り上げまとめ、レポートを提出すること。

## 履修上の注意/Notes

単位を習得している必要はないが、以下の科目の基礎知識を学んでいること。食糧生産、経済、食料流通システム。レポートは、manabaを使って提出すること。電子メールによるレポート提出は不可。

## 情報端末の活用

講義資料などを電子ファイルで毎回配布する、また授業外の学修で使用するため所持、持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

最終的に獲得した点数を元に以下のような評価基準により評価する。

A+: 90点以上100点

A: 80点以上90点未満

B: 70点以上80点未満

C: 60点以上70点未満

D: 60点未満

## 成績の評価方法/Grading

レポート: 情報源を明記しているか、データに基づいて考えを記しているか、他人の主張と自身の主張を明確にわかるような書き方をしているか。

最終獲得点数

レポート: 100%

## 教科書/Textbook(s)

### 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	世界食料の展望：21世紀の予測
著者名	D.O.ミッチェル, M.D.インコ, R.C.ダンカン著；高橋五郎訳
出版社	農林統計協会
出版年	1998
ISBN	978-4541024039
教材費	3000

参考書2

書名	飢餓の世紀：食糧不足と人口爆発が世界を襲う
著者名	レスター・R・ブラウン, ハル・ケイン著；小島慶三訳
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1995
ISBN	978-4478870426
教材費	2000

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	

社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	<p>授業の資料などを電子ファイルで配布するためPCを持参できること。</p> <p>電子メールを利用可能であること。</p> <p>社会人リカレント教育の場合、教務ポータルシステムを使えない可能性があるため、レポートの提出はUSBメモリーなどを使った手渡し、もしくは電子メールで行うことを考えている。</p>
--------	---	-------	---



時間割コード	KB8501	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	富塚 祥夫（Tomitsuka Akio）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法の歴史と統治の基本原理

## 授業の概要/Course Overview

この授業では、国の最高法規とされる憲法が、通常法律とは異なり、国民を名宛人とするのではなく、国家権力ないしは権力行使担当者を名宛人とし、その権力行使を統制するためのルールであること（これを立憲主義という）、また憲法が採用する権力統制の手段としては、国民の権利保障と権力分立制が基本であり、さらには国民主権原理や平和主義原理も採用される場合があることについて、その意味や具体的内容の理解を主眼とする（ただし、国民の権利保障の具体的内容については第2クォーターの授業に譲る）。立憲主義を理解するためには、憲法というものがどのような意図と歴史を背景にして成立してきたのかを知ることが重要であるため、まずはその問題からはじめて、次に日本における憲法の歴史、そして日本国憲法が定める統治の基本原理の具体的内容を順次検討していく。

## キーワード/Keyword(s)

立憲主義、法の支配、自然法思想、国体、国民主権、象徴天皇制、権力分立制、議院内閣制、司法権の独立、違憲審査制、平和主義

## 到達目標/Learning Objectives

憲法が国家権力による権限行使を統制するためのルールであること（立憲主義）、そしてまたその統制手段である国民主権原理、平和主義、権力分立制などの意義と内容を説明できること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeamsとmanabaを利用した同時双方向型のオンライン授業で実施する。

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、憲法の本質と役割（教科書2～3頁）
- 第2回：【授業内容】立憲主義の成立と展開（教科書2～5、8頁）
- 第3回：【授業内容】大日本帝国憲法の成立とその内容（教科書6～7頁）
- 第4回：【授業内容】敗戦と日本国憲法の成立（教科書12～17頁）
- 第5回：【授業内容】国民主権と象徴天皇制（教科書104～105頁）
- 第6回：【授業内容】権力分立制（教科書84～87、90～95頁）
- 第7回：【授業内容】平和主義（教科書9、26～39頁）
- 第8回：【授業内容】憲法における過去と未来—再び立憲主義について（教科書2～3頁、8頁）（前半45分）、期末試験（後半45分）

### 【授業外学習】

（1）各授業回で取り扱う内容について、主として教科書内容に即した予習用課題を事前（二週間前くらいを予定）に配布するので、それに取り組み指示通りに提出すること。

（2）憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。

（3）法律関係の月刊誌としては、法学セミナー、法律時報、ジュリストなどがあり、図書館へ行けば手に取ることができるので、時間を見つけてそれらの記事にも目を通すこと。

- (4) 授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。
- (5) 各回の授業外学習に要する時間は2時間程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

各回（第8回は除く）の終盤で実施する授業内課題（または小テスト）により、授業内容の振り返りを行う。また、その答えについては、次回授業の冒頭で解説を行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・教科書は予習学習及び授業に必須であり、早めに入手すること。
- ・予習用課題はWord形式で出題するので、そのままの形式で提出すること。また、ファイルのプロパティに「作成者：授業担当者名」「最終更新者：各受講生の氏名」が明示された状態で提出すること。これらの個人情報削除または変更した形での提出は認めない。
- ・不正行為が発覚した場合には厳正に対処するので、注意すること。

## 情報端末の活用

- ・オンライン授業のため、PC、スマートフォン等の使用は必須。
- ・受講者は、あらかじめ（二週間前くらいを予定）manabaを通じて配布する予習用課題に解答し、授業回ごとに分けて、授業開始前後15分以内（開始10分前から開始5分後まで）に、manabaのレポート機能により提出すること。
- ・授業は主としてTeamsを使用して行う。チームのコードはmanabaの「コースニュース」を通じて配布する。
- ・授業で使用する資料（レジュメ）等はmanabaの「コンテンツ」にアップロードしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。
- ・授業の終盤で、manabaを使用して授業内課題（または小テスト）を実施する（第8回は除く）。
- ・第8回の授業は、前半45分を授業、後半45分を期末試験とする。期末試験もmanabaのレポート機能を使って行う。
- ・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合はチャットにより発言すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- A：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- B：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- C：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそのしくみについて説明できている。
- D：憲法による権力統制の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそのしくみについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

予習用課題：32%、授業内課題または小テスト：28%、期末試験：40%

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新・どうなっている!?日本国憲法：憲法と社会を考える
著者名	播磨信義 [ほか] 編著
出版社	法律文化社

出版年	2016
ISBN	9784589037510
教材費	2300

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法の時間
著者名	井上典之編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641227118
教材費	1900

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8502	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	富塚 祥夫（Tomitsuka Akio）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

憲法による権利保障

## 授業の概要/Course Overview

日本国憲法が保障する権利について、人身の自由、精神的自由、経済的自由、平等権、社会権の順序で、それぞれの権利が保障されていることの意味と現状の問題点についての授業を行う。憲法による権利保障を見ていく際に重要なのは、誰による権利侵害から権利を保障するのかという視点である。というのは、国民の権利は他の国民によって侵害されることも多々あるからである。しかし、国民による他者の権利侵害は、法律によって統制されるべきものであって、憲法ではない。憲法による権利保障は、国家権力による権利侵害から国民の権利を保障するものであることをしっかり銘記しておくことが重要である。

## キーワード/Keyword(s)

人権の私人間効力、公共の福祉、罪刑法定主義、適正手続主義、内心の自由、「思想の自由市場」論、検閲の禁止、国家神道、政教分離原則、不合理な区別の禁止、人間たるに値する生活の保障

## 到達目標/Learning Objectives

憲法が国家権力による権限行使を統制するためのルールであることを理解したうえで、日本国憲法が国家権力に対し保障を求めた権利について、その意義および内容と現状の問題点を説明できること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

本授業はすべてTeamsとmanabaを利用した同時双方向型のオンライン授業で実施する。

- 第1回：ガイダンス、憲法による権利保障の意味（教科書48～49、42～43頁）
- 第2回：人身の自由（教科書64～65頁）
- 第3回：精神的自由（1）思想良心の自由（教科書54～55頁）
- 第4回：精神的自由（2）表現の自由（教科書58～59頁）
- 第5回：精神的自由（3）信教の自由（教科書56～57頁）
- 第6回：経済的自由（教科書66～67頁）
- 第7回：平等権（教科書52～53頁）
- 第8回：社会権（教科書68～69、72～75頁）（前半45分）、期末試験（後半45分）

### 【授業外学習】

（1）各授業回で取り扱う内容について、主として教科書内容に即した予習用課題を事前（二週間前くらいを予定）に配布するので、それに取り組み指示通りに提出すること。

（2）憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。

（3）法律関係の月刊誌としては、法学セミナー、法律時報、ジュリスタなどがあり、図書館へ行けば手に取ることができるので、時間を見つけてそれらの記事にも目を通すこと。

- (4) 授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。
- (5) 各回の授業外学習に要する時間は2時間程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

各回（第8回は除く）の終盤で実施する授業内課題（または小テスト）により、授業内容の振り返りを行う。また、その答えについては、次回授業の冒頭で解説を行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・教科書は予習学習及び授業に必須であり、早めに入手すること。
- ・予習用課題はWord形式で出題するので、そのままの形式で提出すること。また、ファイルのプロパティに「作成者：授業担当者名」「最終更新者：各受講生の氏名」が明示された状態で提出すること。これらの個人情報を削除または変更した形での提出は認めない。
- ・不正行為が発覚した場合には厳正に対処するので、注意すること。

## 情報端末の活用

- ・オンライン授業のため、PC、スマートフォン等の使用は必須。
- ・受講者は、あらかじめ（二週間前くらいを予定）manabaを通じて配布する予習用課題に解答し、授業回ごとに分けて、授業開始前後15分以内（開始10分前から開始5分後まで）に、manabaのレポート機能により提出すること。
- ・授業は主としてTeamsを使用して行う。チームのコードはmanabaの「コースニュース」を通じて配布する。
- ・授業で使用する資料（レジュメ）等はmanabaの「コンテンツ」にアップロードしておくので、適宜ダウンロードして使用すること。
- ・授業の終盤で、manabaを使用して授業内課題（または小テスト）を実施する（第8回は除く）。
- ・第8回の授業は、前半45分を授業、後半45分を期末試験とする。期末試験もmanabaのレポート機能を使って行う。
- ・授業中に質問等がある場合は、Teamsの挙手機能を使用して挙手すること。教員から指名されたら、音声による会話が可能な場合は音声で、それが難しい場合はチャットにより発言すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- A：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- B：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそのしくみについて説明できている。
- C：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそのしくみについて説明できている。
- D：憲法による権利保障の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそのしくみについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

予習用課題：32%、授業内課題または小テスト：28%、期末試験：40%

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新・どうなっている!?日本国憲法：憲法と社会を考える
著者名	播磨信義 [ほか] 編著
出版社	法律文化社

出版年	2016
ISBN	9784589037510
教材費	2300

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法の時間
著者名	井上典之編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641227118
教材費	1900

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8551	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

現代人権論 I

## 授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

## キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

## 到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 第1講 ガイダンス

第2講 今年の重要な最高裁判所判例を取り上げ、裁判のプロセス、判決の種類、三審制度などの基本的知識を解説する。

第3講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート1)

第4講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート2)

第5講 国民主権と権力分立(パート1)

第6講 国民主権と権力分立(パート2)

第7講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート1)

第8講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート2)、期末試験(論述)

### 【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

## 履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

## 教科書/Textbook(s)

### 教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

### 教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8552	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

現代人権論Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

## キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

## 到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1講 基本的人権の基礎付けと分類(パート1)
- 第2講 基本的人権の基礎付けと分類(パート2)
- 第3講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート1)
- 第4講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート2)
- 第5講 平等原則と新しい人権(パート1)
- 第6講 平等原則と新しい人権(パート2)
- 第7講 精神的自由(表現の自由)の優越的地位と、その他の人権の司法審査基準について
- 第8講 まとめと期末試験(論述)、授業アンケート

### 【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

### 【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

## 履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

## 教科書/Textbook(s)

### 教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

### 教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

**備考** 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8553-1Q	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

ボランティア活動

## 授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながることでしょう。この授業では、学生が自ら探した受入先でボランティア活動に従事することが主たる内容となります。そして、ボランティア活動中の様子及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された学生に対して単位を付与します。

## キーワード/Keyword(s)

ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献

## 到達目標/Learning Objectives

- 1) ボランティア活動の社会的意義を理解できる。
- 2) ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。
- 3) ボランティア活動を通じて社会や地域に関心をもち、新たな課題を発見できる。
- 4) 社会や地域における自分の役割について意識できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 1) 事前ガイダンス

ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加に当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。

### 2) ボランティア活動

自分で探したボランティア活動に合計30時間（1,800分）以上参加する。複数のボランティア活動の合計時間数が30時間（1,800分）以上であってもよい。

### 3) ボランティア活動実施報告書の提出

ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。

#### 【授業外学修】

#### ボランティア活動参加前

- 1) ボランティア先を自分で探す(自発的)。このため自分で受入先の活動内容について十分に調べる。
- 2) ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確にしておく。

#### ボランティア活動中

- 3) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識する。
- 4) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 5) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす。

## 履修上の注意/Notes

- 1) ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。
- 2) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。
- 3) 書類の提出期限を厳守すること。
- 4) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。
- 5) ボランティア活動中の他の授業や期末試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。

## 情報端末の活用

活用なし

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている
- A : 到達目標の4点について高いレベル以上で達成されている
- B : 到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている
- C : 到達目標の4点について最低限のレベル以上において達成されている
- D : 到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない

## 成績の評価方法/Grading

ボランティア活動証明書・評価報告書「40%」とボランティア活動実施報告書（レポート）「60%」で評価する。評価の観点は到達目標に記載した4点である。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書：なし
----	--------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

### PBL科目

--

### 地域志向科目

○
---

### 使用言語

日本語のみ
-------

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8554-1Q	ナンバリング	KB-GHS-121-COP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

インターンシップ実習 I

## 授業の概要/Course Overview

インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学びます。実習日誌及び報告書を提出していただきます（詳細内容は受入企業等ごとに異なります）。

## キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

## 到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望を考える基礎を理解し、身に付けることができること。  
 インターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと。  
 何をやりたいのか考え、調べ、手続きし、報告できる力を付けること。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. インターンシップの準備  
各自でインターンシップ受入先企業や官公庁を探し、手続きしてください。  
キャリアセンターでインターンシップ参加登録をしてください。  
(キャリアセンターでもインターンシップ先企業等を紹介しています。)
2. 計画書の提出  
キャリアセンターホームページに掲載されている「インターンシップ届出書兼誓約書」を各キャンパスのキャリアセンター等に提出し、その写し（コピー）を授業担当（小磯）までメール添付して送信してください。  
「事前研修（Web）」の内容を、授業担当（小磯）から返信いたします。  
キャリアセンターホームページ：http://career.admb.ibaraki.ac.jp/  
メール送信先（小磯）：shigetaka.koiso.usagi@vc.ibaraki.ac.jp  
※計画が決まっていない場合は、受入れ企業や日程等は未記入のまま、キャリアセンター提出前にメール添付して提出してください。
3. インターンシップ実施  
実習30時間（6時間×5日以上）を基本とします。複数企業への実習を合算できます。  
(1日単位のインターンシップは除外となります。)
4. 報告  
インターンシップ実施後、「実習日誌」「報告書」を提出していただきます。

#### 【授業外学修】

(1) 全体を通じて学外学修となります。自分のやりたい事を考え、受入先企業等を調べ、受入れ手続きを行い、準備し、実施し、振り返る学修を求めます。

(2) 職業について業界や企業等を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

#### 【アクティブラーニング】

(1) 受入れ先企業等の指示に従い、仕事体験型、課題解決型、ジョブシャドウ型など主体的に就業体験を行います。

(2) 自らの目的を立て、その課題を実習日誌、報告書で振り返ります。

## 履修上の注意/Notes

重要：新型コロナ感染防止のため「Web等インターンシップ」のみ履修受付とします（予定）。

（対面型インターンシップ等については担当教員まで問い合わせください）

実習30時間（6時間×5日以上）を基本に1単位となります。

受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。

インターンシップ活動中の他の授業・試験は欠席扱いとなり補講・追試験等の特別措置はありません。授業のない休日、休業期間中に実施することを推奨します。履修登録の他にキャリアセンターにてインターンシップ参加登録をしてください。

「履修登録期間」が過ぎてしまった場合、履修を取り止める場合は、クォーター期間内に共通教育センターにご連絡ください。メール (kyoyo@ml.ibaraki.ac.jp) または電話 (029-228-8415/8416)

## 情報端末の活用

事前研修及び事後報告はteamを利用する予定です。

「Web等インターンシップ」は実習先企業等の指示に従ってください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：インターンシップの基本的な知識と考え方を十分に修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

A：インターンシップの基本的な知識と考え方を修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

B：インターンシップの基本的な知識と考え方を概ね修得し、目的に沿う学外学修が経験できている。

C：インターンシップの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、目的に沿う学外学修が経験できている。

D：インターンシップの基本的な知識と考え方が修得できておらず、目的に沿う学外学修が経験できていない。

## 成績の評価方法/Grading

インターンシップ先を「探し・手続きし・実施する」状況（30%）、「実習日誌」及び「報告書」（70%）をもとに成績評価が行われます。特に、報告書にて、参加する本人が設定するインターンシップの目的に沿った実習の成果を評価します。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

○

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語のみ、その他

## 実務経験のある教員による授業科目

インターンシップ先の受け入れ企業、官公庁等により異なりますが、就業体験を通じて学びます。

## 実践的教育から構成される授業科目

学外でのインターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと、自分の将来への展望を考える基礎を身に付けることの実践的教育です。

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8555-1Q	ナンバリング	KB-GHS-121-COP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

インターンシップ実習Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

インターンシップ（就業体験）受入企業や官公庁を探し、手続きし、実施することを通じて、将来への展望や職業意識を持てるように学びます。実習日誌及び報告書を提出していただきます（詳細内容は受入企業等ごとに異なります）。

## キーワード/Keyword(s)

職業観, インターンシップ, キャリア形成, 社会人基礎力, 地域協創人材

## 到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望を考える基礎を理解し、身に付けることができること。  
 インターンシップ（就業体験）を通じて職業意識を持つこと。  
 何をやりたいのか考え、調べ、手続きし、報告できる力を付けること。  
 複数企業、官公庁等又は長期インターンシップを経験し、深く職業意識を持つこと。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

「インターンシップ実習Ⅰ」を履修した方、又は実習60時間（6時間×10日）以上を計画している方が対象となります（実習60時間以上を計画する場合は「インターンシップ実習Ⅰ」と合わせて履修してください）。

### 1. インターンシップの準備

各自でインターンシップ受入先企業や官公庁を探し、手続きしてください。  
 キャリアセンターでインターンシップ参加登録をしてください。  
 （キャリアセンターでもインターンシップ先企業等を紹介しています。）

### 2. 計画書の提出

キャリアセンターホームページに掲載されている「インターンシップ届出書兼誓約書」を各キャンパスのキャリアセンター等に提出し、その写し（コピー）を授業担当（小磯）までメール添付して送信してください。

「事前研修（Web）」の内容を、授業担当（小磯）から返信いたします。

キャリアセンターホームページ：<http://career.admb.ibaraki.ac.jp/>

メール送信先（小磯）：shigetaka.koiso.usagi@vc.ibaraki.ac.jp

※計画が決まっていない場合は、受入れ企業や日程等は未記入のまま、キャリアセンター提出前にメール添付して提出してください。

### 3. インターンシップ実施

実習30時間（6時間×5日以上）を基本とします。複数企業への実習を合算できます。

(1日単位のインターンシップは除外となります。)

#### 4. 報告

インターンシップ実施後、「実習日誌」「報告書」を提出していただきます。

##### 【授業外学修】

(1) 全体を通じて学外学修となります。自分のやりたい事を考え、受入先企業等を調べ、受入れ手続きを行い、準備し、実施し、振り返る学修を求めます。

(2) 職業について業界や企業等を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。

(3) インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

##### 【アクティブラーニング】

(1) 受入れ先企業等の指示に従い、仕事体験型、課題解決型、ジョブシャドウ型など主体的に就業体験を行います。

(2) 自らの目的を立て、その課題を実習日誌、報告書で振り返ります。

## 履修上の注意/Notes

重要：新型コロナ感染防止のため「Web等インターンシップ」のみ履修受付とします（予定）。

(対面型のインターンシップ等については担当教員まで問い合わせください)

「インターンシップ実習Ⅰ」を履修した方、又は実習60時間（6時間×10日）以上を計画している方が対象となります（実習60時間以上を計画する場合は「インターンシップ実習Ⅰ」と合わせて履修してください）。

実習30時間（6時間×5日以上）を基本に1単位となります。

受入先企業や官公庁を自ら探して手続きする必要があります。

インターンシップ活動中の他の授業・試験は欠席扱いとなり補講・追試験等の特別措置はありません。授業のない休日、休業期間中に実施することを推奨します。履修登録の他にキャリアセンターにてインターンシップ参加登録をしてください。

「履修登録期間」が過ぎてしまった場合、履修を取り止める場合は、クォーター期間内に共通教育センターにご連絡ください。メール (kyoyo@ml.ibaraki.ac.jp)または電話 (029-228-8415/8416)

## 情報端末の活用

事前研修及び事後報告はteamsを利用する予定です。

「Web等インターンシップ」は実習先企業等の指示に従ってください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：インターンシップの基本的な知識と考え方を十分に修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

A：インターンシップの基本的な知識と考え方を修得し、目的を到達する学外学修が経験できている。

B：インターンシップの基本的な知識と考え方を概ね修得し、目的に沿う学外学修が経験できている。

C：インターンシップの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、目的に沿う学外学修が経験できている。

D：インターンシップの基本的な知識と考え方が修得できておらず、目的に沿う学外学修が経験できていない。

## 成績の評価方法/Grading

インターンシップ先を「探し・手続きし・実施する」状況（30%）、「実習日誌」及び「報告書」（70%）をもとに成績評価が行われます。特に、報告書にて、参加する本人が設定するインターンシップの目的に沿った実習の成果を評価します。

## 教科書/Textbook(s)



備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8556-1Q	ナンバリング	KB-GHS-121-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	青柳 直子, 矢嶋 敬紘 (Naoko Aoyagi)				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

多様性社会に関わるボランティア活動

## 授業の概要/Course Overview

ボランティア活動を通じて様々な人々と交流することや地域社会に貢献することは、教室の中で授業を受けて得られる知識とは違った新たな知見や価値観の発見につながります。この授業は、障害者支援に関わるボランティア活動について、学生が自ら探し活動に従事することが主たる内容になります。そして、ボランティア活動中の様子及びボランティア活動の報告内容が評価に値すると判断された場合に単位を付与します。

## キーワード/Keyword(s)

障害者支援、ボランティア、NPO、非営利、地域貢献、社会貢献

## 到達目標/Learning Objectives

- 1) ボランティア活動の社会的意義について理解できる。
- 2) ボランティア活動を通じて主体性・社会性・積極性・協調性およびコミュニケーション力を身につける。
- 3) 社会や地域における自分の役割や多様な人との共生について意識できる。
- 4) ボランティア活動を通じて社会や地域における障害者支援について関心をもち、より広い視野で多様な人を理解することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

本授業の構成（必須事項）は以下の3つから成る。

#### （1）事前ガイダンス

ボランティア活動に対する単位の付与を希望する学生は、学期初めに開催する事前ガイダンスに必ず参加すること。事前ガイダンスでは、単位付与までの手続き、ボランティア活動に参加に当たっての心構え、保険加入等について説明を行う。この事前ガイダンスに出席していない学生には授業としてのボランティア活動への参加を認めない。

#### （2）ボランティア活動

自分で探した障害支援に関わるボランティア活動に合計30時間（1,800分）以上参加する。複数の障害支援に関わるボランティア活動に参加し、その合計時間数が30時間以上であってもよい。

#### （3）ボランティア活動実施報告書の提出と事後指導

ボランティア活動終了後、ボランティア活動実施報告書（レポート）を作成し提出する。提出後、報告書に基づき活動の振り返りや体験による成果の確認など、今後のステップアップを視野に入れた事後指導を行う。

### 【授業外学修】

上記授業内容における(2)のボランティア先の選択から実際のボランティア活動の全てと、(3)の実施報告書の作成が授業外学修になる。授業外学修に際しての留意点等は以下の通りである。

◎ ボランティア活動参加前

- 1) ボランティア先を自分で探す際には、自分で受入先の活動内容について十分調べる。ボランティア先の選択に困った場合は、支援先の情報提供など必要に応じて支援するので相談すること。
- 2) ボランティア活動に参加する動機やボランティア活動中に意識的に取り組みたいことを明確にしておく。
- 3) 必ずボランティア活動に関する保険に加入すること。

◎ ボランティア活動中

- 4) ボランティア先のスタッフの一員であることを常に意識し、ボランティア先での不適切な服装・態度・言動、無断欠席、遅刻は厳に慎むこと。
- 5) その日のボランティア活動終了後に毎回活動記録をつけることを勧める。
- 6) ボランティア活動中に失敗したことや注意されたことを内省し次の活動に生かす。

【アクティブラーニング】

ボランティア先の選択から実際のボランティア活動に至るまでの全てが授業外学修であると同時にアクティブラーニングに相当する。アクティブラーニングの学修効果を得るために、上記【授業外学修】における留意点として挙げた内容の実行を心がけること。

【特記事項】

新型コロナウイルス感染症流行状況等に応じて、オンラインでのボランティア活動等を認める場合がある。これらについては事前に担当教員まで問い合わせること。

## 履修上の注意/Notes

- 1) 書類の提出期限を厳守すること。
- 2) 基盤教育科目においてボランティア活動によって付与する単位の上限は1単位までとする。
- 3) ボランティア活動中の他の授業や定期試験は欠席扱いとし補講・追試験等の特別措置はない。授業のない休業期間中に実施することを推奨する。
- 4) 活動に要する交通費などの費用については、全て自己負担となる。
- 5) 活動前に「基盤教育科目・人間とコミュニケーション【1Q】バリアフリー・アクセシビリティ支援入門」(担当教員：矢嶋 敬紘)の授業を履修することを推奨する。
- 6) 新型コロナウイルス感染症対策に留意した活動計画のもと、ボランティア活動を行うこと。

## 情報端末の活用

- ・新型コロナウイルス感染症の流行状況等によっては、事前ガイダンス及び事後指導はMicrosoft Teamsにて、ウェブカメラ及びマイク等を利用し、同時双方向型オンラインで行う場合がある。
- ・オンラインボランティア活動を行う場合は、受入先施設等の指示に従い情報端末等を活用すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに到達目標1)-4)について十分に説明できている。
- A : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を修得し、さらに到達目標1)-4)について適切に説明できている。
- B : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに到達目標1)-4)について概ね説明できている。
- C : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに到達目標1)-4)について最低限説明できている。
- D : ボランティア活動に関わる基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに到達目標1)-4)について説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

ボランティア活動実施報告書に基づき評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語

## 実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士の資格を持ち、ボランティアに関わる経験を有する教員等の指導のもと、ボランティアについての実習を行う。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8557	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 敏弘（Toshihiro KATO）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アスリートの世界～鹿島アントラーズとの提携を通して～

## 授業の概要/Course Overview

スポーツの魅力に迫り、それを支えるアスリートたちの世界を紹介する。

アスリートがおかれている現状を把握し、その栄光の陰でさまざまな努力と苦労を重ねている様子を実際のアスリートたちの証言を元にとらえる。

その上で、アスリートの自覚と責任について考察し、サポーターとしての在り方についても議論する。

## キーワード/Keyword(s)

スポーツ報道、サポーター、スポーツマネジメント、コーチング

## 到達目標/Learning Objectives

新聞やテレビで毎日取り上げられるスポーツについて、その実態をアスリートの立場から考察することができる。

その上で、日本のスポーツがおかれている現状を正しく理解し、各自のスポーツとの関わりについて主体的に考察することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. スポーツとは何か？（シラバスを用いたガイダンス）（加藤敏弘）
  - スポーツの語源から明治期に日本にスポーツが流入してきた経緯を辿り、現在の日本のスポーツに対する誤解を探る
2. 世界のスポーツ観と日本のスポーツの現状（加藤敏弘）
  - 各国の育成年代のスポーツ指導の調査結果を踏まえ、日本のスポーツが抱えている諸問題を理解する。
3. アスリートをとりまく環境（加藤敏弘）
4. アスリートの光と陰（土倉幸司）
5. アスリートの役割とその後（土倉幸司）
6. サポーターの役割とスポーツマネジメント（土倉幸司）
  - 鹿島サッカースタジアムにて、マーケティングの観点から実際のゲーム運営を探り、アスリートがおかれている環境やサポーターの役割について現地調査を踏まえて理解する。
7. コーチングの世界（加藤敏弘）
  - アスリートを支える最新のコーチングの基本を学び、過去に受けてきたスポーツ指導との差異を学ぶ。
8. 日本のスポーツのこれから（加藤敏弘）
  - 授業全体を踏まえて、日本のスポーツのこれからのについて議論し、自分の考えをまとめる。

### 【授業外学修】

- （1）鹿島アントラーズの戦績を調査し、試合観戦に向けて事前に情報を収集する
- （2）現地調査の結果を小レポートにまとめる。
- （3）日本のスポーツのこれからのについて、授業や議論を踏まえて、スポーツニュースやインターネットを通じて情報を収集し、総合レポー

トにまとめる。

(4) 各回の授業外学修に要する時間は90分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1・2・7・8回は、学内講師による対面での講義。

(2) 第3～6回は、学外施設にて、対面で実地調査を行うフィールドワークである。

## 履修上の注意/Notes

(1) 鹿島アントラーズと本学の提携を通して、他種多様なケースを把握するために、学外での授業がある。

(2) 現地での弁当が必要となる。

(3) バスでの移動中、DVDの視聴と解説を伴う授業があるので遅刻は厳禁。

(4) 研究室：人文社会科学部A棟502、オフィスアワー：前期水昼休み、後期金3

## 情報端末の活用

講義資料はmanabaで事前配信するので、毎回の授業時にはP Cを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+	: 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	: 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	: 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	: 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	: 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

- ・議論への取り組み：30点／小レポート：30点／総合レポート：40点
- ・8回目に期末試験は実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

○

## 地域志向科目

○

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

・株式会社鹿島アントラーズFCスタジアム事業部の土倉幸司氏が、その経歴・経験を活かして、アスリートをめぐるさまざまな今日的な課題について講義し、鹿島アントラーズFCのホームゲームを観戦することによって、コーチングスタッフや運営スタッフの動きやサポーターの役割など、ゲームを支える人々への理解を深める。

## 実践的教育から構成される授業科目

・茨城県立鹿島サッカースタジアムに向いて、指定管理者制度に基づいて管理・運営を委託されている株式会社鹿島アントラーズFCの担当者から、アスリートをめぐるさまざまな今日的な課題について講義を受け、実際にスタジアム内を見学し、質疑応答を通して、実践的な教育を行う。

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB8558	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アントレプレナーシップ入門Ⅲ

## 授業の概要/Course Overview

アントレプレナーシップ入門Ⅰで学んだアントレプレナー/イントレプレナーに必要な資質・能力、入門Ⅱで学んだイノベーションを基に、入門Ⅲでは営利、非営利を問わず、実現したい社会像や具体的な社会課題解決について考えていく。グループ毎に、実現したい社会像や解決したい社会課題、創出したいイノベーションについて、参考となる先行事例なども踏まえてアイデアをまとめ、企画書を書き、プレゼンテーションを行う。このことで、あるべき社会や社会課題を俯瞰的に捉え、その解決に向けて企画立案するプロセスを体感し、企画書の書き方を学ぶ。

## キーワード/Keyword(s)

ミッション、社会課題解決、イノベーション、アントレプレナーシップ、チャレンジ精神、リーダーシップ、企画立案、企画書作成、プレゼンテーション

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) 実現したい社会像や解決したい社会課題とその理由について、自分の言葉で説明できる。
- (2) 企画書作成のために重要なポイントを理解し、作成できるようになる。
- (3) 論理立てた、説得力のあるプレゼンテーションができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、実現したい社会像と今日の社会課題、について  
 第2回：実現したい社会像と解決したい社会課題、創出したいイノベーションについての検討と企画書作成（グループワーク）  
 第3回：アントレプレナーの先行事例研究（外部講師による講義）  
 第4回：先行事例のふりかえり、企画書の再検討（グループワーク）  
 第5回：企画書の再検討と中間発表（グループワーク）  
 第6回：企画書の再検討とプレゼンテーション準備（グループワーク）  
 第7回：プレゼンテーション（グループ単位）  
 第8回：授業のまとめ（45分）

### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。
- ・気になる社会課題、アントレプレナー/イントレプレナーやそのイノベーションについて、各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。
- ・先行事例については事前にアナウンスをするので、各自その事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考えておくこと。

### 【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1、2、4、5、6、8回は、それまでの学修内容に基づきグループワークによる話し合いを行い、第5回目で中間発表、第7回目で、最終プレゼンテーションを行う。

(2) 第3回は、前半を外部講師による講義、後半を質疑応答として、インタラクティブな授業とする。

## 履修上の注意/Notes

アントレプレナーシップ入門Ⅰ及びⅡを履修済みであること。

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

最終レポートについては、manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。

A：到達目標の3点を高いレベルで達成している。

B：到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。

C：到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D：到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

グループワークへの貢献度（70%）、最終レポート（30%）とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる
著者名	山崎亮著
出版社	学芸出版社
出版年	2011
ISBN	4761512865
教材費	1980

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input checked="" type="radio"/>

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8559	ナンバリング	KB-GHS-131-COE,ENT	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	武田 直樹				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

アントレプレナーシップ入門Ⅲ
----------------

## 授業の概要/Course Overview

<p>アントレプレナーシップ入門Ⅰで学んだアントレプレナー/イントレプレナーに必要な資質・能力、入門Ⅱで学んだイノベーションを基に、入門Ⅲでは営利、非営利を問わず、実現したい社会像や具体的な社会課題解決について考えていく。グループ毎に、実現したい社会像や解決したい社会課題、創出したいイノベーションについて、参考となる先行事例なども踏まえてアイデアをまとめ、企画書を書き、プレゼンテーションを行う。このことで、あるべき社会や社会課題を俯瞰的に捉え、その解決に向けて企画立案するプロセスを体感し、企画書の書き方を学ぶ。</p>
--

## キーワード/Keyword(s)

<p>ミッション、社会課題解決、イノベーション、アントレプレナーシップ、チャレンジ精神、リーダーシップ、企画立案、企画書作成、プレゼンテーション</p>
--

## 到達目標/Learning Objectives

<p>(1) 実現したい社会像や解決したい社会課題とその理由について、自分の言葉で説明できる。</p> <p>(2) 企画書作成のために重要なポイントを理解し、作成できるようになる。</p> <p>(3) 論理立てた、説得力のあるプレゼンテーションができる。</p>
---

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>【授業内容】</p> <p>第1回：シラバスを用いたオリエンテーション、実現したい社会像と今日の社会課題、について</p> <p>第2回：実現したい社会像と解決したい社会課題、創出したいイノベーションについての検討と企画書作成（グループワーク）</p> <p>第3回：アントレプレナーの先行事例研究（外部講師による講義）</p> <p>第4回：先行事例のふりかえり、企画書の再検討（グループワーク）</p> <p>第5回：企画書の再検討と中間発表（グループワーク）</p> <p>第6回：企画書の再検討とプレゼンテーション準備（グループワーク）</p> <p>第7回：プレゼンテーション（グループ単位）</p> <p>第8回：授業のまとめ（45分）</p> <p>【授業外学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業外学修時間に要する時間は概ね90分を目安とする。</li> <li>・気になる社会課題、アントレプレナー/イントレプレナーやそのイノベーションについて、各自インターネット、新聞、書籍などで調べておくこと。</li> <li>・先行事例については事前にアナウンスをするので、各自その事業内容などを調べておき、当日の講義と併せて質問を考えておくこと。</li> </ul>
--

### 【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1、2、4、5、6、8回は、それまでの学修内容に基づきグループワークによる話し合いを行い、第5回目で中間発表、第7回目で、最終プレゼンテーションを行う。

(2) 第3回は、前半を外部講師による講義、後半を質疑応答として、インタラクティブな授業とする。

## 履修上の注意/Notes

アントレプレナーシップ入門Ⅰ及びⅡを履修済みであること。

遅刻は3回で欠席1回とカウントする。ただし、遅刻扱いとするのは授業開始後20分とし、それ以降の遅刻は欠席扱いとする。

## 情報端末の活用

最終レポートについては、manabaを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点を極めて高いレベルで達成している。

A：到達目標の3点を高いレベルで達成している。

B：到達目標の3点を概ねのレベルで達成している。

C：到達目標の3点を最低限のレベルで達成している。

D：到達目標の3点のうち1点以上について達成していない。

## 成績の評価方法/Grading

グループワークへの貢献度（70%）、最終レポート（30%）とで評価する。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる
著者名	山崎亮著
出版社	学芸出版社
出版年	2011
ISBN	4761512865
教材費	1980

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input checked="" type="radio"/>

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--